

14
688

經濟學

河津博士(述)

0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15

始



14-688



河
津
博
士
述

經
濟
學

(非賣品)

大正十一年度東京帝國大學新講義



經濟學 目次

第一章

經濟諸學派

第一節

經濟學派

第一節

富國論

第二節

正統學派 / 學院 / 特色

第三節

正統學派 / 學院 / 特色

第四節

正史學派

第五節

オーストリア學派

第六節

社會主義

第二章

經濟

第三章

現代 / 經濟生活

第四章

現代 / 經濟社會組織

第五章

價值

第六章

價格

經濟史之層又
(經濟學史)
系以 / 中之包マズ

一〇三 七三 四五 三七 二八 二一 一九 一三 一〇 八 一 一 一

第一節	總說	一〇三
第七章	生産要素ノ價格	一四三
第一節	地代	一四六
第二節	利子	一八〇
第八章	生産並ニ營利	二〇三
第一節	總說	二〇三
第二節	土地ノ生産力	二一〇

經濟學 目次 終

經濟學總論

河津博士述



第一章 經濟諸學派

第一節 經濟學派

第一款 富國論

經濟學ノ原理ヲ説明スルニ当リテ古未諸國ニ起リタル學派ノ對抗ヲ紹介シ置クヲ要トス、是等ノ學派ノ主張ハ根本的ニ異ナルト公認ニ經濟學ノ原理ノ説明ニツキテモ大ヒニ異ナルカ故ナリ、經濟學カ科學ノ形ヲ備フルニ至リタルハ僅カニ百數十年ノ古ニシテ Adam Smith 富國論

一〇三
一四三
一四六
一八〇
二〇三
二〇三
二一〇

quiry into the nature and causes of
 the wealth of nations (1776) 著シタルイキニ始
 ヲ Adam Smith、当時世ニ行ハレタル経済思想ニ冷静ナル批判ヲ
 加シテ経済思想ニ組織ヲ立テタルナリ、其レニツキテ又 *Malthus*、
Ricard 等ノ学者之ヲ相逐シテ大派シタルナリ、世ニ古学派、正統学
 派ト称スルモノ之レナリ、当時世ニ行ハレタル経済思想ハ彼ノ *Mercan-*
tilism ニシテ十六世紀ニ起リテ十七、十八世紀ニ没リテ諸國ノ経済思
 想並ニ経済政策ノ基礎ヲナセルモノナリ、此世、始メニ國民經濟ノ成立ス
 ルニ諸國ハ大ニ國內ノ交通ヲナルヘク自由ニアルト公認シ一方ニハ諸國
 ヲ凌駕シテ天下ノ第一國トナランコトヲ努メタリ、富國強兵論ノ盛ニ唱ヘ
 ラレタルハ之レガ為メナリ「富國策ニツキテ大觀スルトキハ國ヲ富マスノ
 道トシテ生産ノ三要素ヲ聚達セシムルコトハ今日ト異ナル所ナキモ、当時
 ハ未タ品價的ニ聚達セシムルコトヲ為サザリキ、專ラ数量的ニ聚達セシメ
 ントシタルナリ、即チ土地労働資本ヲ増加スルヲ以テ富國策ノ主眼トシタ
 ルモノナリ、諸國ハカヲ依レテ其ノ隣國ヲ蚕食シテ領土ヲ擴張スルト共ニ

植民地ヲ設ケタリ、其ノ地ヲ設ケルマ、勿論本國ノ利益ヲ進ムレヲ主
 眼トシテ植民地自身ノ利益ノコトハ毫モ顧ミザリキ、又其ノ國ノ労働力ヲ
 増加スルタメニ種々ノ方法ヲ講シテ銀行ノ増加ヲ計レリ、当時、資本、貨
 枚、貨幣ノ區別明白ナラザリシヲ以テ、貨幣ト資本トヲ全一視シテ其ノ國
 ノ貨幣ノ数量ヲ増加スルニミカヲ尽セリ、諸國ハ本國並ニ植民地ノ鉱山
 ヲ採掘シテ金銀貨幣ヲ鑄造スルタメニ、其ノ國ニシテ鉱山ノ少ナキモノハ
 外國貿易ニ依リテ其ノ目的ヲ達セントシタリ、輸出多ク輸入少キハ自ラ貨
 幣ヲ多ク輸入スレトシテ得レガ故ニ輸出ヲ奨励シ輸入ヲ防害シタルナリ、
 輸出カ輸入ニ超過スルトキハ貿易順ナリト云ヒ之ニ反スレバ貿易逆ナリト
 云フナリ、貿易ノ順逆ニ重キヲ置クハ畢竟ナルヘク多ク外國ヨリ貨幣ヲ輸
 入セントメルニアル故此ノ思想カ衰シテ工業ヲ偏重スル思想トナレリ、即
 チ貨幣ヲ多ク輸入スルニハ或レハク價格高キモノヲ輸出シテ價格ノ低キモノ
 ノヲ輸出スヘカラス、工業品ノ輸出ヲ喜ビテ農産物ノ輸出ヲ忌ミタルハ之
 レカタメナリ、其ノ結果農業ニ重キヲ置カズ独リ工業ヲ聚達セシメントシ
 タリ、自由農業ノ進行ニカヲ用フルハ勿論工業品ノ輸入ヲ抑ヘ、若シクハ

重商主義

士レヲ禁止シ及ヒ外國ヨリ工業並ニ其ノ技術ヲ移殖スルニトニ努メタルナリ

重商主義ノ骨子トスル所ハ上述ノ如ク商工業ヲ偏重セシコト、貨幣ヲ偏重シタルコトニシテ國家ハ此ノ考ヘニ基キテ國民ノ經濟生活ニ于テ步シテ重商マサントセシナリ、故ニコノ思想ニ對スル反動ハ以上ノ三點ニ付キ起ラサルヲ俾サルナリ、商工業偏重ニ對シテハ先ツ佛蘭西ニ於テ重農學派 *Physiocrates* 起リ来レリ、重農學派ハ *Quemay* ニ依リテ起サレタルモノニシテ、一七五八年 *Jablou Lecornique* 等ニ於テ國ヲ富スノ基ハ農業耶ヲ自然ノ利用ニアリトシ、其ノ目的ヲ達スルカ為メニハ國家ハ國民ノ經濟生活ニ干渉スヘキモノニハアラス、國民ヲシテ其ノ母國ニ從ヒテ行動セシメサルヘカラストカ説セシナリ、*Adam Smith* ハ重農學派ノ學者ノ如クニ個人ノ自由行動ヲ力説スレト全時ニ國ヲ富マスノ根本ハ國民ノ勞動ニアリトナシテ金銀貨幣偏重ノ思想ヲ排斥スレト共ニ農業ヲ偏重スル主義ヲモ排斥セシナリ *Adam Smith* 曰ク勞動ハ價格ノ源泉ナリ故ニ國民ニシテ能ク勞動ヲ利用セハ其ノ國ハ自ラ富

ム可シ、自然ニシテ豊富ナリトモ、資本ニシテ潤沢ナリトモ勞動ニヨリテ之ヲ利用セサレ間ハ國ヲ富マスコト歎ハス、故ニカ勞動ヲ利用スルニ當リテ曰ク其ノ効果ノ多カルコトニ注意セサルヘカラス、經濟ノ發達ハ最小ノ勞動並ニ費用ヲ以テ最大ノ效果ヲ擧グルニアリ、吾人ハ通常生活ニ於テハ其ノ經濟行為ハ利己心ニヨリテ行ハルヘキモノナリ、故ニ之ク勞動並ニ費用ヲ少クシテ以テ其ノ目的ヲ達セントスルモノナリ、吾人カ經濟生活ヲ営ムニ當リテ原則トシテ利己心ニヨルモノナリトセハ社會ニハ紛争絶ヘスニテ當感円満ニ共同生活ヲナスコト難ハキルカ如ク思ハル、モ其ノ實ハ然ラズ、却ツテ円満ナル共同生活ヲ営ムコトヲ得ルモノナリ、何トナレハ吾人カ悉ク利己心ニヨリテ經濟行為ヲナスモノトセハ自由競争ヲ生スヤシ、其ノ結果ハ社會階級ノ間ニ利益ノ調和ヲ見ル可シ、例ハ消費者ト生産者又ハ商人トノ間ニハ利益ノ衝突アルカ如ク考ヘラレモ消費者ハ欲ル可ク廉價ニ取極ムル生産者若クハ商人ヲ求メテ必需品ヲ得ントスルモノナレハ自ラ生産者又ハ商人ヲシテ暴利ヲ貪ルヲ許サズ、此ノ結果ハ價格ハ生産費ト相當ノ利益トヲ加ヘタルモノヲ標準トシテ決定セラレ、ニ至ル可シ、即チ生

生産者又ハ商人トモ々々消費者トノ間ニ利益ノ調和ヲ見ル可シ、生産者相互ノ
 關係モ之ト全ク或ル生産者ニシテ其ノ生産ニ依リテ他ニ比較シテ多クノ
 利潤ヲ得ルトモ其ノ生産ヲ爲サントスルモノ相違イテ其ノ生産ニ利潤ヲ
 相当ノ程度ニ留マラシムルコトヲ得可シ、之ニ反シテ其ノ生産ニシテ他ノ
 生産ニ比較シテ利潤少キトモ其ノ生産ニ從事スル者ノ数ヲ減少セシムヘ
 シ、其ノ結果ハ其ノ生産ヨリ生スル利潤ヲ相当ノ程度ニマテ回復セシムヘ
 シ、即チ社会階級ノ間ニハ利益ノ衝突アルカ如ク見ユルモ其ノ利益ノ調和
 ヲ見ルヘキモノナリ、要スルニ自心ニ自由競争ヲ起シ、自由競争ハ國民
 ラシテ円満ニ経済生活ヲ営マシムルコトヲ得可シ、此ノ事ニシテ誤リナシ
 トセンカ、國家ハ國民ノ経済生活ニ干渉スルヲ必要トス、之ヲシテ好ム所
 ニ或ヒテ生活セシムルハ可ナリ、此ノ学派、着カ自由放任 (Laissez
 faire) 唱アル趣意ハ今述ヘンガ如キモノナリ、國家ノ自由放任主義ハ
 獨リ國家ノ國民相互之間ニ於テ適當ナルノミナラス諸國間ノ貿易ニモキテモ
 適當ナリ、何トナレハ國民ヲシテ其ノ利益ニ基キテ貨財ヲ求メシムルト
 ナハ必ズ價格ノ廉價ナル所ニワキテ之ヲ求ム可シ、蓋シニ國民生活ヲシテ

労働富道

英人著
漢文

Adam Smith

最も少ナカラレハ、ミナラスは國民ハ價格ノ最も廉ニシテ最も適當ナル
 生産ニ力ヲ注クヘキカ故ニ諸國ノ生産ヲシテ最も合理ナルコトヲ得可シ、
 是ハ個人ヨリ見ルモ経済社会ヨリ見ルモ最も利益ナリ、然ルニ重商主義ニ
 於ケルカ如ク國家ニシテ輸稅等ニヨリテ外國品ノ輸入ヲ妨ゲテ内國生産ヲ
 保護セントスルトキハ國家ヨリ保護ノ恩典ニ浴シケルモ、ハ利益ヲ得バケ
 レトモ其ノ他ハ甚ク害ヲ被ケサルヘカラス、而モ國家カ斯ノ如キ保護ヲ爲
 ス所以ハ金銀貨幣ヲ得ンカタメナリ、貨幣ハ交換ノ媒介ニメキサルモノナ
 リ故ニ各國民ハ自由貿易ニ依ラサル可ラサルモノナリ、
 ハ労働ヲ富ノ基本トシテ一切ノ経済現象ヲ説明シ自由放任主義ヲ力説
 セシモノナリ、*Reveries* 等其ノ態度モ大体ニ於テ之ニ異ナラス、而
 シテ此ノ学派ノ経済現象ヲ説明スルニ當リテハ常ニ演義法ヲ用フルナリ、
 経済学ノ如キ社会科学ヲ研究スルニ演義法ノミ用ユルコトハ正シカラサル
 コトハ明瞭ナラサルベカラザルモ此ノ学派ノ者ハ此ノ方法ニ依リテ経済法
 則ヲ研究セントセルナリ、

Adam Smith

第二款

正當學派ノ學說ノ特色

八

(一) 正當學派ノ學說ヲ見ルニ次ノ如キ特色アルヲ知ル

上述ノ如ク國家カ國民ノ經濟生活ニ干渉スルコトヲ否認スルノミナラズ
國家ノ行動ハ國民ノナスコトヲミニ限ラレテ而モ國民ノ行動ヲ阻害スル
モノヲ除去スルコトニ限ラサルコトヲ明説セリ

(二) ハ樂觀的ナルコトナリ

上述ノ如ク社會階級間ノ利害ノ調和ヲ説キ更ニ各國ガ自由貿易制度ヲ採
用スルモ各國ハ其ノ長ヌル生産ヲ發達セシメテ國際分業ヲ行フ故モ憂
フルニ足ラズトナスガ如キハ其ノ証據トナスヲ得

(三) ハ抽象的ナルコトナリ

自然科學ニ於ケルガ如クニ世界ヲ通シテ劃一的ノ經濟法則存在スルモノ
ニシテ國民性經濟發達ノ程度、其ノ他社會發達ノ事情ニ依リテ異レル經濟
法則ノ並ヒ存セルコトヲ信セズ

從テ經濟法則ヲ發見セハ此ヲアラユル社會ニ適用スルコトヲ得ルモノ
ナリトセリ

(四) ハ物的主義ナルコトナリ

社會ヲ構成スル人類ヲシテ精神的ニ幸福ナラシムルコトハ重キヲ置カズ
生産ヲ發達シ物質生活ヲ向上セシムルヲ以テ社會理想トナセルカ如
シ

(五) ハ資本主義的ナルコトナリ

生産技術ノ發達、生産額ノ増加、生産費ノ減少ニ重キヲ置クノ結果トシ
テ社會階級間ニ貧富ノ懸隔ヲ生シ貧者ノ生活ハ憐ムヘキモノアリトスル
モ之レハ止ムヲ得ヌトナスカ如キハ其ノ証據トナスヲ得ヘシト思ハル、
此ノ學派學說ハ極メテ簡明ナルノミナラス國家萬能主義ニ對スル反對ト
シテ諸國ニ漸ク影響トナリタル自由思想或ハ個人主義ニ合致シテ一面ニ
ハ國民ヲ刺激シテ其ノ本能ニ應ジテ熱心ニ生産ニ從事セシムルヲ以テ經濟ノ
着大ナル發展ヲ促セリ、且ツ其ノ自由貿易論ハ英吉利ノ經濟諸國ニ先
ンヅテ進カニ發達セシコトハ相俟テ一併ハ世双諸國ヲシテ其ノ真理ナル

九

コトヲ悟セシメタリ、

第三款 正統學派ノ學說ノ欠矣

理論上ヨリ考察スルトキハ其ノ學說中ニハ數多ノ欠點アルヲ免レス、其
 主ナルモノヲ舉ケレバ次ノ如シ

(一) ハ経済学ノ如キ社会科学ノ研究スル社会現象ハ國民性經濟發展ノ程度
 等數多ノ社会事情カ結ハレテ現レ未タレモノテアリ又變化スルモノナル
 故依令全一ノ原因アリトモ決シテ常ニ全一ノ結果ヲ生スルモノニハ非ス
 然レニ正当學派ノ學者ハ演義法ニヨリテ或ル前提ヲ據ケテ之ヲ演義シテ
 結論ヲ出スモノナル故ニ實際ニ於テ影響ヲ及ボスヘキ社会事情等ハ一切
 之レヲ考慮セサレナリ、從ツテ其ノ理論ハ明林ナレトモ其ノ結論ハ實際
 ニ生スルモノトハ相去ルコト遠キ場合少ナカラズ、殊ニ國情ノ相異時世
 ノ變化等ヲ無視シテ東西ニ渡リ古今ニ通シテ劃一的經濟法則カ行ハレ居
 ルモノナリト断シタレカ如キハ誤謬ナリト云フヲ得

然レニ歴史學派學者カ社会科学ノ研究法トシテ演義法ヲ排斥シテ嚴密
 法ヲ奉ケタル所以ナリ

(二) 此ノ學派ハ國內ニ於テモ亦國際間ニ於テモ何人ヲシテ自由ニ活動
 セシムル等ハ其ノ能力ヲ察擇セシムルコトヲ得テ社会階級等ノ利益ノ衝
 突モナク又弱者ハ強者ノタメニ苦シメラレ、強國ハ弱國ノタメニ苦シメ
 ラル、コトナント断スルモノナリ、事實ニ違ハリ、自由競争カ善良ナル
 結果ヲ生スルハ競争ニ如ハルモノハ社会ノ事情ニ通シテ十分ニ其ノ利益
 ヲ守ルコトヲ得ルニミナラス競争者ノ力カ甚タシキ差違ナヤコトヲ必要
 トスルナリ、然ラサレバ自由競争ハ優勝劣敗ノ弱肉強食等ノ結果ヲ見ル
 誤ナリ、決シテ階級スルコトヲ許サズナリ

取ニ社会階級等ノ間ニ於テ利益ノ調和ヲ見ルコト難ク、國際間ニ於テ
 モ利益衝突少ナカラサルモノナリトセバ個人ノ力ニテハ列表シテ防止ス
 ルコト難ハヌ、強カニシテ個人ノ利益を越スル國家カ其ノ力ヲ以テ其ノ
 利益ノ衝突ヲ防ギ、少クトモ之レヲ緩和セサルヘカラサレナリ、國家ノ
 活動ノ範圍広クシテ國民ノ活動範圍甚々狭ク國民カ其ノ力ニ依リテ活動

正統学派ノ如クニ国家ノ力ヲ否定シ個人主義ヲ眞理トナスハ誤謬ナリト
 云ハサルヘカラス、殊ニ経済社会ニ於テハ既ニ経済ノ牽連スルニ伴ヒテ
 貧富ノ懸隔起リ来ルモノナリ、経済力強キ者カ弱キ者ヲ壓シテ社会ヲシ
 テ分裂セシメントスル危險ナル以上ハ之ヲ放任スルコト益ハサルモノナ
 リ、加之外國ノ経済ニレテ已ニ相当ノ牽連ヲ遂ゲテ外國ヨリ競争ヲ受ク
 ルトモ外國ノ経済ノ牽連ニ障碍ヲ来サシムル場合ハ兎ニ角外國ノ経済力未
 タ其ノ強ニ達セズ然テ経済ノ牽連スルコト困難ナリ、斯ノ如キ場合ニ於
 テハ外國ハ自衛上相当ノ方策ヲ取ラサルヘカラスハ明白ナリ、正統学
 派ノ自由放任主義ハ此ノ點ニ於テモ大ナル誤謬アリト云フヲ得、
 (三)ニハ経済学ハ経済社会ノ円満ナル牽連ヲ目的トスル以上ハ独リ物質的
 進歩ノミヲ希望スヘキモノニハ非ズ、然レニ正統学派カ経済学ヲ人々
 ト自然界トノ關係ヲ研究スルモノ、如クニナセルハ誤謬ナリ、社会ノ物
 質的進歩ヲ整ク見ルヘキモノニ非サレド経済社会ヲ構成スルモノ、物質
 精神両方面ニ渡リテ幸福ヲ増進スルコトヲ理想トスルモノナラサルヘカ
 ラス、物質主義ニミ傾ケルハ誤謬ト云ハサルヘカラス

第二節 歴史学派

正統学派ハ一時諸國ヲ風靡シタルモノナレトモ之レカ反動ノ生スルコト
 ハ当然ナリ、其ノ反動トシテハ獨乙ニ起リタル歴史学派ヲ挙ケルコトヲ得、
 歴史学派ノ先驅ヲナセルモノハ Friedrich List ナリ、
 List ハ正統学派ノ自由貿易論ニ反対シテ國民經濟ノ牽連ノ狀況ニヨリ
 テ保護貿易政策ヲ取ラサル可カラサルモノナレトコトヲ力説セリ、即チ「
 四十年 Das nationale System der Paläarktische öko-
 nomie」ヲ著シテ經濟政策ハ正統学派ノ主張スレ如ク東西ニ及リ古今
 ニ通シテ劃一的ナルモノニアラズ、其ノ國ノ經濟ノ牽連段階ニ應ジテ之ヲ
 定メサルヘカラスモノナリ、然ラズンバ英國ノ經濟ヲ牽連セシムルコト最
 ハス、國民經濟ノ立場ヨリ云ヘハ生産力其ノモノハ現在生産ヲセラレ居
 ル貨財ノ多少ヨリモ重キヲ置カザルバカラズ、正統学派ノ説ケルカ如ク各

国力最モ強盛ニ生長スルコトヲ得ルモノニ其ノ國ノ資本労働ヲ注キテ國際
 分業ヲ行フハ生産額其ノモリヨリ云ハズ得策ナレドモ其ノ國ノ生産力ヲ養
 ヒテ國民經濟ヲ牽連セシムルコトハ困難ナリ、國民經濟牽連ノ順序ハ漁保
 牧畜時代ヲ經テ農業時代トナリ、更ニ農工業時代ニ進ミ、農工商時代トナ
 リテ繼メテ先歐スレモノナリ、農業時代マデハ外國ノ競争スルニ足ル工業
 存在セサルカ故ニ保護貿易政策ヲ採用スルニ必至ハ然キモ農工業時代トナリ
 テハ既ニ幼稚ナル工業カ起リ居ルカ故ニ之ヲ保護シテ牽連セシメサレバ外
 國工業ノタメニ圧倒セラレテ牽連セシムルコトヲ得ズ、其ノ結果ハ永久ニ
 農工商時代ニ進ムコト能ハス、而シ其ノ國ノ經濟力進歩シテ農工商時代
 トナラハ外國ノ競争ノタメニ圧倒セラレ、コトナキガ故ニ再び自由貿易主
 義ニ傾ルカ得策ナリ、現ニ英國ハコノ段階ヲ經未リタルモノニシテ農工業
 時代ニアリタル時ハ和蘭等ノ工業ノ為メニ若マザルヘカラザリシカハ保護
 貿易政策ヲ取りタルモノニシテ産業革命以來ノ農工商時代ニ入りシヨリハ
 自由貿易制度ニ傾リシハ故ニ誤リナカリシナリ、然ルニ亦々農工業時代ニ
 入ル國カ故カニ其ノ例ニ倣ヒテ自由貿易主義ニナルモノニアラズ、即チ經

濟政策ハ國ニヨリテ異ナラサルヘカラス、勿論時代ニヨリテモ異ナラサル
 ヘカラザルコトヲ力説セリナリ、正当學派ノ劃一的經濟法則ノ存在ヲ否定
 セルノミナラズ但人主義的經濟觀ヲ排斥シテ國民經濟ノ見地ヨリシテ一切
 ノ經濟現象ヲ觀察シテ批判セサレバカラズト云フコトハ然ラズ國家ハ國民經
 濟ノ牽連ノタメニハ國民ノ經濟生活ニ干渉スルモ妨ゲナキコトヲ力説セリ
 ナリ、
Witt、著、^創出版セラレタル當時ハ尙ホ諸國ノ經濟組織ヲ動かスニ
 至ラザリシモ諸國ガ相率ヒテ自由貿易ニ進マントスルマ直ニ英吉利ノ工
 業ノタメニ自國ノ工業等カ勸カラス障礙ヲ設スルニ至リタル故ナリ、
 說ニ從ハントスル者漸次増加スレニ至リシナリ、*Witt*ノ學說ヲ襲ヒテ其
 レニ從ヒテ縱横ニ正統學派ノ學說ニ批判ヲ加ヘ、今時ニ在リテ事實ニ重キヲ
 置キテ經濟學ヲ根柢ヨリ改造スルニ至リシハ*Roscher*ノ法ト云ハサル
 可カラス

Roscher. Grundriss zur Vorlesung über die Staatstheorie nach geschichtlichem

methode (メソッド) ト云フ本ガ其ノ後継メノモノナリ、其ノ後
ニ Roscher ノ 經濟學論カ是レニ敷衍シテ正史學派ノ學說ノ根柢ヲ作
レリ、獨逸諸學派ノ是ニ依ヒ英國諸學者ノ學說ヲ徹底的ニ批評シ極力之ヲ
批難セリ此ノ學派ヲ獨乙學派トモ文學派トモ称スルナリ、

一、歴史學說ノ特色

正史學派ノ學說ノ特色トスヘキ點ハ

- (1)、經濟學ノ研究トシテハ先ヅ正史的ニ事實考究調査ニカヲ用ヒテ之ニ
ヨリテ得タル所ヲ根據シテ經濟法則ヲ知り之レニ依リテアラエル經濟
問題ヲ解決セントスルモノナリ、
- (2)、ニハ諸國ヲ通シテ劃一的經濟法則ノ存在スレコトヲ否決シテ極メテ
限定セラレタル地域内ニ於ケル限定セラレタル問題ニツキテ正確ニ經
濟法則ヲ発見シテ其ノ結果ニ基キテ哲學心理學其ノ他ノ科學ノカヲ借
リテ人類ノ經濟行爲並ニ社會ノ實情ヲ研究スレナリ、
- (3)、ニハ經濟政策ニツキテハ正統學派ノ如ク自由放任主義ヲ排斥シテ相

當國家ハ國民ノ經濟生活ヲ干涉シテ其ノ力ノ及ラサル所ヲ補ヒテ以テ
國民ヲシテ内滿ニ共同生活ヲ行ヒ國民經濟ヲシテ内滿ニ發達セシメン
コトヲ期セルナリ、即チ之ヲ行フ爲メニハ公益ト私益トカ衝突シ若シ
クハ社會階級間ニ利益ノ衝突アル場合ニハ國家ハ公益ヲ擁護スル爲メニ
國內ノ經濟生活ニ干渉スヘキモノナルコトヲ力説セリ

此ノ學派ノ學說ノ欠點トモ林スヘキ所ヲ擧ゲレバ
(一)、ハ此ノ學派ノモノハ經濟政策ニ重キヲ置ケドモ經濟ノ理論ニハ自ら
重キヲ置カサルナリ、勿論正確ナル材料ニ基キテ之レヲ根據シテ經
濟法則ヲ発見セシコトハ頗ル危險ニシテ之レヲ避ケザル可カラサルモ
ノナレトモ極メテ極限セラレタル事實ニ基キテ其ノ真相ヲ知り得タリ
トスルモ之ニ基キテ經濟法則ヲ作ルコトハ極メテ困難ナルコトナリ、
從ヒテ正史ノ事實ヲ集メテ之レヲ調査研究シタル結果ハ極メテ極限セ
ラレタル事實ノ真相ヲ知ルニ當リテ之ニ依リテ極メテ不鮮明ニ經濟現
象ヲ説明スルニ逼キサル場合甚々多シ、此ノ學派ノ説明力勤モスレバ
經濟史實ノ説明ニスギザルコトアルハ之レガ爲メナリト云フコトヲ得、

故ニコノ学氷ニ対スルモノハ此ノ学氷ニ属スルモノガ数多ノ材料ヲ集ムルモノニテラサル限リハ経済法則ヲセツルコト能ハスト攻撃セルモナリ

(二)ニハ此ノ学氷ノ経済政策ニ対スル態度モ亦其ノ固ニ対スル経済事實ヲ研究セル上便宜ノ政策ヲ取ルヘキコトヲ主張セルモ其ノ所謂便宜ナル経済政策ノ標準ハ極メテ不明ニテ常識ニ依ルコト決シテ擧ナカラス、換吉スレバ、前ニハ極メテ嚴峻ナル政策ヲ主張スルニ拘ラス後ニハ寛大ナル政策ヲ主張スルコトアリ、要ハ機械主義ナリト称スルコトヲ得、然テ其ノ問題ヲ解決スルメニ材料等ノ蒐集ニカヲ用ヒタルニ比シ其ノ結論甚々薄弱ナル場合少ナカラズ、蓋シ政策ヲ決スルニ深淵ナル理想精神ヲ欠ケルガタメナリ、

二、歴史学氷ノ経済学ニ対スル貢献

是等ノ欠矣ナルニモ拘ラズ此ノ学氷ニ属スルモノ甚々多ク而カモカヲ悉シテ研究セルガ故ニ経済ノ察達ニ貢献スル所頗ル多ク経済学ノ今日

マル所ハ実ニ全学氷ノカナリト云フコトヲ得、殊ニ経済学理ト實際トノ連繫、如キハ全学氷ノ研究ニ貢フ所少ナカラスト云フコトヲ得、

第三節 オーストリア学氷

正史学氷ノ学者カ理論ノ研究ニカヲ用ヒザル所ヲ解シテ起レルカ *Aut-
hria* 学氷ナリ、即チ *Grundgesetze der Volkswirtschaftslehre* ヲ著シテ経済学ニ一生面ヲ開ケルナリ、其ノ主張セル所ハ正史学氷ノ学者ハ正史ヲ研究シ社会事情ヲ研究スルニテラサレバ、多ク、経済生活ヲ支配スル経済法則ヲ知ルコト難ハスト論ストモ、然レバ、經濟生活ヲ行フ本源ニ溯ラバ畢竟、其ノ心理作用ニ外ナラズ

經濟生活ノ本源ニテ斯ク、如キモノナリトセハ必ズレモ正史等ニウキテ研究ヲサズトモ経済法則ヲ心理的ニ研究スルコトヲ得可シト云フナリ、其ノ研究ヲシテ進ムコトヲ得ズ、時ノ法則ヲ超越シテ経済法則ヲ明ニ

スルヲ得サレバカワズ、而シテ学派ノ着ハ経済学ノ研究方法トシテ正統学
派ノモノカ漢法ニ依リテ在史学派ノ着ガ収納法ニ依レルヲ折衷シテ二者
ヲ併有セサルヘカラサルコトヲ主張セリ、*Austrian* ノモノハ経済政
策等ニツキテ研究セサルニアラザレドモ在史学派ガ理論、研究ニカフ用ヒ
ザルヲ解シテ起リ来レルモノナレバ其ノ主カヲ注グ所ハ理論ノ考究ニテ
トコフヲ得

在史学派ノ学者ガ正当学派ノ学説ヲ破壊スレバメニカヲ思ヌニ及シ寧ロ
之ヲ擁護スル態度ヲトリテ正統学派ノ主張スル所ヲ勝正シテ之ヲ維持セン
コトヲ期セルナリ、経済現象ハ凶凶ノ学者カ主張スレカ如ク一面ニ於テハ
心理現象ナリト云フコトヲ得、然レ此ノ方面ノ考究カ経済学ノ牽連ヲ助ケ
タルハ疑ナキモ候令此ノ方面ノ研究大ニ進歩スルモ経済現象ヲ説明シテ遺
憾ナキコトヲ得レバハ今尚木疑問ナリト云ハサルヘカラサルナリ

第四節 社会主義

正統学派ノ学者カ現代ノ極端社会組織ヲ認メ個人ヲシテ自由ニ活動セン
ムヘキコトヲ主張セシモ上ニモ速ヘシカ如ク自由競争ヲシテ有ユルモノヲ
シテ幸福ナラシムレモノニハアラズ優勝劣敗ノ結果ヲ生スルモノナレハ極
端社会ニ於テモ貧富ノ懸隔ヲ生シ経済力ノ弱キモノハ悲慘ナル状態ニ陥ラ
サレヲ得サレナリ、斯ノ如キハ現代極端社会組織ノ欠陥ナリ、殊ニ私有財
産制度並ニ相続権ノ制度カ此ノ弊ヲナシタルモノトシテ現代ノ極端社会
組織ニ最良ナル批判ヲ下シテ之ヲ破壊シテ新ラシキ社会組織ヲ起サントス
ルモノナリ、之ヲ社会主義並ニ是レニ類似ノ主張ナリ、是等ノモノヲ正史
学派ノ如クニ経済学派ノ一トシテ擧ケルコトノ正シキヤ否ヤハ疑ヒアレト
モ経済学ハ是等ノモノ、主張ニヨリテ大イナル変化ヲ生ズヘキコトハ明カ
ナレバ此等ニハ学派ノ一トシテ掲グギン

殊ニ *Karl Marx* 等所謂科学的社会主义者ノ所論ハ正統学者ノ学
説ニ殆殆シテ科学的ニ論陣ヲ張レルモノナレハ是レヲ此等ニ擧ケルモ必ス
シモ不適當ナラズ、社会主義其ノモノニツキテハ後ニ詳論セント思フモ此
所ニハ如何ニシテ此ノ種ノ学説カ起リ来リシカヲ説明セン、現時ノ社会組

織並ニ状態ニ不備ヲ抱クモノハ今日ニ始マリタルモノニアラズ、昔ニ於テ
 モ少ナカラサレシナリ、而シテ社会ノ革新ヲ論セシモノナキニ非レト多ク
 ハ理想的社会ヲ想像シテ之レヲ叙述セルニ止マリ現代ノ社会組織ヲ解剖シ
 テ其ノ欠陥ヲ論シタルモノハナカリキ、然ルニ十八世紀ノ末國家万能論ノ
 反動トシテ民権論興トナルヤ自由平等ノ原則ニ照シテ人民ノ生存権、勞
 働權等ヲ主張スルモノ相繼キテ起レリ、生存権ハ國家ハ人民ヲシテ生存セ
 シムル義務アリ、人民ハ國家ニ對シテ生存スル權利ヲト云フコトナリ、
 労働權モ亦全シク人民ハ國家ニ對シテ労働スル權利ヲ主張スルコトヲ得ト
 云フコトナリ、勿論之等ノ主張ハ科学的根柢アルニアラズシテ独断的ナル
 コトハ前ニモ現ハレタル理想論等ト相距ルコト遠カラズ

然ルニ当時経済ノ最モ發達セル英國ニ於テ産業革命起リテ経済社会ノ
 面目ヲ一新セリ、産業革命トハ機械ノ發明並ニ利用ニ依リテ従来主トシテ
 労働ニ依リテ行ハレタル生産組織ヲ顛覆シタルコトナリ、機械等ノ利用、
 工場制度ノ普及ハ巨額ノ資本ヲ必要トスルモノナル故此等ニ於テ資本主義
 又ハ資本家制度生産組織ヲ確立スルニ至レリ、コノ生産組織ノ改革ハ生産

ヲリ云ハバ甚々喜フヘキコトナルカ乎工業者ハ従来比較的安んずル社会上
 ノ地位ヲ維持スルヲ得タルニ拘ラス終ニ其ノ位置ヲ失ヒテ労働者トナラサ
 ルヲ得ヤリキ、而モ多数ノ労働者ハ少数ノ企業家ノタメニ苦シメラレテ其
 ノ生活ノ安定ヲ得ルコト能ハサルニ至レリ、貧富ノ懸隔、中産階級ノ崩壊
 貧産階級ノ惨状等弊害少ナカラザリキ、此ノ状態ヲ脱テシテハ畢竟私有
 財産制カ現代経済社会ノ根柢ヲナスカ故ニ生スルモノナリトシテ此レヲ破
 壞セントスルモノヲ生セリ、カノ *Robert Owen* ノ共産主義ノ
 如キハ其ノ最モ有力ナルモノナリ、共産主義トハ土地、工場、機械、工具
 一トモ其ノ生産ニ必要ナルモノ即チ資本ハ之レヲ社会ノ共有トセサルヘカラス、
 而モ其ノ社会ニ屬スルモノヲシテ是レヲ利用スルコトヲ許スト公認ニ其ノ
 得タル所ヲ奉ケテ之レヲ社会ノ有ニ致セシメ其ノ社会ニ屬スルモノヲシテ
 必要ニ応シテ之レヲ消費セシメサルヘカラスト云フコトナリ、

「七十四年英國ノ *Harngreaves' spinning* *factory* 發明セ
 リ、之レ實ニ *industrial revolution* 起リナリ、之レ
Watt ノ蒸気發明之ニ伴フ、

工場法、十二才以下ノ子供ハ用ヒヌ、十二時間以下ニ労働セシム、詭唇ヲ教ユ、

近世起リテ思想ヲ奉クレバ、

一、Communism.

二、Socialism.

三、Distributionism.

Socialism ハ資本ハ共有スレトモ其レニ依リ得シ生産ハ私有ヲ許ス、Distributionism ハ私有財産制度ハ其ノ終ニシテソレヲ用ヒテ得タル利益ハ共有トス、

Robert Owen ハ工場ノ支配人ナリ、彼ニ社長トナリシカ、缺陷ヲ痛感シテ一八一五年ニ工場法ヲ施行スヘシト主張セリ、彼ハ次ノコトヲ力説セリ、

- (1) Communism.
- (2) 労働組合 (Trade Union)
- (3) 消費組合 (購買組合)

(1) ハ今日ニ於テハ著々ト成功セリ、(2) ハ(3)ニ比シテソレ程成功セズ、(1)ハ頗ル困難ナリ、彼ハ自説ノ行ハレサルマテニ決リテ *News Harmony* 村ヲ立テ、共產的社會ヲ立テントセシカ其ノ根本ニ於テ欠陥アリシタメニ益ナリキ、七度憲法ヲ変更シタルモ甘ク行ハレザリキ、其ノ欠点ハ自己ヲ捨テ、全ク社會ノタメニ生産スルコトニシテ大困難ノコトナリ、次テ英蘭ニ傾リテ死セリ、

Communism 並ニ此ニ類似ノモノハ彼ニモ説ク如ク理論上極メテ強弱ナルカタメニカノ *Male Moral* 出ワレニ及ヒテ科學的社會主義ヲ大發セリ、*Mars*、思想ヲ略述セハ *Adam Smith* 其他ノ人ハ價值(Price)ノ源ハ労働ニアリト云ハリ、此ノ説ニシテ正シクハ労働シタルモノカ労働ノ結果ヲ享ケテ其ノ手ニ收メサレハカラヌ、然ルニ現今ノ經濟社會組織ノモトニ於テハ労働者ハ労働ノ結果ノ一部カヲ其ノ手ニ納ムレニ過キヌ、其ノ餘リハ資本家階級ノ取り取ル所ナリ、此レハ決シテ富ノ公平ナル分配トハ云ヒ得ヌ、斯ノ如キハ私有財産制度ノ存セル故ナリ、故ニ土地銀根ノ如キ所謂生産機關ハ私レカ私有ヲ禁シ社會ノ共有トナシ人民ヲ

シテ悉ク労働者ヲラレメサレハカラス、而シテ其ノ社会ノ者ハ之等ノ生産
機ヲ利用スルコトヲ得ルモ *Communist*、主張スルカ如ク勤勉ナ
者モ然ラサルモ其ノ必要ニ応シテ其ノ社会ノモノ、生産シタルモノヲ
消費スルコトヲ得セシムルハ是レ亦上ニ云フ労働ハ *went and price*
ノ源タル原則ニ添フモノニアラス、故ニ之等ノ生産機ヲ利用シテ得タル
所ハ利用シタルモノ、所有ニ段セシメサルヘカラス、而シテ其ノ得タル所
ハ是ヲ享費財タラシムルコトハ差支ヘナキモ之ヲ生産貨財即チ *Commu-*
nism 及ヒコレト美以ノモノトノ尚ニ着シキ差異アリトセハ後ノ者ハ
自由平等ノ自由主義ノ哲学ニ根柢ヲ置キテ論歩ヲ進ムルモノナルカ、前
者ハカノ *Ideal*ノ哲学ニ依ヒテ永久の原理ヲ否認シテ現代ノ資本主義的
社会組織ハ正史的産物ニスキス、従ツテ永久的存在ヲ有スルモノニハアラ
ス、其ノ本質ニ於テ崩ルヘキ原因ヲ有セルモノナル故久シカラズシテ崩ル
ヘキモノナリト主張セリ、科学的社会主义等ヲ奉セルモノハ以上ノ見地ニ
ヨリテ現代ノ社会組織ノモノト察達シ来レレ制度等ニ対シテ正統学派、正
史学派等ノ経済学者ノ取レル見解トハ全ク異ナレレ見解ヲ有セリ、正史学

二六

派ノ経済学者ノ多クハ一方ニハ正統学派ノ自由主義然テ資本主義ヲ排スル
ト同時ニ一方ニ於テハ *Socialist* 等ノ社会組織ノ破壊論ヲ排シテ現
代ノ社会組織ヲ破壊セシメテ労働者ノ生活ノ安定地位ノ向上ヲナサシメサ
ルヘカラスト主張セリ、社会政策之レナリ、労働者ノ幸福ヲ増進セシムル
ヲ以テ社会政策ト称スル所以ハ社会国家ノ目的ハ *Welfare*ノ事ヲ如
ク其ノ社会ニ属スルモノ、最も多クノ者ヲシテ最も多ク幸福ナラシムルニ
アリ、而シテ社会ノ上ニアルモノハ自ラ幸福ヲ得可キ手段ヲ有セント社
会下層ノモノニシテ幸福ニナリ得ハ、大多数ノ者ヲシテ大幸福ヲ得セシム
ルナラン、然ツテ社会ノ目的ヲ達セヨル、故ニ労働者ノ幸福ヲ増進セシム
ル政策ヲ社会政策ト云フモ違言ニアラズ、社会政策ヲ主張スルモノハ資本
主義ト社会主義トノ中間ニアル者ナリ、現代社会ノ欠陥ヲ察ムルト共ニ社
会主義者ノ如クニ其ノ社会ヲ破壊セントスルニヤラス、社会組織ノ破壊ハ
労働者ヲシテ幸福ナラシメサルト同時ニ現今ノ経済社会組織、モトニ於テモ
労働者ヲ幸福ナラシムルモノト信セリ、
社会政策ヲ論スル学者ノ中ニモ自ラ二派アリテ一ツハ全問題ノ解決ハ主

二七

トシテ国家ノ力ニ依リテ行ハルトスルモノナリ、一ツハ決レヘク国家ノ干渉ヲ避ケテ労働者ノ自覚ヲ促シ其ノ自由意思ニ依リテ生シタル團結ノ力ニテ之ヲ解決セシトスルモノナリ、前者ハ必ズシモ労働者ノ自覚ヲ排スルモノニアラス、唯労働問題ノ解決ハ急務ノ急ヲ要スルカ故国家ノ力ニヨラサレハカラスト云フニアリ、後者トテモ国家ノ立法權ニ依ル方法ヲ排スルモノニアラス、是等ノ方法ハ所謂他力的ノモノナレカ故ニ徹底的ノ解決策トシテハ労働者ノ自覚ニ待タサル可ラスト云フニアリ、

第二章 經濟

經濟トハ吾人々個人トシテスハ団体トシテ意識的ニ物質生活ヲ営ムコトヲ云フナリ、經濟ノ目的ハ吾人々個人ノ慾望ヲ満足スルコトニアリ、吾人々個人生活ヲ営ムニハ數多ノ困難ト戰ハサレヘカヲサレナリ、コノ困難ヲ意識シテ之レニ打勝タントスル希望ヲ慾望ト云ヘリ、即チ慾望ハ之ヲ

Want

心理的ニ分析セバ、(1)不満足ハ不満足ノ状態ニアリト云フ意識ナリ、(2)不満足又ハ不安ノ状態ヨリ脱セントスル希望ナリ、(3)ハ慾望満足ヨリ生シタル過去ノ快感ノ追憶ナリ、(4)ハ過去ノ快感ヲ再現セントスル希望ナリ、(5)ハ此ノ希望ヲ実現スルニ必要ナル理性等ノ想像ナリ、(6)ハ其ノ希望ノ實現ト理性等トノ比較ナリ、以上大ツノ心理現象ヨリ成レルモノナリト云ヒ得、更ニ慾望其ノモノ、特質ヲ挙ケレバ、

(1)ニハ慾望ハ無限ニ放テ無限ナリト云フコトナリ、吾人々人間ハ他ノモノヨリ別致ヲ受ケテ一度或ル種ノ慾望満足ノ快感ヲ覺ユルトキハ此レヲ満足セサルトキハ不満足ヲ感スル故ニ慾望ハ益々種々範圍ニ於テ拡大シテ其ノ極度ヲ知ルコト難ハス、

(2) Wants 慾望ニ於テ有限ナルモノナリ、或レ種ノ慾望ハ之ヲ満足スレバ満足トモ其レ以上ヲ求ムルモノニハアラス、其ノ限度ハ生理的ノ慾望ニ於テハ極メテ速カニ達スルモノナルカ社会的ノ慾望ニ至リテハ其ノ限度ニ達スルコト難キナリ、例ハハ色慾、金銭慾ノ如キモノナリ、金銭ニ對スル慾望カ容易ニ満足セラレサルハ凡ソル慾望ヲ達スル手段ナルカ

故ニ凡ニレ慾望ヲ達シタル後ニアラハ其ノ限度ニ達スレモノニハ下
ラス、

三〇

(3)ニハ慾望ハ争闘的ノモノナリ、殊ル種ノ慾望ニシテ強大トナラハ他種ノ
慾望ヲ満足セステ吾々ハ此処ニ不状不安ノ状態ニアリトハ慾ハス、

(4)ニハ慾望ハ習慣的ナリ、

慾望ニシテ一度之レヲ満足セハ漸次習慣トナリテ之レヲ満足セサレコト
能ハサルニ至レ、従ツテ此々カ一度消費ヲ増加シ生活程度ヲ高メレ時ハ
慾望ニ之ヲ低下スレコト能ハス、哲学者ハ慾望ノ増加寮連ヲ社会弊害ノ
根柢ナリト云フハ此処ニ基ク、

要スルニ経済ノ進歩ハ慾望ヲシテ多量高尙ナラシムルト公時ニ慾望ノ多
量高尙ナレニ依ヒテ経済ヲ進歩シシムルモノナリ、慾望ヲ満足スレカ爲
メニ此ノ人経済ヲ営ムモノトセハ慾望ハ経済ノ基本ナリト云フ可ナリ
経済学者カ消費ハ経済ノ目的ニシテ生産ハ其ノ目的ヲ達スル手段ナリト説
ハスト云フナリ、

慾望ヲ満足スレ行為ノ全部ハ経済行為ナリト云フ可ラス、即チ精神又ハ

経済行為
生産行為
消費行為

身体ヲ用シテ有形物ヲ消費スルニアラステ以テ慾望ヲ満足スル行為ハ經
済行為ト云ハス、例ハ昔樂ヲ聴キ散步スレカ如キモノナリ、足并ハ或
レ種ノ慾望ヲ満足スレニハ相違ナキモ其ノ手段トシテ有形物件ヲ消費セサ
レテ以テナリ、又便衣有形物件ヲ消費ストモ果テ單ニ消費シテ直接ニ慾望
ヲ満足スル行為用テ所謂消費行為ハ経済行為ニアラス、経済学者中消費ヲ
本ク解放シテ生産ノ々々ニ有形物件ヲ利用スレコトヲ生産的消費ト云フモ
ノアレド之レハ誤解ナリ、然レカ慾望ヲ満足スルニ当リテ其ノ準備的行為
トシテ有形物件ヲ利用シテ慾望満足ノ手段ヲ依ルコトアレトモ少クトモ他
人ヲシテ慾望ヲ満足セシムルカ爲メニ其ノ準備トシテ相当ノ行為ヲナスコ
トナリ、例ハ昔樂ヲ聴キ満足スルカ爲メニ学校ヲ造リ也日ノ食料ノ々々農
業ヲ営ム又ハ其ノ農産物ヲ販賣スレカ如キナリ、慾望満足ノ準備トシテ
行フ行為即チ生産行為又ハ交換行為ヲ依ルテ経済行為ト云フ、而シテ吾々
ハ経済行為ヲナス又原則トシテ単独的ニナスヘキモノニアラス、
吾々ハ吾々ノ生活程度ニ依レテ本末ノ慾望満足ヲ想像シテ他人トシテ若
クハ他人ト共同シテ団体的ニ計画ヲ立テ多少ハ組織的ニ経済行為消費行為

三一

ヨ行クモノナリ、セレヲハ経済ト云ヘリ、一談ノ経済ト云フカ如キ
モノナリ、換言スレハ経済行為ノ順序モナク計画モナキ集リハ経済行為ト
云ヒ得ス、故ニ経済ハ文明ノ程度ノ古キ時代ニアリテハ極メテ簡單ナレ形
式ニ於テ行ハル、モノナルカ文明ノ進ムニ從ヒテ漸次複雑ニ赴クモノナリ、
此ノ經濟ニ於テ此ノ差異アレド然レガ計画ヲ立テ、經濟ヲ營ム所以ハ畢竟
吾々ハ現在ニ於テ慾望ヲ満足シ以テ円満ニ生活センカトメナリ、例ハ吾
々ノ所苦ヲ厭ハスレテ農業ヲ為スハ未末ニ於テ食料ニシテテ欠乏ヲ感セサ
レカトメナリ、此ノ未末ニ對スル念慮ハ人智ノ進ムニ從ヒテ益々繁達シ米
ル故種々ナル制度ヲ生ズルニ至リタレナリ、後ニモ説ク如ク財産制度相統
制ノ制度ノ如キハ其ノ一ナリ、吾々ハ一人一人トシテ未末ニ且リテ円満ニ
生活ヲ營マントスルニ止マラス他ノモノト共同シテ以テ其ノ目的ヲ達セン
トスルモノナリ、經濟社會ノ諸種ノ制度ハ其ノ目的ニ出テタルモノナリト
云フモ過言ニアラス、經濟ハ於テ未末ニ及ワテ円満ニ生活ヲ營マントス
ル希望ニ出ワルモノナリト云フコトハ疑ヒナキモ然レテ生活ノ材料ニシテ
甚々豊富ニシテ容易ニ之ヲ得ルコトが出未ルモノトセバ於テハ特ニ未末ニ

對シテ念慮ヲ煩ハス必要ナカレバシ、然レテ生活材料ハ限リアリテ甚々
豊富ニハアラス、從ツテ之ヲ得ルカ為メ多少ノ困難ヲ感セザレテ得ス、殊
ニ人口増加スルト共ニ於テノ慾望ハ益々高尚多種トナルニツレテ其ノ欠乏
ヲ感スル程度ハ益々増加セザレテ得サルナリ、吾々ハ此等ニ於テ益々其ノ
困難ニ打勝ツタメニ努力セザレテ得サルナリ、其ノ努力コソ技術等ヲ發達
セシムル原因ヲナスモノニシテ文明ノ發達モ亦是ニ基クモノト云ヒ得、要
スレニ於テノ生活ノ材料ハ有限ニシテ豊富ナラザルコトモ亦經濟ノ發達並
ニ發達ノ原因ヲナスモノナリト云ヒ得、既ニ生活ノ材料ニシテ豊富ナラス
トセハ於テハ之ヲ消費スルコト能ハス、慾望ノ種々並ニ強弱ヲ察シテ先ツ
其ノ利用シ得ル生活材料ヲ以テ吾々ノ最モ緊切ナル慾望ヲ満足セントスル
ナラン、其ノ生活ノ材料ニシテ尙ホ余リアルトヤハ之ヲ以テ此ノ慾望ノ満
足ニ充テ、他ノ慾望ヲ満足セズニ置ケモノニアラス、必ヌ又吾々ハ或ル程
度マテノ其ノ慾望ヲ満足スルニ止メテ他ノ慾望ヲ満足スルコトニ用ユルナ
ラン、學者ハ此ノ現象ヲハ慾望満足ノ平等ト云ヘリ、此ノ現象ハ彼ニモ速
フルカ如ク於テカ貨幣ヲ以テ交換ノ媒介トシテ他ノ者ト共同シテ經濟ヲ營

△ニ当ツテ最モ明瞭ニ認ムルヲ得、例ハ杖々ハ杖々ノ收入ヲ奉クテ族種ノ
慾望満足ニ用ユルモノニアラス、故ニ杖々ハ杖々ノ收入ノ一部ヲ以テ族
種ノ慾望満足ニ当テ他ノ部ヲ他ノ慾望満足ニ充ツヘシ、杖々ノ收入
ニシテ全シナリトスルモ其ノ種々ナル慾望満足ニ用フヘキ割合ハ一様ナラ
サルモ杖々カ生活ヲ満足ニ営ムカ為メニ適當ニ之ヲ盡シテ慾望満足ヲシ
テ既ル程度マテ平均ヲ得セシメントスルハ疑ヲ入ラス、更ニ杖々カ経済ヲ
営ムニ当リテ慾望ヲ満足スルニ由未得ル限リ犧牲ヲ少ナカラシメントスル
モノナリ、其ノ犧牲ニシテ少ナカラシメントヲ得ハ益セヨウ慾望ヲ満足
セシメ得ン、是レ杖々ノ理性ノ要求スル所ナリ、正統学派ノ学者ハ此ノ氣
ニ着目シテカノ經濟法則ハ最少ノ労働費用ニテ最大效果ヲ收ムレモノナリ
ト云ヒ杖々カ経済ヲ営ム形ニシテ此ノ法則ニ違ヘルトキハ經濟的ナリト云
ヘリ、其ノ意味ハ蓋シ此知ニ云フ所ト異ナラス、現今ノ技術ノ改良經營ノ
進歩モ畢竟最少ノ労働費用ノ要求ニ出ツルモノナリト云ヒ得可シ、又近年大
ニ進歩シタル經營學ノ如キハ如何ニセハ此ノ法則ヲ實際ニ應用シ得ルカヲ
組織的ニ遠ハタルモノナリト云ヒ得、慾望ヲ平等ニ満足スルコト及ヒ之ヲ

満足スルニ當リテ犧牲ヲ欲ル可クシナカラシメントスルコトハ實ニ吾々カ
行フ經濟ヲ高ムレニ大法則トモ稱スルコトヲ得、杖々ハ此ノ原則ニヨリテ
慾望ヲ満足スルニ不拘更ラニ多クノ慾望ヲ満足セント欲シタルトキハ杖々
ハ精神又ハ肉体ヲ勞シテ之ヲ満足スルカ若クハ犧牲ヲ多クシテ之ヲ満足セ
サルハカラス、而シテ吾々ノ精神又ハ肉体ヲ勞スルニモ自ラ限度アルモノ
ナリ、故ニ一定ノ限度ニ達スルトキハ慾望満足ノ快感ハ之カ為メニ出ス犧
牲トヨ比歎シテ償フコトヲ得サレニ至ルモノナル故斯ノ如キ場合ニハ吾々
ハ慾望満足ノ快感ヲ放棄セサルヲ得ヌ、慾望満足ノ手段トシテ杖々ハ精神
又ハ肉体ヲ勞シテ有形物件ヲ利用セサルハカラス、有形物件ニシテ慾望ヲ
満足シ得ルモノヲ經濟學ニテハ貨幣ト云フ、有形物件ハ悉ク貨幣ナリト云
フヲ得ヌ杖々ハ有形物件カ慾望ヲ満足シ得ル性質アルコトヲ知り之レヲ利
用スルコトニ依リテ初メテ貨幣トナルモノナリ、故ニ有形物件ノ如キカ貨
財トシテ慾望満足ノ手段トナレル杖々ハ人類カ過去數十年ニ亘ル經驗其ノ他
ノ結果トモ林シ得可キモノニシテ更ラニ杖々ノ知識經驗ヲ積ムニ從ヒテ今
日貨幣タラサルモノモ漸次貨幣トナル可キモノナリ、故ニ貨幣ノ範圍ハ益

又拡大せられ可キモノナリ、諸國カ察明シタルモノヲ保護シテ其ノ察明ニ依リテ特ニ利潤ヲ得セシムル所以ノモノモ之レニ外ナラサルナリ、即チ或ル物件カ欲々ノ慾望ヲ満足スル性質アルコトヲ知リテモ察明家出テ、之ヲ知リテ人類ヲ利用セシメ得サル限リハ之ヲ貨財ト云フコト能ハサルナリ、故ニ察明家ヲレテ特ニ之カ為メニ利潤ヲ得セシムトモ社会ハ害ヲ被ルヘキ道理ナシ、但シ其ノ察明ハ勿論其ノ察明家ノ天才ニ依ルコト多キモノナルカ其ノ社会ノ文明ニシテ一定ノ限度ニ達セサル間ハ之ヲ望ムコト能ハス、換言スレハ其ノ察明家ニ依リテ利用ノ道ヲ教ヘラレヌトモ必ズ若干年ノ後ハ之ヲ察明スルモノカ現レ来ルヘキ故其ノ察明家ヲレテ永久ニ其ノ利潤ヲ独占セシムヘキモノニアラス、諸國カ特許權ヲ設ケ居ル所以ハ是ニ在リ、貨財ニシテ数量多クシテ何等ノ犧牲ヲ要セスレテ之ヲ利用スルコトヲ得ルモノハ経済学ニテハ自由貨財ト称シテ上述ノ如ク經濟ニハ干渉ナシ、故ニ經濟ニ干渉アルモノハ其ノ數量ニ限リアリテ數量ニ止テ利用出来サルハ勿論之ヲ得ルニハ相当ノ犧牲ヲ払ハサルヘカラス、學者ハ自由貨財ニ對シテ經濟貨財ト云フ、正史学派ノ經濟學者、多クハ貨財ヲ有物物故

三六

ニミ限定シテ從テ經濟学ノ研究ヲ止ニミ限定スルコトヲ禁セリ、カクノ如キハ徒ラニ經濟学ノ研究ノ対象物ヲ不鮮明ナラシムルモノニシテ正シカラスト思フ、但シ經濟学研究ノ対象ノ中心ヲハ有物物トシテモ英國学派ノ説クカ如クニ單ニ多クノ生産ヲ為スコトカ出来ルナラハ經濟ノ目的ヲ達シタリトナスヘキニアラス、經濟生活ハ社会生活ノ一面ニヌキサル以上ハ共同生活ヲ破壊スルカ如キ場合ハ勿論經濟ノ目的ヲ達スル所以ニヤラスト云ヒ得、

第三章 現代ノ經濟生活

價格生活

現代ノ經濟生活ハ一言ニシテ之ヲ蔽ハハ價格生活ト云ヒ得ル、價格生活トハ吾々人類ノ經濟生活ハ價格ヲ中心トシテ営マル、ト云フコトデアアル、價格ハ貨幣ヲ以テ云ヒ表ハサレタル交換比例ト云フコトナリ、故ニ價格生活ヲ營ムニ當リテ貨財勤勞ハ勿論經濟生活ノ基ヲナシテ居ル所得モ

三七

三六
財産モ一切價格ヲ以テ計ラレタルモノナルカ故ニ其ノ生活ノ程度、懸殊
ハ價格其ノモノニ依リテ支配セラル、モノナリト云ヒ得、其ノカ經濟行爲
ヲ爲スノハ必ズスレモ欲ルベク多量ノ貨財ヲ得ルコトヲ目的トスルモノニア
ラズ、欲ルベク多クノ價格ヲ得ンガタメナリ、若シ然レバ多クノ價格ヲ得
ル場合ニハ最も多ク生活ニ必要ナル貨財ヲ得ルコトヲ得ルカタメナリ、
多クノ貨財ヲ得ルコトハ普通ハ多クノ價格ヲ得ルコト、一致スルノデアレ
ケレドモ兩者ハ常ニ一致セルモノトハ限ラス、何トアレバ後述スル如ク貨
財ノ數量ニシテ多クアル時ハ之ハ反比例ニ價格カ下落シテ爲メニ其ノ物ノ
貨財ノ全部ノ價格ハ貨財少ナカリシトキヨリモ却ツテ少キトキアルカ故ナ
リ、例ヘハ農業者ノ經濟ヲ見レモ其ノ生産スル農産物ノ收穫多クシバ必ズ
其ノ所得多ク從ツテ其ノ經濟生活カ裕ナリトハ云フコト能ハサレ場合アリ、
其ノ生産スル農産物ノ收穫少クシトモ其ノ國ノ農産物ノ收穫少ナク從ツテ農
産物ノ價格カ高カリシナラバ其ノ生産スル收穫多キニ拘ラス價格低キト
キニ比較シテ却ツテ所得ノ多クアル場合カ少クナイカラデアレ、故ニ農業
者ノ立脚点ヨリ云ハバ生産額ヲ増加スルコトが反ツテ其ノ利益ト一致セル

場合アリ、之ト全ジ理ニ依リテ所得カ少シモ増サザルニ不拘其ノ未ムル貨
財ノ價格比較的高ケレバ其ノ生活ノ程度ヲ依メザル可カニ其ノ生活
ノ程度、懸殊ハ價格其ノモノニ依リテ支配セラル、ト云フ所以ナリ、此ノ
事ハ何人相互ノ干渉ニ於テノミ然ルニアラズ、何人ト國家トノ干渉ニ於テ
モ然リ、租税体系等苟モ經濟生活ニ關係アレモ、ハ價格ノ支配ヲ免レサレ
ナリ、之レ現代經濟生活ノ一特色ナリ、

現代ノ經濟生活ハ價格生活ナリト云フ所以ハ畢竟吾々が經濟生活ヲ營ム
ニ當リテ他ノ經濟ヲ營ムモノト互ニ生産シタルモノヲ交換シテ以テ生活ヲ
營ムヲ常トセルカ故ナリ、換言スレバ交換經濟生活カ價格生活ノ前提ナリ
ト云ヒ得、

右ノ文明カ未タ進歩セザレ間ハ奴々人々ハ其ノ家族等ト共ニ他ノ經濟ヲ
營ムモノ即チ經濟主体トハ孤立シテ消費スルモノヲ生産シテ以テ生活ヲ營
ミ居タリシナリ、孤立家族經濟ナルモノ是ナリ、

孤立家族經濟

孤土家族經濟ノ状態ハ比較的ニ殊ク純キヤルモノニシテ政羅巴諸國ニ於テモ十九世紀ノ初メ頃マテハ一家内ニ於テ消費スルモノハ殆ンド其ノ家族内ニテ生産シタルモノニシテ僅ニ其ノ消費スルモノハ一部分ヲ他ヨリ亦メテ其ノ生産シタルモノ、一部分ヲ共フルニ止マリシモノ甚々多カリシト云フ、況ンマ其ノ以前交通機關力發達セサル時ニ於テハ此ノ状態力行ハレ居タリト云フコトヲ得、孤土家族經濟ニ於テハ貨財ノ價格ヲ定ムル必要モナカリキ、

交換經濟

然ルニ種々ノ原因ヨリシテ經濟主体カ分裂シテ小サカナルト全時ニ其ノ慾望カ發達シテ到底其ノ家族内ニ於テ生産スルモノヲ以テ満足スルコト能ハサルニ至リテ他ノ經濟主体ト互ニ有無相通シテ經濟ヲ営ムニ至リシナリ、孤立家族經濟ヨリ交換經濟ニ移ル段階トシテ經濟主体カ其ノ力ニ依リテ必要トスルモノヲ他ヨリ掠奪シテ其ノ慾望ヲ満足セシメタルナリ、更ニ進ミテハ他ノモノ依リ贈與ヲ受ケテ慾望ヲ満足セシナリ、然ルニ文明ノ進ムニ

進ムニ狀ヒテ其ノ家族内ニテ消費シテ余リマレモノヲ以テ他ノ消費ノ剩餘ト交換ヲ為スニ至レリ、

職業的生產

然ルニ後ニ至リテハ初メヨリ他ノ經濟主体ト交換若クハ購買スル目的ヲ以テ其ノ得意トスルモノ若クハ最モ利潤多サルヘシトナズ貨財ヲ生産スルニ至リタルナリ、職業的生產ナルモノ之レナリ、

市場生産

而シテ職業的生產モ初メハ近傍ノ極狹隘ナル地域内ノ消費スルモノニ應ジ若クハ其ノ消費者ヲ目的トシテ行ハレタルモノナルガ故ニ生産者ト消費者トカ互ニ接觸セシモノナルモ後ニハ消費者ノ註文ヲ辨タズ又ハ消費者ヲ目的トセシテ市場ヲ目的トシテ生産ヲ為スニ至レルナリ、市場生産之レナリ、此等ニ市場トハ必スシモ一定建築物ノ存在ヲ予定セルモノニハアラズ、單ニ需要者、供給者ノ集レル所ヲ云フ、市場生産ノ源ニ進ミ未レハ生

産者ノ傍ニ商業家ヲ生レ分業的ニ生産スル者ハ主トシテ生産ノミニ苦心シ
其ノ生産物ノ販賣ハ商人カ買レニ当レニ至レルナリ

交換者

カクノ如クニ生産ト消費トカ分離シ未レハ生産シタル家財ハ必ズシモ消
費セラルトハ限ラス、然テ市場生産ノ行ハルニ至レハ需要ト供給トカ
必ズシモ一致セズ其ノ結果價格ハ動搖高値スルニ至ルナリ、價格動搖高値
スルニ從ヒテ之ヲ曰フテ之ヲ利用シテ利潤ヲ得ントスルモノモ生ズ所
云枚換者ナルモノ之レナリ、

貨幣經濟

斯ノ如クニ交換經濟カ発達セハ家族經濟ハ自ラ消費經濟主体トナサレテ
得ナルナリ、交換經濟カ発達セハ吾々ハ互ニ必要トスレモノヲ交換スレコ
トハ極メテ稀ニシテ原則トシテ自ラ生産シタルモノハ之ヲ賣リテ貨幣ニ代
ヘテ其ノ貨幣ヲ以テ必要トスルモノヲ求メタルナリ、互ニ必要トスレモノヲ

交換スルコトハ甚々簡單ナル如ク思ハル、モ其ノ実ニ必要トスル物ヲ有
シテ居ル者ヲ如ル事ハ難キノミナラス之ヲ知ルコトヲ得タリ共交換スル數
量ニ関シテ意思ノ合致ヲ得ルコト容易ナラス、且ツ貨幣ニ依リテハ之ヲ分
割スル能ハサルモノアリ、之ヲ分割スルコトヲ得ルモ若シニ價格ヲ大ヒニ
減スルモノアリテ不便ナカラスアル故貨幣ヲ媒介トシテ以テ其ノ目的ヲ達
スレナリ、貨幣ハ始メハ今日ノ如ク金銀貨幣ノ如ク特殊ノモノデナク生活
ニ必要ナル物ヲ用ヒタレトモ吾々カ欲ル種業ノ貨財ニ交換ノ媒介トナル能
ク然ルニ至リテ初メテ貨幣トカ觀念上亦融スルニ至リシナリ、吾
々ハ必要トスル所ノ物ヲ交換スル事即チ物々交換ハ貨幣ヲ對象トシテ發
テ當テコトニ先立テテ行ハレタリ又ハ學者ノ間ニ議論アレ所ニシテ恐
ラクハ交換經濟カ行ハルニ至レバ事實上物々交換時以テ貨幣
經濟ニ至リシモノニマラズシテ交換經濟カ行ハルニ至レバ直チニ貨幣經
濟カ起リシモノナリ、

物々交換ハ單ニ極メテ限定セラレタル範圍ニ於テ行ハレ居タルモノナリ
トスルヲ、換言スレハ貨幣經濟ハ交換經濟ノ一面ヲ示ヒ表ハレタル語ニ過

キナルナリ、此ノ説ハ物々交換經濟カ遂ニハ貨幣經濟トナレモノナリ
ト云フ通説トハ異レルナリ、此ノ物々交換經濟時代ト貨幣經濟時代ト區別
スレノ可否ハ單ニ經濟發展ノ徑路ヲ説明スル、上ニ於テ差異ヲ生マルニ止
マラス、從來學者カ經濟現象ヲ説明スルニ始リ先フ必妥ナレ物件ヲ交換シ
タル時必ク想像シテ之ニ説明ヲ加ヘ更ニ其ノ理ヲ推シテ貨幣ヲ交換ノ対象
トシタル時必ク想像シテ之ヲ説明スルヲ常トセルカ學理上其ノ必要アリヤ
否ヤニ干係セルコトナリ、例ヘハ價格ヲ説明スルニ直ニ貨幣ト貨幣トノ
交換割合ヲ論ヒスレテ先ク貨幣ト貨幣トヲ交換セラル、場合ヲ想像シテ需
要ノ干係ヲ説キ現今ニ於テハ貨幣ト貨幣トカ直接コ交換セラル、コトハ情
ニシテ貨幣ヲ交換ノ対象ト爲セルモノナレカ故ニ之ヲ説明セサル可カラズ
トナスカ如キハ甚々迅速ナルノミナラス必ズ社会ノ実情ニ伴ハサルモ
ノト云ハハル可カラズ、要スルニ價格ハ貨幣ヲ対象トシテ想像スルコトヲ
得レモノナリ、

第四章 現代經濟社會組織

現代經濟社會組織ノ基礎ハ資本主義ナリ、又其ノ生産組織ハ資本家制生
産組織ナリ、蓋シ資本主義ト云フコトハ生産ノ要素中資本カ最も優越セル
地位ヲ占メ資本ノ増進ヲ以テ最も重要ナルモノトシテ之カタメニ其ノ他ノ
モノヲ犧牲ニ供シテモ尚ホ避ケサルコトヲ意味シ、資本家制生産組織ト
云フコトハ上ニ資本家アリテ企業ノ經營ヲ掌リ其ノ下ニ多數ノ勞働者アリ
テ其ノ命ニ従ヒテ生産ニ従事スル組織ヲ意味スルナリ、資本主義若クハ資
本家制生産組織ノ本質ヲ明ニスルニ非レハ現代ノ經濟社會組織ヲ了解スル
事困難ニシテ此レニ干係スル社会問題ヲ了解スルコト能ハサル故ニ此知
ニ其ノ本質ヲ説明セントス、
資本主義又ハ資本家制生産組織ハ三ツノ大ナル基礎ノ上ニ立アルモノニ
シテ其ノ一ヲ欠クモ資本主義ハ崩壊シテ以テ現代ノ經濟社會ノ面目ヲ一新
シテ仕舞フコトナル、

三大基礎トハ個人主義的法制官利主義企業組織之レナリ、個人主義的法制

制カ資本主義ノ外濠ヲ形ルモ、ニシテ營利主義カ其ノ内濠ナリ、企業組織
 ハ其ノ中ニマリテ現代經濟社會組織ノ中心ヲ爲セルモノナリ、個人主義的
 法制ト云フ事ハ外部ヨリ見タル語ニシテ内部ヨリ云ハシ自巳責任主義トモ
 称スルコトヲ得ルナリ、國家自ラ道ニテ國民ノ經濟生活ニ干渉スルコトヲ
 避ケテ各人ヨシテ其ノ好ム所ニ從ヒテ生産其他ノモノニ從事セシメ之等ヲ
 シテ自ラ責任ヲ負担セシムルモノナリ、各人ハ其ノ行為等ニ對シテ自ラ責
 任ヲ負ハサル可カラスル故ニカヲ依テ經濟行為ヲナスナリ、各人ヨシテ
 自ラ責任ヲ負ハシムルニハ社會組織トシテ消費ノ自由、生産並ニ労働ノ自
 由ヲ認メサレバカラス、其等ヲ認メシテ自巳責任主義ニヨランメントス
 ルコトハ意味ヲ爲サレナリ、各人ハ其ノ好ム所ニ依リテ消費スルコトカ
 出来其ノ好ム所ニ從ヒテ生産又ハ労働ヲ爲スコトヲ解ル故一方ニ於テハ其
 ノ社會ニ於ケル取ル貨財ニ對スレ需要ハ常ニ變動ノ止ムコトナク一方ニ於
 テハ其ノ貨財ノ供給モ變動ノ止ムコトナキナリ、其ノ結果前ニ述ヘシカ
 如ク價格ノ變動ヲ見ル故ナリ、消費ノ自由ヲ認ムル爲メ又一方ニハ貨財ヲ
 蓄積シテ之ヲ資本化スルコトモ亦自由ナラサル可ラサルナリ、如有財產制

度、相續制度ノ如キモ其ノ当然ノ段結ナラサル可ラヌ

私有財産権等ノ根柢

私有財産権並ニ相續権ノ根柢ハ古未幾多ノ學説アレドモ余ハ之ヲ人情欲
 欲ノ間ニ牽シ而モ社會ハ之ヲ認ムル必要アリヤトノ説ヲ取ラントス、即
 チ人情ノ常トシテ其ノ労働ノ結果ヲ自ラ納ムルニ非レバ多クノ犧牲ヲ忍
 ヲ労働ヲ爲ヌモノニハ非ズ、且ハ其ニシテ單ニ目前ノ慾望ヲ満足スレバ
 ニテ未來ヲ慮ル思慮ナキ時ニハ欲ハ多ク労働スル必要ハナカレ可ク、特ニ
 子孫ノ繁榮幸福ヲ希望スレ念慮極メテ滋クナカリレ時ハ力ヲ尽シテ労働ス
 ル者ハナカレ可シ、私有財産権並ニ之ニ附隨シテ起レ可キ相續権ハ此ノ人
 情欲欲ノ間ニ牽シタルモノナリ、而シテ之アリテこそ社會ハ常ニ活氣ヲ呈
 シ生産カ起リ、富源人利用^{資本及労働ハ活用ナレ}シ^{經濟社會ノ秩序モ亦自ラ保タレ國民ノ精}
 神的文明モ亦起ルコトヲ得ルモノナルヤシ、社會ハ此ノ必要ヲ認メテ法律
 ヲ以テ之ヲ保護スルニ至リシモノナリ、故ニ其ノ根柢ハ甚々鞏固ナリト云
 ハサルヲ得サルナリ、

但社会ハ労働生活ノ必要ニ基キテ之ヲ保メ保護スレモノナレ故社会ニシテ
 共同生活ノ必要ニ基キテ之ニ期限等ヲ知フルコトモ亦当然為レ得可キ所
 口ナリ、社会カ如何ナル程度ニ於テ私有財産権等ヲ認ム可キヤ其ノ社会ニ
 於ケル法規ノ變遷ニヨレモノニシテ永久ニ固リテ全一ナル可キモノニアラ
 ズ *Cyprertheimer* ト云フ学者ハ社会国家カ共同生活ノ必要ニ於テ財
 産権ヲ認メタルニハ相違ナキモ其ノ社会共同生活ノ必要ト云フコトハ畢竟
 社会ニ勢力アル者カ其ノ勢力ヲ維持スルカタメニ名ヲ社会又ハ共同生活ノ
 必要ニ借レル場合決シテ少ナカラズ、財産権モ亦其ノ一例ニシテ社会ニ勢
 カマル資本階級カ其ノ勢力ヲ維持スルカタメニ法律ノ力ヲ借リタルモノ
 ニシテ必ズ正義ノ念ニ基クモノナリト云フヲ得ズ、故ニ現代社会ニ勢
 カヲ有スル資本階級ニシテ其ノ勢力ヲ失ハシ財産権等ノ内容ハ如何ナル
 變更ヲ見レベギヤハ計リ知レズギモノニアラズ

私有財産権等ノ根柢ニ関スル古来ノ学説

私有財産権等ノ根柢ニ付キテハ古来学説甚々多キモノナレ故此處ニ其ノ

ノ最モ著名ナルモノヲ略述セシ、
 (一)、先占説

ローマ法学派等ノ主張スル所ニシテ私有財産ハ未タ何人ニモ屬セサル財
 貨ヲ先占シタルニ依リテ生ズルコト云フナリ、然レ此ノ説ヲ是認スルニハ
 有ニル貨財ニシテ先占ノ生ズル前ニハ無主物ナリシコトヲ認メサル
 可カラズ、此ノ事ハ經濟史家ノ認メサル所ナリ、殊ニ土地ノ如キモノハ
 人シク部族等ノ共有財産ナリヤ、仮リニ有ニル貨財カ無主物ナリトスル
 モ単ニ先占ノ事實ニシテハ財産権ノ發見ヲ見ルコト能ハズ、他人ヲ排
 斥シテ先占ノ效果ヲ全フスル力ナカレ可カラズ、古ハ腕力ニ依リテ之ヲ為
 シタルカ文明ノ進ムニ依ヒテ法律ノ保護ニ依リテ之ヲ為スヲ得ルニ至レ
 リ、

(二)、労働説 *Theory of the productivity of labour*

Rocher 等ノ主張セル所ニシテ人英ハ労働ノ結果ヲ悉ク納ムル権利アリ、
 然レ労働ノ生産ハ単独ニ労働ノミニ依ルモノナラザル以上労働シタルモノ

が原料等マデモ所有スル権利アリト云フコトハ出未サル訳ナリ、例ハハ
土地ヲ耕シタル者ガ收穫物ヲ其ノ所有ニ假スルコトハ兎ニ角土地其ノモ
ノマテモ其ノ所有ニ假セシムルコトヲ得ルトハ主張スル能ハスト鬼フ、
(三)、法定主義

140 lbs. Rowdlean, Bentham, Rechte, Montedgyn
-iem, 等ノ主張スルモノニシテ所有権ノ基礎ハ法律ノ力ニ依ルモノナリ
ト云フナリ、私有財産権カ法律ニ依リテ生シタルハ疑ナキモ法律カ之ヲ
認メサル前ニ於テ人英ハ労働ノ結果ヲ其ノ手ニ納メタルモノナルコトハ
疑ヲ入レヌ、唯其ノ財産ヲ擁護スルメニ自巳ノ腕力等ニ依リテナシタ
ルコトカ今日ト異ナレノミ換言スレハ人英ノ所有スル財貨ハ等ケテ之ヲ
社会ヨリ得タルニアラス、且社会カ財産権ヲ認ムレニ当リテ安リニ之
レヲナヌモノニアラズ、必ス其レヲ認ムレニ足ル根拠ナカレバカラズ、
其ノ根拠ヲ說明セヌンテ単ニ法律ノ力ニ依リテ生シタリト云ハシ法律ニ
依テ之ヲ廢スコトモ毫モ支障ナキ理ナリ、其ノ論拠ハホタ甚々薄弱ナリ
ト云ハサル可カラズ、

(四)、契約説

grotius 等ノ主張セシ所ニシテ財産権ハ人英カ原始時代ニ於テ為
シタル契約其ノ着ニ基クモノナリト云フ説ナリ、此ノ説ハ想像ニ基ケル
モノニシテ正史上ノ証拠ハナシ、仮リニ原始時代ノ契約ニ依リテ所有権
カ定マリタルモノナリトスルモ其ノ契約カ数千年ニ亘リテ幾世子孫ヲ束
縛スルカカアリヌ否マハ甚々疑ハシキナリ、仮リニ其ノ拘束カアリトス
ルモ原始時代ノ人英カ想像シタル貨財ノ範圍ニ止マリテ其ノ外ノモノニ
及ハサル理ナリ、然ルニ現ニ古代ノ人英カ想像スルコト能ハサル貨財ニ
對シテ普ク財産権行ハレテ居ルト云フコトハ説明スルコト困難ナリト云
ハサル可カラズ、其他財産権ニ干スル學說頗ル多シ、

営業自由ノ制度

生産並ニ労働ノ自由ヲ認ムル結果現今諸國ハ営業自由ノ制度ヲ認メサレ
ルノナキナリ、営業自由ノ制度ハ十五世紀ニナリテヨリ諸國ノ認メタル
所ナリ 営業自由ノ制度ハ之ヲ簡單ニ述ブレバ、

- (一)、營業ヲ為スモノニ資格ノ制限ヲ置カサルコトナリ、
 - (二)、營業ヲ為スモノハ營業ノ場所種族規範方法等ニ關シテ全ク制限ヲ置カサルコトナリ、
 - (三)、營業ヲ為スモノハ其ノ取立スル貨財ニワキテ自由ニ價格ヲ定ムルコトヲ得ルコト、
 - (四)、營業ヲ為スモノハ其ノ營業ヲ補助セシムルカ為メ民法上ノ契約ノ原則ニ基キテ他ノ者ヲ雇用スルコトヲ得ルモノナリ、民法上ノ契約ノ原則トハ雇フ者モ雇ハル、モノモ全然對等ノモノト見テ両者ニシテ雇傭條件等ニ付テ意思ノ合致シタル時ハ社会ハ之ヲ尊重シテ神聖ノモノト為ス義ナリ、
- 以上ノ數項ヲ營業ニテスレ社会制度ト觀ムルコトヲ營業ノ自由ヲ認メタレモノト云フナリ、而シテ之ヲ認ムル結果營業主義ニ基キテ行動スレ生産者等ハ其ノ利益ヲツクシテ以テ競争者ヲ救ヒテ自己ノ運命ヲ開拓セントスルナリ、各人ニシテ力ヲ尽クシテ其ノ利益ヲ發揮スルカ為メニ自然ノ富源モ之ヲ利用スレヲ得可ク資本労働モ亦活用セラレテ競争ヨリ生スレ利益ヲ享ケルコトヲ得ルナリ、然レ依テ其ノ競争ニシテ激烈ナレトキハ弱肉強食ノ現象ヲ生スルニ至リテ後ニモ遠フレカ如キ種々ノ弊害ヲ生スルナリ、斯ノ如キ現象ヲ生スルハ現存社会力營業主義ヲ以テ其ノ基礎トナスカズナリ、若シ營業ヲ為スモノニシテ悉ク其ノ出シタル労働資本ヲ賄フヲ得ルヲ以テ満足シテ安易ナル生活ヲナシタルトキハ營業者ノ間ノ競争モ自ラ激烈ナラサルヲ得可シ、

營業主義

營業トハ需要供給ヲ計リテ價格ノ變動ヲ察シテ可成收入ヲシテ支出ニ充テシメテ以テ利潤ヲ得ンコトヲ目的トスルコトヲ云フナリ、即チ營業觀念ヲ解明スルニ以上ノ手續等ニ依リテ利潤ヲ得ンコトヲ目的トスルモノニシテ其ノ目的ヲ達スルヤ否マハ尚ハナルナリ、例ハハ茲ニ人アリテ甲地ニ於テ仕入ヲ為シ乙地ニテ販賣シテ利潤ヲ得ルコトセハ其ノ為メ行爲力營業行爲ナルコトハ疑ヲ容レサレト予測ニ及シテ乙地ニ於テ價格低カニ下落シテ利潤ヲ得ル能ハサリントスルモ其ハ為シタル行爲力營業行爲ナルコト

ハ明白ナラサレハカラス、又其ノ收入タル所ノ利潤ヲ如何ナル用途ニ用フ
 ル共營利ノ觀念ニハ悖ラサレナリ、個人主義的構造ノ下ニ於テ生産者ハ消
 費者ノ団体ノ計算危険ニ於テ為ス事モ亦生産者ノ計算危険ニ於テ之ヲ為ス
 コトモ想像シ得サルニアラス、前者ニ於テハ若シ其ノ生産シタル物が需要
 セラレズ為メニ損失ヲ招キタルトキハ社会全部ノ者カ之ヲ負担スルモノナ
 ルカ故ニ實際ニ生産者ヲ為シタル者ノ責任輕キモノナレトモ現今ノ经济社会
 組織ニ於テハ生産者ノミカ其ノ責任ニ於テ之ヲ為ス者ナルカ故ニ危険ノ程
 度モ亦大ナルト公認ニ其ノ計算等ニシテ適當ナレトキハ其ノ利潤モ少ナリ、
 シサレナリ、而シテ其ノ結果營業スルモノ、間ニ競争ヲ生シ来タルナリ、
 其ノ競争ハ營利ノ原則ニ照シテ最モ優越ナルモノカ勝ヲ台メヘキコトハ明
 白ナリ、古來市場ノ秩序ナリシ間ハ巨額ノ資本ヲ以テ生産等ニ從事スル
 必要モナク、仮令之ヲ為スモ競争者ニ對シテ大ニ優越ナル地位ヲ台メレコ
 ト強ハサリシモ經濟市場カ極大シテ競争激烈トナレハ原則トシテ最モ安ク
 生産シタル者カ勝ヲ台メヘキモノナルガ故ニ巨額ノ資本ニ依リ極力ヲ志
 用シテ分業ノ法則ニ依リ最モ巧ニ經營ヲナス者カ勝ヲ台メサル可カラサル

欠

欠

- (一)、各人ハ常ニ窮乏シテカヲ尽シテ生産等ニ從事スルカ故ニ個人トシテハ所得ヲ多クスル傾向カアルト全時ニ、
 - (二)、社会トシテハ生産ヲ多クシ自然労働、資本ノ生産要素ヲ活用スルヲ得ルニ至ル、
 - (三)、生産技術ノ進歩経営方法ノ改良ヲ促シ、
 - (四)、社会ノ文明ヲ進歩セシメ原則トシテ経済生活ヲ秩序アルモノトシテムレシヲ得ルモノナリ、
- 然レバ其ノ弊害ヲ導クレバ、
- (1)、競争激烈ナル結果正当ナル方法ヲ以テ競争ニ勝タントセズ、勤モスレバ不正ナル方法ニ依リテ一面ニハ競争者ヲ若シメ一面ニハ社会ノ需用者ヲ欺ク者多クカラス、所謂不正競争ヲ行ヒテ以テ社会ノ道徳ヲ低下セシムルナリ、諸国カ法律ニヨリテ不正競争ヲ取締ラントスレ所以ナリ、法律ヲ以テ之ヲ取締ラントスル以上ハ正当ナル競争ト不正競争トノ間ニ明カナル区別ヲ立テサル可カラサルナリ、諸国ノ不正競争取締法ヲ見ルニ不正競争ハ大別シテ特定競争者ヲ害スル意思ニ出テタルモノト競争者ノ

全体ヲ害スル虞民ニ出テタルモノ、ナスヲ得、他ノ營業者ノ用フル商号、
 商標等ニ類似スル商号、商標ヲ用ヒ若クハ他ノ競爭者ノ用フル用器包装
 等ヲ真似テ公衆ヲ欺キ他ノ營業者ノ商標業務等ニ付テ不正ノ事實ヲ流布
 シ他ノ營業者ノ使用人等ヲ使欺シテ營業ノ紛擾ヲ爲スルカ如キハ
 前掲ノ例ニシテ商標業務等ニ関シテ公衆ヲ欺誘スヘキ不正ノ事實ヲ公告
 流布シ商標ヲ粗製濫造シテ在人ヲ欺キ不正ノ販賣条件ヲ公示シテ吾人ヲ
 欺騙スルカ如キハ後者ノ例ナリ、前者ハ比較的ニ取締ルコト感易ナレト
 後者ハ之レヲ取締ルコト難シト云フ、

(二)、ニハ競爭激烈ナルカタメニ小生産者カ資本ノ大ナルモノニ亞例セラレ
 テ經濟ノ独立ヲ維持スルコト能ハズ、所勤者ノ分ニ入ラサレテ辱サレナ
 リ、

尤未生産者等ハ其ノ熟練等ニ依リテ比較的安易ナル地位ヲ維持シタル
 モノナレトモ資本主義ノ勢ニ感テ其ノ地位ヲ維持スルコト固
 難トナレリ、學者カ此ノ現象ヲ旧中産階級ノ崩壊ト云ヘリ、此ノ中産階
 級ハ社会ノ中堅ナリ、其ノ中産階級ノ崩壊シテ行クコトハ其ノ事自身ニ

必テ恐レヘキノミナラス社会ヲ貧富ノ階級ニ分裂セシメ其ノ結果ハ階級
 間ノ競争ノ弊害ヲ生ヌ、諸國カ種々ナル方法ニ依リテ小生産者ヲ保護セシ
 トスル所以ナリ、

(三)、ニハ資産階級ト生産階級トノ衝突ヲ拓ク、生産階級ハ其ノ労働ニ依リ
 テ生活セシレヘカラサレ故經濟上ヨリ云ハシ極メテ微力ナレ階級ナリ、
 企業家、資本家ノタメニ強ヒラレテ極メテ不利益ナル労働条件ニ取セサ
 ル可カラズ、之ニ反レテ資産階級ハ勞セズレテ比較的ニ富裕ナル生活ヲ
 営ムレナリ、所得ノ不公平、生産状態ノ差異、感情ノ粗疎等種々ナル弊害ヲ
 生ヌ、即チ所云労働問題ヲ生ヌルナリ、労働問題カ近世ノ社会問題トシ
 テ著シクナレハ社会下層ノ者ノ生活状態力古ニ比ヘテ極下シタルカタ
 メニ下ラマシテ此ノ資産階級無産階級ノ階級的分離並ニ所得生活等ニ差
 テ着シキ差異ヲ生シタルコト、教育ノ進ムト共ニ労働者カ自覺スルニ至
 リタルコト及ヒ此年物質主義ノ盛ニナリテ物質生活ノ優劣ニ依リテ吾人
 ノ幸福ヲ測ルニ至リタルカタメナリ、

労働を中心として社会主義ヲ論ズ

八二

労働問題を中心として現代ノ経済社会組織ノ欠陥ヲ攻撃シテ之ヲ倒シテ
 新ツレキ社会組織トナサントスル者勤シカラズ、共產主義、社会主義ノ如キ
 ハ其ノ最モ顕著ナルモノナリ、共產主義モ社会主義モ上ニ返ハタル社会組
 織ノ三大基礎從ツテ之ヨリ生ズル固有財産制度ヲ曰標トシテ攻撃ヲ為セリ、
 生産機関ヲ社会ノ有ニ収メシメントスルモノナル故、或ハ之ヲ集産主義、
*Collectivism*ニ云ハリ、共產主義ハ資本即ケ生産機干ヲ利用シテ得
 ヲル結果ヲ社会ノ共有トナサントスルモノナレハ社会主義ニ比ヘテ一歩ヲ
 進メタルモノナリト云フヲ得、然レテ之ヲ実行スルコトハ理論上ヨリ云
 フモ實際上ヨリ云フモ之ヲ望ムコト出来難キナリ、何トナレバ、
 (一)、ハ社会ニ高スレ者カ社会ノ全貨カ労働シテ得タル所ノモノヲ其ノ懸望
 ニ從ヒテ消費スルコトハ社会ノ各々ニ多クノ生産シタルモノモ亦生産セ
 サルモノモ公ニク消費ヲナスコトヲ得ラレ、モノニシテ社会主義者等カ
 現代ノ経済社会ノ欠陥ナリト攻撃セル不勞所得ヲ得ル者ヲ生ズルコト、

- (一) ナリテ分配ノ公平ヲ期スルコト難キ歎ナリ、
 - (二) 二ハ各人カ其ノ能力ヲ尽シテ社会ノ為メニ生産スルモノナリ所ハ彼等
 其ノ能力ニ差異アルカメニ生産額ニ差異ヲ生ズルトモ已ムヲ得サル所
 ナレトモ各人カ社会ノ為メニ能力ヲ尽シテ生産等ニ從フマ否々ハ極メテ
 疑ヒアルナリ、家族生活ニ於テ共產主義的傾向アリトモ大ナル害ヲ生セ
 サルハ其ノ親子等ノ愛情ニ依リテ各人カ能力ヲ尽スラ以テナリ、社会ニ
 衡スルモノニシテ自ラ進ミテ能力ヲ尽サル者マテハ強制的ニ之ヲシテ
 能力ヲ尽シテ労働セシメサル可カラズ、此ノ事ハ到夜行ヒ難キナリ、
 - (三) ハニハ経済社会ニシテ尚ホ狭隘ニシテ需要ト供給トヲ返易ニ知レコトヲ
 得、從テ之ヲ調和スルコトヲ得ルノミナラズ人類ノ懸望尚ホ簡單ニシテ
 消費ノ状態カ極メテ簡單ナレバハ生産ノ種類モ生産額少ナカルトモ吾々
 ハ共產主義ヲ実行シテ円満ノ生活ヲ為スコトヲ得レモ然ラサル限リハ列
 強円満ニ其ノ生活ヲ営ムコト能ハズ、
- ロシヤノ共產主義ノ学者 バク—ニシカ共產主義ヲ実行スルニハ二
 大強敵ト歎ハサル可カラズ、一ハ搾り取り (*Ausbeutung*) ヨリ生

八三

スル弊害ナリ、一ハ自然ノ束縛ヨリ生スル障害ナリ、自然ノ障碍トハ吾
々カ相当ナル生産額ヲ得ルカ為メニハ自然ノ生産ニ及ホス制限ヲ破ラサ
ル可カラスト云フコトナリ、換言スレハ共產主義ヲ実行スルニハ枚々ハ
経済上ノ独立ト大企業ノ生産トヲ如何ニシテ結合スルカヲ解決セザル可
カラス、此ノ事ニ依リテモ共產主義ノ実行シ難キ所以ヲ知レコトヲ得、
社会ノ生産額少ナキニ拘ハラズ田舎ニ経済生活ヲ営マントセバ消費ノ自
由ヲ奪ハガレ可カラズ、此ノ事ハ枚々ノ幸福ヲ増進スルノ道ナリ又否マ
ハ大ナル疑問ナリ、

Welfare Collectivism ヲ分ナラ *Socialism, Communism*
及ヒ農業社会主義トセリ、コレモハ村有社会制度行ハレ居タ
リ、社会主義者ハ之ニ着目シテ農業ト社会主義トハ結び難キモ之レヲ行
ハント欲セリ、

社会主義ハ資本即チ生産機関ノ共有ハ之ヲ認ムルトモ之ヲ利用シテ得タ
ル結果ハ私有トスルコトヲ許ス可キモノナリト主張スルモノナル故共產主
義ニ比シテ道ヲニ理論的ナレトモ理論上ヨリ云フモ実行上ヨリ云フモ故多

ノ大體ヲ有セシモノニシテ之ヲ是認スルコト能ハズ、其ノ理由ノ重ナルモ
ヲ挙ケレバ

- (1) ハ社会主義者カ不勞所得ヲ攻撃スル根拠ハ前述ノ如ク労働ハ價格ノ測
源ナリト云フ説ナリ、然レバラ労働ハ價值價格ヲ生スル唯一ノ原因ニハ
非ラズ、價值及ヒ價格ハ文章ニ述フルカ如ク種々ナル原因ニ依リテ定マ
ルモノニシテ決シテ労働ハ價值ヲ反映セルモノニアラズ、故テ労働ヲ為
シタ者カ其ノ生産物ノ全部ヲ其ノ手ニ納ム可キ理由ナシ、使リニ一歩ヲ
譲リテ労働カ價值ヲ反映セルモノナリトスルモ社会主義者ノ云フカ如ク
ニ労働時間ノ長短ヲ以テ之ヲ計ルコト能ハス、何トナラバ全シ時間ノ勞
働ニテモ能率等ニ大ヒナル差異アリ、又労働ノ種類ニ依リテモ社会ニ及
ホス影響全シカラザレバナリ、故ニ社会主義ノ基礎タル労働價值論ハ資
本主義ノ代價ヲ攻撃スル上ニハ最も有力ナル説ナリト云フヲ得ルモ労働
ニ依リテ價值價格ヲ定メテ之ニ依リテ分配ヲ公平ナラシメンコトハ到底
之ヲ望ムコト能ハサルナリ、
- (2) ハ此ノ社会ニ屬スル者ハ生産機干ヲ自由ニ利用スルヲ得ト云フモ之

ヲ許ストキハ今日ノ経済社会ニ於ケレト企シク需用供給ノ調節ヲ望ムコトハ進キナリ、故ニ社会ハ強制的ニ生産ノ種類等ヲ指定シテ生産等ヲ為サシメサル可カラス、各人ノ自由意思ヲ認メサルコトハ共産主義ト異ナラサルナリ、

又六

(3) ハ、ハ労働ヲ為シタル者カ其ノ結果ヲ私有トスルコトヲ許スト云フモ此ノ事ハ或ハ他ノ若ヨリ独立シテ生産ニ従事スルヲ得ル場合ニハ之ヲ実行スルコトヲ得ヘケンモ他ノ若ト競争シテ生産ニ出リタル場合ニハ各人ノ労働ノ結果ヲ知ルコト能ハス、各人ノ労働シタル時間ノ如キハ列夜之ヲ知ルコト能ハス、之ヲ明確ニ知ラントスルニハ極メテ厳格ナル監督機關ヲ設ケサル可ラズ、

(4) ハ、ハ労働シタルモノニ其ノ結果ヲ私有セシムトモ各人ノ間ニ所得ノ公平ヲ得ヘキカハ疑ハシキナリ、何ナレバ企シ時間労働シテモ生産ノ結果ハ他ノ種々ナル原因ニ依リテ束マレモノナレバ列夜所得等ヲ企一ナラシムルコト能ハズ、従ツテ企シ労働シタル者ノ間ニ不平ヲ抱クモノナラシスルハ明白ナリ、

(5) ハ、ニハ社会主義ノ行ハレ、社会ニテハ消費ノ自由ヲ認ムレバ上ハ便令生産シタルモノヲ資本化スル事ハ許サレ居ラズトモ社会ノ若ノ間ニ勢力ノ差異ヲ生スルコトハ明カナリ、従テ其ノ社会ハ現今ノ如クニ或レ階級ヲ生シ未レコトモ又避クヘカラサルガ如シ、

(6) ハ、ハ各人ハ経済生活ニ於テ大ナル差異ナキヲ望ムトスレモ之ニ依リテ各人カ精神的ニ幸福ナリ又否ヤト云フコトハ大ナル疑問ナラサル可カラズ、假令各人カ物質的ニ幸福ナリト云フモ必ス精神的ニ幸福ナリト云フ事能ハサレバナリ、

之ヲ要スルニ社会主義ハ現在ノ経済社会ノ欠陥ヲ攻撃スレテ最モ深刻ニシテ之ニ資本家ノ反省ヲ促シ國家ヲシテ労働者保護ノ制度ヲ起サシメタル功ハ之ヲ没スルコト能ハサレトモ其ノ新々ニ起サレントスル社会主義ニ至リテハ甚々不明ニシテ之ヲ実行スル事能ハサルナリ、故ニ社会主義者カ漸次社会ニ勢力ヲ得ルニ至ルトモ列夜之ヲ実行スルコト能ハサリレカ故ニ労働者カ社会主義ニ對シテ大ヒニ失望セサルヲ得サリヤ、

又七

茲ニ於テ *Prudentialism*、如ク過激ナル主義起レニ至リケルナリ、

六八

Syndicalism の資本家ヲ倒シテ労働者ノ團結ノ力ニ依リテ可カラサルコトヲ理想トセルモノニシテ当面ノ事業トシテハ現代ノ經濟社会組織ヲ破壊スルコトニ力ヲ尽セリ、而シテ之ヲ破壞スル方法トシテハ直接行動ニ訴フルナリ、直接行動中最モ有力ナルモノハ總同盟罷工ト *Sabotage* ナリ、*Syndicalism* ノ主張言ハレ *Direct* ノ説明ニヨリバ階級闘争ハ事実トシテ世ニ存セルモノナリ、資産階級ト無産階級トハ利害利害カ一取メレモノニハアラス、資産階級無産階級何レカハ勝タガレ可カラズ無産階級ノ勝ヲ得ルハ格リ直接行動アルノミナリ、社会ヲ破壊セハ新ラシキ社会ヲ依ル可シ、現代社会組織ニシテ階級多シトセバ之ヲ破壊ス可シ、多少優リタル社会ヲ得可シ、其ノ社会ニテ満足セザシ時ハ尚ホ更ニ之レヲ破壊ス可シ、斯ノ如クニ破壊ヲナスコトニ依リテ新次理想的社会ニ近ワクコトヲ得可シ、社会主義者ノ如クニ予メ新ラシキ社会ノ組織等ヲ想像シテ之レニ近付カントスルカ如キハ大ヒニ誤レリ、*Syndicalism* ハ単ニ破壊ヲ説クモノニシテ建設ヲ説カサルナリ、現代經濟社会主義ニシテ階級闘争ノミアルモノトシバ其ノ論理ハ正シキガモ知レヌ、然レバ之ヲ現世ノ社会

Sabotage

組織ニシテ多クノ利益アリトセハ *Syndicalism* ヲ廢ムルコト無クハスト恩

Syndicalism ハ佛蘭西ニ起リ、伊太利、英乙ニ移リ更ニ米國ニ渡レリ、之ハ実権ヲ労働者ノ団体トシテ *Syndical* ニ稱サント云フナリ、*Sabotage* ハ労働者ノ穿ツ靴ナリ、之レニテ階級スレナリ、日本ノ脚底(十マケル)ニ意ニテ入り来レルハ奉ナリ、

guild socialism

更ニ近頃ニ至リテ *guild* 社会主義ヲ主張スレモノ少ナカラズ、社会主義ヲ実行スルトキハ上ニモ速フレカ如クニ消費者ノ意思ヲ以テ生産者ノ意思ヲ征服セシムル事トナルモノニシテ決シテ社会ヲシテ幸福ナラシムヘキ所以ニアラズ、又 *Syndicalism* ヲ実行セハ消費者ノ意思ヲシテ全然生産者ノ意思ニ服従セシメサルハカラス、之レ又決シテ社会ヲシテ幸福ナラシムル所以ニアラス、生産者ト消費者トカ協定シテ生産等ヲ行ヘバ初メテ生産ト消費ト一致セシムルコトヲ得ルモノナリ、現代ノ政治組織ハ生

産ノ種類、職業等ヲ基礎トシテ代表者ヲ出シテ以テ立法等ヲ為サレムルモ
ノニ非ズ、之ハ生産者ト消費着トラシテ協定セシムル益ニアラズ、故ニ現
代ノ政治社会組織ヲ改メテ職業ヲ標準トシテ代表者ヲ出シテ以テ生産ノ
方法等ヲ協定セシムル時ハ或ル種ノ生産者ヲシテ其ノ意思ノミヨリ依リテ行
動スルコトヲ許サズ、或ル種ノ生産者ハ其ノ生産ニ関シテハ生産者トシテ
痛切ニ其ノ利益ヲ代表スルヲ得ルモノナレバ他ノ種類ノ生産ニ付キテハ消
費者ノ自作ニ在リ、之等ノモノカ協定セバ初メテ生産ト消費トヲ合致セシ
ムルヲ得可シ、即チ古語國ニ行ハレタル *guild*、制度ヲ採取シテ以テ
社会組織ノ根柢トナサント云フナリ、且ツ是等職業ヲ同シクセルモノ、固
ニ於テハ其ノ自治ニ任スル時ハ其ノ今日ノ如キ利害干渉ナキ若カ外部ヨリ
容喙スルニ比シテ最モ直当ニ其ノ組合内ノ事務ヲ處理スルコトヲ得可シ、
且ツ社会ハ小ナル利益団体ニカレテ集リテ以テ社会ヲ構成スルモノナレバ
今日ノ如ク強者ハ弱者ヲ壓シテ其ノ利益ヲ計ルコトナカラント云フナリ、
此ノ論ハ英吉利ノ如クニ自治制カ大ヒニ発達シテ労働組合カ大ヒニ勢力ア
ル所ニ起ル事ハ之ヲ想像スルヲ得ルモ如何ナレ國ニ於テモ之ヲ実行スルヲ

- (一) 俾レカハ大ニ疑ハサルヲ得ヤレナリ、
ハ、ハ社会ヲ職業ニ依リテ分割ス可シト解クモノナレトモ眞實ニ利害ヲ代
表セシムルカタメニハ若干ノ數ニ之ヲ分割セサル可カラズ、斯ノ如ク
ニシテ能ク直当ニ生産者ト消費着トノ利益ヲ調和セシムルコトヲ得ルカ
ハ疑問ナラサルヲ得ヤレナリ、
- (二) ハ、ハ全シ生産者ニ代表スルモノカ組合ヲ組織シテ其ノ内部ノ事務ハ自
治ニ任スヘキモノナリト云ヘルモ其ノ組合員中ニモ勢力ノ差異アルコト
ハ免ルヘカラサルコトナリ、然ラバ其ノ組合ハ是等勢力アル者ノ支配ニ
服スルコトハ或ル今日ニ比シテ譲ラサルコトナラント思ハレ、此ノ事ハ
決シテ是等ノ論者ノ理想ニカナヘル事ニハ非ズ、
- (三) ハ、ハ仮リニ一歩ヲ譲リテ是等ノ組合ノ代表者ハ其ノ利益ヲ直当ニ代表
スルモノトスルモ他ノ代表者ニシテヨリ理解スルニ非ル限リハ消費着ノ
意思ニ依リテ生産者ノ意思ヲ通スルニ至ルコトモ殆ンド疑ヒナシ
- (四) ハ、ハ仮リニ更ニ一歩ヲ譲リテ是等ノ理想カ行ハルハ、ニ至リタリトスル
モ此ノ事ハ經濟上ノ利害ヲ依リテ社会ノ運動ヲ決スルコトニシテ社会ヲ

シテ内藩ニ際達セシムル上ニ於テ誤リナキヲ得ルヤハ是レ亦疑問ナラサ
ルヲ得サルナリ、要スルニ *guild* 社会主義ハ社会主義並ニ *Syndicalism*
Calism、説ケル所ヲ探索シテ起リ来ルモノナレトモ之ニ依リテ社会
ヲ改造シテ理想的ノ社会ヲ依ルコトガ出来ルヤ否ヤハ尙ホ殊究ノ余地ア
ルモノナリト云ハサル可ラズ、

現以ノ经济社会組織ニシテ上ニ述フレカ如ク一面ニハ多クノ利益アルト
公時ニ一面ニハ多クノ弊害カアリトセバ正統学派ノ学者ノ云フカ如クニ之
ヲ自由ニ放任スヘカラサルコトハ明白ナレトモ理論上ニ於テモ實際上ニ於
テモ尙ホ多クノ疑問ヲ存セルモノヲ以テ之レニ於テラメントスルカ如キハ決
シテ吾々ノ社会生活ヲ幸福ナラシムル所以ニハアラズ、故ニ上ニ述ヘタル
社会政策ヲ実行シテ現代经济社会組織、下ニ於テ其ノ弊害ヲ除去スルコト
ヲ努ム可キモノナリ、且ツ諸國カ社会政策ヲ実行スルニ至リタルハ歐ニ近
年ノコトニシテ曰尙ホ於キナリ、其ノ社会ノ弊害ヲ改ムル力ノ多少ノ如キ
ハ尙ホ未々知ルコト餘ハサレナリ、諸國ニシテ力ヲ尽シテ社会政策ヲ実行
シタル時ニハ、或ハ現代经济社会組織ノ長ヲ採リ短ヲ捨ツルコトヲ得可シ、

七二

蓋シ社会政策ノ精神トスル所ハ一面ニハ何人ノ意思ヲ尊重スルト公時ニ一
面ニハ之ヲシテ社会共同ノ意思ニ一致セシメントスルナリ、学者或ハ之ヲ
社会连带主義ト称スル者アル所以ナリ、

第五章 價 値

價値ト效用

吾人人类カ経済ヲ営ムニ当リテ貨財ニ對シテ抱ク輕重ノ念ヲ價値ト云ハ
ルナリ、此ノ觀念ニツキテ注意スルモノキコトハ價値 (*Wert*)、效用 (*Nüt-*
zlichheit) トヲ區別セサル可カラサル事ナリ、效用トハ貨財カ吾々
人类ノ慾望ヲ満足スル程度ノ意ナリ、慾望ヲ満足スル程度ト云フコトハ貨
財ト慾望トノ一般的干渉ヲ云ヘルモノニシテ其ノ貨財ノ物理的化學的性質
ヲ云ハルニ非ス、従フテ其ノ貨財ノ物理的化學的ノ性質ニ變化ナクモ吾

七三

々人類ノ慾望変化スル場合ニ、效用其ノモノモ亦変化セサルヲ得サルナリ、
 而シテ吾々カ特定ノ場合ニ於テ貨財ノ效用ヲ計リテヲ尊重スルノ念慮ヲ價
 値ト云ヘルナリ、例ヘハ吾々カ米穀ヲ以テ餓ヲ癒シ健康ヲ維持スル力アリ
 ト思ヘハ米穀ノ效用ハ大ナリト云フナリ、然シテ吾々カ米ニ対シテ抱ケ
 ル尊重ノ念ハ常ニ全シカラズ、餓ヲ癒セル時ト然ラサル時、健康ナリシ時
 ト然ラサル時トハ大ニ異ルナリ、此ノ特定ノ場合ニ於テ其ノ貨財ノ效用ヲ
 測定シテヲ尊重スル程度ヲ其ノ場合ニ於ケル米ノ價值ト云ヘルナリ、即チ
 効用ハ特定ノ場合ヲ予想スルモノニ非レド價值ハ特定ノ場合ヲ予想セルナ
 リ、従ワテ特定ノ場合ニ於テハ其ノ場合ニ於ケル吾々ノ慾望ノ状態、貨財
 ノ数量其他ノ事情ニ依リテ如何カ貨財ニ対シテ有ヌル價值ニ変化ヲ生セサ
 ルヲ得サルナリ、學者カ貨財ノ價值ハ貨財ノ效用ニ正比例シ數量ニ反比例
 スルモノト説明シテ效用ト數量トヲ相並ヘテ説明セルモノ多クレトモ少シ
 ク殊究セバ此ノ事ハ貨財ノ客觀的交換價值ヲ説明スル場合ニシテ其ノ他ニ
 於テハ斯ノ如ク簡單ニ説明スルコト難ハサレカ如クニ思ハレ、價值ト效用
 トハ觀念上差異アルモノナルカ學者中ニ之ヲ區別セサル者アリ、

英吉利ノ *Scarceness* ナコ、ニテノ觀念ヲ説明スルニ當リテハレヲ適當ニ云
 ヒ表ハス文字ナカルニ故效用 (*utility*) ナル文字ヲ用ヒテ之ニ述フル
 カ如キ限取故用説ヲ (*Final marginal utility theory*)
 立テタリ、

價值ト價格

今一ツ茲ニ注意スヘキコトハ價值ト價格トカ異ナルコトナリ、或ハ交換
 價值ト云フ事ト價格トヲ區別セサル者アレトモ之ハ誤解ナリ、交換價值ハ
 或レ貨財ヲ交換スルニ當リテ抱ケ尊重ノ念ニ外ナラサルヲ以テ必然タル心
 理現象ナリ、従ツテ如何カ其ノ交換價值ニ依リテ現貨ニ交換ヲ為スコトヲ
 得ルニ否マハ之ヲ知ルコト能ハヌ、現貨ニ交換ヲスルニ當リテ定マル割合
 ハ次ニ述フルカ如ク交換價值ノ外ニ多クノ原因ニ依リテ定マルモノナレハ
 交換價值ト一致セザル場合頗ル多カルベキ訳ナリ、俗ニ割安ニアル物ヲ來
 ヲ得タリト云フコトナリ、其ノ事ハ其ノ貨財ノ交換價值ハ大ナルモノナレ
 トモ売手買手等ノ事實ニ依リテ買手カ交換價值ヨリ低キ價格ヲ以テ購フコ

トコ得タト云フコトナリ、貸財ノ交換價值カ價格ヲ決定スル上ニ極メテ重
要ナル原因ヲ為セルニ相違ナキモ決シテ一致セルモノニアラス、觀念トシ
テモ之ヲ區別セサル可カラズ (Value in use) Value in
exchange (Value in exchange) カ價格ト全ク
説明シタリ、)

價值ノ分類

價值ハ普通使用價值 (Gebrauchswert) ト交換價值 (Tausch-
wert) トニ區別セラル、又主觀的價值ト客觀的價值トニ區別セラル、

使用價值ト交換價值

使用價值トハ吾々カ或ル貨財ヲ以テ直接ニ慾望ヲ満足スルニ當リ其ノ貨
財ニ對シテ懐ク輕重ノ念ナリ、上ニモ述フルカ如ク或ル貨財ニ對シテ懐ク
輕重ノ念ハ吾々ノ慾望等ノ状況ニ依リテ常ニ全シカラサルモノニシテ使
テ其ノ價值カ常ニ全シカラサルハ勿論ナリ、又全一貨財ニ對シテ抱ク輕重

ノ念ハ人ニ依リテ大ニ差異ノアル可キコトハ勿論ナリ、
現今交換經濟ノ行ハル、時代ニアリテハ吾々ハ貨財ヲ以テ直接ニ慾望ヲ
満足スルニ止マラスシテ其ノ貨財ヲ他ノ者ノ有スル貨財ト交換シテ以テ慾
望ヲ満足スルコト甚々多シ、此際吾々ハ其ノ貨財ノ交換ノ割合ニ付テ全ク
注意セサルモノニハアラス、他ノ貨財或ハ何程ノ數量トシテ交換スルコト
ヲ慾スレドモ其レ以下ニテハ之ヲ慾セザル可シ、其ノ貨財ヲ交換スルニ當
リテ抱ク輕重ノ念ヲ交換價值ト云ヘルナリ、

交換價值ハ使用價值ニ基キテ變動スルハ勿論ナレドモ使用價值アルモノ
カ以テ交換價值アリト云フ歟ハ又、交換價值ハ前提トシテ交換ノ可キナレ
事實ナカルベカラズ、故ニ貨財ノ性質上交換價值ヲ許サハルモノ並ニ然々
カ絶対ニ交換價值ヲ欲セザルモノハ交換價值ノ存スル理由ナレ、然レ貨財
ノ大部ハ然々ハセテ以テ直接ニ慾望ヲ満足スルニ用エルト全クニ交換價值
ヲ為スモノナルガ故ニ使用價值アルト全クニ交換價值アルモノナリ、

主觀的價值

主観的價値トハ一ニ何人の價値ト云フモノナリ、吾々カ貨財ニ対シテ何人トシテ抱ク輕重ノ念ヲ云フ、吾々何人トシテノ輕重ノ念ハ吾々ノ境區嗜好等ニヨリテ他ノ者ノ抱ク輕重ノ念ト必ズシテモ一致セズ、而シテ吾々カ他人ニ売却スルコトヲ目的トシテ購求シヌハ生産シタルモノハ社会多數ノ者ノ抱ク輕重ノ念ト一致スルコトヲ原則トセルナリ、

客観的價値

客観的價値ハ一ニ社会的價値ト云フ、或レ貨財ニ対シテ社会一致ノ者ノ抱ク輕重ノ念ナリ、例ヘバ社会多數ノ者カ糶養物トシテ牛肉ハ鶏卵ニ優レリトスルトキハ牛肉ノ客観的價値ハ卵ノ客観的價値ニ優レリト云フカ如キモノナリ、経済社会ニ於テ貨財カ賣買セラル、又其ノ價格ハ主観的價値カ望キヲナスモノニアラズレテ客観的價値ニ優レリト云フカ如キモノナリ、経済社会ニ於テ貨財カ売買セラル、又其ノ價格ハ主観的價値カ望キヲナスモノニアラスレテ客観的價値カ望キヲ為スコトハ明カナルモ客観的價値モ畢竟多數ノ主観的價値ノ綜合シタルモノト云ハザル可カラサルモノニシテ

必ズシモ科学的ノ根拠等アリテ決マリタルモノニアラズ、一種ノ群衆心理現象ニ外ナラザルガ故ニ時ヲ經タルト共ニ変化セザルヲ得ザルモノナリ、其ノ最モ顯著ナル例ハ流行ニ依リテ價値、従ツテ價格が変化スルガ如シ、

價値ノ決定

(一) 生産費説ト限界效用説

價値ハ如何ニシテ決定マル可キカハ経済学者ノ間ニ於テ議論アル所ナリ、價値ノ学説ヲ概観スルニ之ヲ二ツニ大別スルヲ得、生産費説並ニ限界效用説是ナリ、

前者ハ貨財ノ價値ハ其ノ貨財ノ生産費其ノモノニ依リテ決定スヘキモノナリト云フ事ヲ説明スベキモノニシテ吾々人類ノ心理現象ニ其ノ原因ヲ求メスレテ、専ラ外部ノ原因ニ依ルヘキモノナリト力説セリ、又之後若ハ價値ヲ心理現象トシテ説明セントスルモノナリ、尚ホ價値ノ学説トシテハ所働價値説ト稱スルモノアリ、Marschall 氏社会主義者ニ依リテ主張セラレタルモノナリ、然レ價値説トシテハ生産費説ノ一変形

トモ見ルハキモノヤルカ故ニ此知ニハ先ツ生産費説ヲ紹介シテ労働價值
説ニ付テ一言スルコトニ止メ、

(1) 生産費説

生産費説モ其ノ起源ハ極メテ古キモ正統洋派ノ学者ニ依リテ大成セラ
レタレモノニシテ *Mills*、如キハ價值ノ法則ニ関シテハ既ニ未解決ノ
モノナシトマデ然セル位ナリ、正統学派ノ学者ハ使用價值ト交換價值
トヲ區別スレモ特ニ經濟學ニ於テ研究スベキモノハ交換價值ニアリト
シテカヲ其ノ研究ニ注キ生産費ヲ以テ之ヲ説明セリ、
貨財ニハ隨意ニ増加スベカラザルモノト増加シ得キモノトアリ、
隨意ニ増加スルコト能ハサルモノ、價值ハ生産費ニハ干渉ヤキモ止等
ノモノハ寧ロ例外ニシテ貨財ノ大部亦ハ隨意ニ生産増加スルコトヲ得
レモノナリ、土等ノ貨財モ其ノ數量ノ單位ノ生産費ヲ増加セズシテ數
量ヲ増加シ得ル工業品ノ如キモノアリ、數量ヲ増加シ得ルモ其ノ單位
ノ生産費ヲ増加セザルヲ得ザル農産物ノ如キモノアリ、何レモ其ノ價

格ハ生産費ニ相当ノ利潤ヲ加ヘタルモノヲ標準トシテ之ニ依リテ定マ
ル可キ傾向ヲ有スルモノナレド前者ハ其ノ生産費中最モ低キモノ(最
低生産費)ヲ標準トシテ之レニ級着スル傾向アリ、

之ニ反シテ後者ハ生産費中最モ高キモノ(最高生産費)ニ級着スル
ノ差異アリ、何トナレハ工業品ノ如キハ其ノ生産中最モ有利ニシテ生
産費ノ最モ低キモノカ市場ノ状況ニ依ヒテ益々生産スルヲ得ルモノナ
ルカ故ニ他ノ生産者モ之レト逐ニ競争スルニハ假令利潤ヲ減少シ犧牲
ヲ及ビテモ之ト同一價格ヲ以テ売ラサル可カラサルカ故ニ其ノ生産費
ト相当ノ利潤トノ和が其ノ市場ヲ支配スルコトナル、

然ルニ農産物ノ如キニ至リテハカノ收穫適限ノ法則ノ結果其ノ數量
ヲ増加セントスルトキハ生産費ヲ増加セザルヲ得ザルヲ以テ最高生産
費ヲ出シタルモノヲ満足セシメ得ル價格ニアラザレバ其ノ需要ヲ満足
シ得ル數量即チ供給ヲ得ルコト能ハズ、

故ニ最高生産費ト相当利潤ノ和ヲ以テ標準トシテ之ニ級着セントス
ル傾向アリ、但シ生産費力價值從フテ價格ヲ定マルト云フハ其ノ標準

ヲ定ムルノ謂ニシテ市場ニ於ケル交換價值即チ價格ハ常ニ之ニ一致シテ動カスト云フニアラズ、

市場ニ於ケル價格ハ其ノ標準ヨリ高キコトアル可シ、斯クノ如キ場合ニハ之ヲ生産取産セントスルモノ繼出シテ供給ヲ増加シ價格ヲ低減セシメ又其ノ標準ヨリ低キコトアラハ供給者ハ相当ノ利潤ヲ得レコト能ハサレカ故ニ生産取産ヲ中止スル者ヲ生シ為メニ供給ヲ減シ價格ヲ騰貴セシムルモノナリ、即チ價格ハ常ニ動搖スルモノナレド生産費ニ相当ノ利潤ヲ加ヘタルモノヲ以テ安定矣ヲ取ルニ至ルベシ、要スレニ交換ノ價值ハ生産費ニ依リテ定マルモノナリト説明スルナリ、
生産費說ニ対シテ注意スベキ點、
此ノ說ニ対シテ注意スベキ點ハ、

- 第一、ニ價格ト交換價值トヲ全視シタルコトナリ、修正ナル理論ノ味先トシテハ兩者ハ之ヲ區別セザルベカラズ、之ヲ全視スルハ誤謬ナリト云ハザル可カラズ、依リニ之ヲ許スモ、
- 第二、ニ注意スベキコトハ此ノ原則ノ行ハル、場合ハ其ノ説明ニ依リ

テモ市場ニ於テ売買セラレ而モ其ノ市場ニ於テ協給者ノ間ニモ需要者ノ間ニモ競争行ハル、場合ナリ、
貨財中ニハ市場ニ於テ取産セラレザレモノ少ナカラズ、從フテ有

エル貨財ノ交換價值ハ生産費ニ依リテ定マルモノナリト云フコト能ハズ、如キ市場ニ於テモ常ニ競争力充全ニ行ハル、モノニ非ズ、故ニ生産費其ノ者ハ市場ニ於ケル價格ヲ定マルモノニアラズシテ標準價格ヲ定マルモノナリト云フモ其ノ原則ノ種々ノ事カ起ル場合ハ更ニ確少セラレタルモノナリト云ハザルヲ得ズ、

第三、ニ注意スベキハ生産費カ交換價值ノ安定點ヲ定ムルニスキズシテ市場ニ於ケル交換價值ハ生産費ヨリ離ル、コト甚々多キハ此ノ說ヲ説ク者ノ誤ムル所ナリ、若シ交換價值カ其ノ安定點ノ前後ニアルノミナラズ假令其ノ安定點ニアルコトアリトモ、永ク其ノ點ニ止ルコトナクシテ再ヒ其ノ前後ニ動搖スルモノナリトセバ交換價值ハ生産費ニ安定點ヲ來スルモノナリト云フモ實際上殆ンド意味ヲ為サシルモノト云フヲ得、

第四、ニ注意スヘキハ此ノ説ハ貨財ノ價值ヲ定ムルモノハ其ノ貨財ヲ生産スルニ要シタル費用ナリト云フコトナリ、此ノ事ニシテ正シトセハ貨財ニ要スル費用ハ人ニ依リ場合ニ依リ常ニ異ナラサルヲ得サルモノナレバ全一種類ノ貨財カ一定ノ交換價值ヲ有セサル訳ナリ、例ハ或ル貨財ヲ生産スルニ熟練ナレ者ニハ二円ヲ要スレトセ不熟練ナルモノニハ三円ヲ要シタリトセバ前者ニテハ二円ニ三十分ニテ売買セラル、モノナレド後者ニ於テハ三円ニ十分ニテ売買セサルベカラザルニ至ル、此ノ理ハ實際有リ得可カラザル理ナリ、

而シテ工業品ノ交換價值ハ最低生産費ニ依リテ定マレモノナリトノ説明ヨリスルモ交換價值ヲ定ムルモノハ貨財ノ生産ニ要シタル費用其ノ物ニアラスレテ尙未其ノ貨財ヲ生産スルニ要スベキ費用ナリト云ハサレ可カラズ、故ニ學者中此ノ氣ヲ修正シテ説明セルモノアリ、之ヲ生産費説ニ對シテ複生産費説 *Costs of reproduction theory* 云ナリ、

此ノ説ハ貨財ノ供給者カ其ノ貨財ノ交換價值ヲ定ムルニ当リ生産

費ヲ標準トスルモノナリト云フニ止マリ若シ其ノ經濟市場ノ求勢ニシテ之ヨリ高キ價格ヲ要求スルコトヲ得ルモノナリトセハ必ス其ノ標準ニ依ラスレテ高キ價格ヲ要求ス可シ、使リニ一歩ヲ譲リテ貨財ノ交換價值ハ供給者カ生産費若クハ複生産費ヲ標準トシテ之レヲ定ムルモノナリトスレモ需者ハ單ニ感情ノミニヨリテ之ヲ高シトシ若クハ欲シトナスノ外價值ノ決定ニハ何等ノ力ヲ及ボス事能ハサルモノナレカ換言スレバ需者カ價值又ハ價格ニ對シテ下ヌ地判ハ單ニ感情ノミニシテ根柢ナキモノナルカハ甚々疑ハレキナリ、此ノ點ニ着目シテ價值ヲ立テタルモノガ限界效用説ノ如キ主觀的價值説ナリ、此如ニ主觀的價值説ノ代表トシテ限界效用説ヲ説明スルニ先ケテ労働價值説ニ付テ一言セシ、

(3) 労働價值説

労働價值説ハ初メハ夫ノ *Ricard* ノ取リタル價值説ナリ、價值ハ其ノ貨財ノ生産ニ用ヒラレタル労働ノ數量ニ依リテ定マルモノナ

リト云フナリ、生産費説ニ云フ生産中ニハ生産ニ用ヒタル労働並ニ資本ヲ含ムモノナレトモ労働價值説ニ於テハ独リ生産ニ用ヒラレタル労働ノ数量ノミヲ見ルモノナリ、尤モ *Ricard* ハ其ノ説ヲナスニ当リテ労働数量ト称スレトモ労働者ノ熟練労働ノ熟率等ニ依リテ異ルモノナレトヲ認メタルカ故ニ便令或ル貨財ヲ生産スレニ全一曰數ノ労働ヲ用ヒタリトスルモ全一ノ交換價值ヲ生スルモノニ非ル事ヲ兼認セルカ故ニ労働ト資本トヨリ或ル生産費ニヨリテ説明スルト大ナル差異ナキ筈ナレドモ *Ricard* ノ用ヒタル文字ノ如ク判断スルトモハ其ノ生産ニ用ヒラレタル労働ノ熟率等ニ依リテ異ナルモノナレトヲ兼認セルカ故ニ労働数量ニ依リテ定マルモノナリト云フコトヲ説明シタルモノナリト云フヲ得、

129キ

Malthus、*Ricard*、説ク所ヲ數行シテ其ノ資本論ノ骨子ヲナセリ、即チ商品カ商品トシテ賣買取引セラル、所以ハ勿論人類ノ慾望ヲ満足スル性質即チ使用價值力有ルカ故ナレトモ一方ニ他ノ商品等ト交換賣買セラル、数量的干渉ハ畢竟其ノ生産ニ用ヒラレタル労働ノ数量ノ異ルカ故ナリ、即チ商品トシテノ共通の性質ハ労働生産物トシテノ性質ナリ、勿論其ノ商品ノ生産ニハ労働ノ外資本即チ原料モ必要ナレドモ其ノ原料ノ生産モ亦労働ト原料トヲ必要トスルモノナレハ之レヲ追及スレトモハ其ノ商品ハ労働ノ結晶ナリト云フヲ得、又其ノ商品ヲ生産スレニハ熟練ナル労働ト然ラザレモトニ依リテ差異アルヘケレド前者 *Malthus*、所謂複合労働ニ於テモ亦後者即チ単純ナル労働ニ較ラシマルコトヲ得ルモノナレバ交換價值ト其ノ生産ニ用ヒラレタル労働ノ数量ニ依リテ決定スレトヲ得ルモノナリト云フナリ、

此ノ説明ハ *Ricard*、説明トハ稍々異ナレトモ生産費ノ一変態タルニ於テハ全一ナリ、此ノ説モ上述ノ現代ノ經濟社会組織ノ批判トシテノ論拠トシテ多クノ欠点ヲ有スルコトヲ除外スルモ價值説ノ一種トシテ上ニ奉ケタル生産費ニツキテノ批准ハ悉ク之ヲ後シテ直用スルコトヲ得可シ、

(労働價值説ハ *Adam Smith* 曰ク *Ricard* ニ至リ

Bismarck *Bauerfeld* ノ事ケタル例ヲ用ヒテ云ハ此如ニ一人ノ種
 民着アリ、森林ニ入りテ全ク他ト交通ヲ絶テ其ノ耕シ得タル小麦
 ヲ以テ次ノ收穫期迄生活シタル者アリト仮定セバ第一ノ袋ハ生命ヲ
 維持スルタメニ必要ナリ、第二ノ袋ハ其ノ健康ヲ保持スルタメニ必
 要ナリ、第三ノ袋ハ副食物ノ為メニ家畜ヲ養ヒ若クハ用ヒ、第四ノ
 袋ハ酒精ヲ醸造スルニ用ヒ更ニ第五ノ袋ニ至リテハ殆ンド必要ナキ
 カ故ニ小島ヲ銅ヲ用ヒタルモノトセバ今若シ此ノ種民者ニシテ袋
 以上ノ小麦ヲ有セサルモノトセバ家畜ヲ養ヒ若クハ酒精ヲ醸造スル
 ニシテ用ユルコト難カレ可シ、必ラズ故用ノ最大ナルモノニシテ用
 ヲ用ユルカナリ、其ノ数量ノ増加スルニ從ヒテ漸次緊切ナラザル
 望ヲ満足スル為メニ用フ可シ、從フテ一定量ノ貨財ノ價值ハ漸次減
 少スルモノナルト云フヲ得、而シテ一定量ノ貨財ノ價值ヲ知ラント
 欲ヒハ其ノ一定量ヲ以テ満足ス可ク總量ヲ見ルトキハ之ヲ知ルコト
 ヲ得可シ、
 又茲ニ小麦五袋ヲ以テ生活スル者アリトセン、他ノ種民者ヨリ他

ノ貨財ヲ以テ其ノ小麦ト交換センコトヲ要求セラレタリトセバ其ノ
 交換又バ貨財カ如何ニ價值大ナリトスルモ五袋ノ小麦ト交換セン
 トセザル可シ、之ヲ行ハシ生活スル事能ハザレバナリ、然レトモ其
 ノ貨財ニシテ小麦ヲ銅ニ化シテ價值大ナルモノト為サバ小島ヲ銅
 フコトヲ察シテ小麦一袋ヲ以テ之ト交換スルコトヲ肯ス可シ、即チ
 五袋ノ小麦中一袋ノ價值ハ其ノ一定量ノ貨財ナカリセハ如何ナル
 望ヲ満足セラル、カヲ冠バ之ヲ知ルコトヲ得、
 此ノ例ニ於テ小麦が四ナリトセバ小島ヲ銅ヲ事ヲ止ム可ク、
 ノミナラバ酒精ヲ醸造スルコトヲ止ム可シ、

即チ貨財ノ數量減少セバ其ノ一定量ノ價值ハ増加スルモノニシテ
 其ノ數量増加セバ其ノ一定量ノ價值ハ減少セザレテ得ズ、其ノ一定
 量ノ價值ハ最後ノ一定量ノ貨財ニ依リテ満足ス可キ總望ヲ冠バ之ヲ
 則リ知ルコトヲ得ルモノナリ、故ニ之ヲ限界故用ト云フナリ一
 故用トハ此ノ貨財ノ経済的ニ現実ニ用ヒラル、最少ノ故用ヲ意味ス
 ルナリ、將來用ヒラル可キ想像セラル、最少ノ故用ニハ非ルナリ、

コノ説明ハ専ら貨財ニ付テノ説明ニシテ生産貨財ニツキテノ説明ハ非ス、又貨財ノ一定量即チ一部分ニ付テノ説明ニシテ貨財ノ全部ニ付テノ説明ニハアラス、貨財ノ全部ノ價值又ハ全部ノ效用ハ如何ニシテ決ヒ来ハス可キカハ限取効用説ヲ奉セサルモノ、同ニモ異論アル所コナリ、

Wicksellハ限取効用ト数量トノ横ヲ以テ云ヒ来ハス可キモノナリト云フリ、上ニ掲ケタル例ニ於テ小麦五袋ノ中第五ノ袋ノ效用即チ限取効用ハ一ナリトセバ小麦五袋ハ五ヲ以テ云ヒ来ハスヘキモノナリト説クナリ、

又之 Böhm-Bawerkハ小麦五袋ノ時ニハ限取効用ハ一ヲ以テ云ヒ来ハス事ヲ得レドモ四袋ノ場合ハ二ヲ以テ云ヒ来ハシタル可カラズ、從ツテ五袋全部ノ價值ヲ云ヒ来ハスニハ各々ノ場合ノ限取効用ノ如キラザル可カラズト云ヘリ、

蓋シ Wicksellノ説ハ限取効用價值ヲ示シ價值ハ直チニ價格ヲ示スモノナレバ限取効用ト數量トノ横カ全部ノ價值ヲ示ス可キモノ

ナリト主張セルガ如シ、然レ此ノ價值ハ主觀的觀念ナレ以上小麦五袋ノ場合ニハ如何ナル一袋モ其レ自身價值ノ差異ヲ思サレトモ四袋ノミヨ有スル場合トハ別ニ考ヘサル可カラズト思フ、故ニ上例ニ於テ五袋全部ノ價值ハ Böhm-Bawerkノ説ク如ク各々ノ場合ノ價值ノ如キ如キラザル可カラズ、

限取効用ノ意義ニシテ斯クノ如キモノナリトセバ之ヲ以テ次ノ交換現象ヲ説明スルコトヲ得、
(一)、二人間ノ交換賣買ナリ、

此知ニ甲乙二人アリテ甲ハAヲ有シ乙ハBヲ所有スルモノト仮定セヨ、而シテ其ノ間ニ交換ノ行ハレ、ハ畢竟甲カ其ノ所有スルAノ一定量ノ限取効用カBノ一定量ノ限取効用ニ比較シテ小ナルトハ時ニ乙ノBノ一定量ノ限取効用カAノ一定量ノ限取効用ト比較シテ小ナル場合ニ生スルナリ、甲カAヲ所有スル數量少ナレバ甲ニトリアハAノ一定量ノ限取効用ハ相當ニ大ナラザルヲ得サル歟ナリ、

二ノ所有スルBノ一定量ニ対スル限界効用ニシテ甚々大ナラサ
 レ限リハ甲ノ一定量ヲ出シテBト交換スルコトナカレ可シ、然ル
 ニ甲ニシテAヲ所有スルコト比較的多キトキハ其ノ一定量ノ限界
 效用ハ小ナルヲ以テBノ一定量ト交換ス可シ、此ノ事ハ甲ノ例ヨ
 リ見タル現象ヤレド乙ノ例ヨリ云フモ全一現象ノ存スルモノト云
 ハサレ可カラズ、ABニテスル甲乙ノ價值カ上ニ述ハタル状態ニ
 至リテ初メテ交換カ行ハル、モノナリト云フヲ得、

(2)、ニハ市場ニ於テ價格既ニ決定セル貨財ノ交換賣買ナリ、
 市場ニ於ケル價格カ需要供給ノ原則ニ依リテ定マレルモノナルカ
 故テ貨財ヲ売ル者ハ必ス供給ニ影響ヲ及ホシ從ツテ價格ニ毛影
 響ヲ及ホス理ナレトモ說明ヲ簡單ナラシメンカ為メ價格カ種々ナ
 ル原因ニ依リテ既ニ決定スルモノト仮定シテ其ノ貨財ハ所有者カ
 如何ニシテ其ノ價格ニ売ラントスルモノナルカヲ説明セハ其ノ貨
 財ノ所有者ニ取リテ其ノ貨財ノ一定量ノ限界効用力價格ニ相当ス
 ル貨幣ノ数量ノ限界効用ニ比較シテ小ナル場合ニシテ若シ原因ノ

如何ヲ問ハズ其ノ貨財一定量ノ限界効用力大ナルトキハ進ミテ之
 ヲ市場ニ出シテ売ラントスルモノナカレ可シ、即チ價格極クケレ
 ハ供給減少シ、價格高ケレバ供給ノ増加スルヘシレカメナリ、
 (3)、ニハ市場ニ於ケル交換賣買ナリ、

(2)ニ述ハタル所ハ貨財ノ現在量カ一定不動ナリトノ假説ニ基キタ
 ルモノナレトモ實際ニ於テハ市場ニ於ケル需要供給共ニ変化マル
 モノニシテ其ノ價格高キ時ハ供給ヲ増加シテ價格其ノモノヲ極下
 スル傾向アリ、其ノ價格比較的低キ時ハ需要ヲ増加シテ價格ヲ
 騰貴スヘキ傾向アリ、即チ競争ノ行ハル、コトハ疑ヲ入レズ此ノ
 現象ヲ *Heurion's Law of indifference* 行ハル、
 モノナリト說明セルモ結局競争カ行ハレハ、アリト云フ事ニ外ナ
 ラズ、貨財ノ所有者ハ其ノ存在量ヲ容易ニ動カスコトヲ得ル以上
 貨財ノ價格モ上述ノ場合ト自ラ異ナラサルヲ得ズ、貨財一定量ノ
 價值ハ其ノモノ、限界効用ニ定マルニアラズシテ其ノ貨財一定量
 ヲ生産スヘ交換スル犧牲對價ノ限界効用ニ依リテ定マルモノナリ

ト云フナリ、現今ノ市場ニ於テハ貨幣ハ貨幣ヲ以テ容易ニ購買スル事ヲ得ルモノナルカ故ニ吾々ノ或ル貨幣ノ價值ハ其ノ貨幣ヲ購求スル貨幣ノ數量ノ限用ニ依リテ定マレモノナリ、例ハ此知ニ食シキモノト當メルモノトアリトセン、共ニ外套ヲ失ヒキルモノト仮定セン、外套其ノ物ノ限用ヨリ弄ハハ差異ナカレ可キモ食シキモノ、有スル外套ノ價值ハ富メル者ノ有スル外套ノ價值ニ比較シテ甚々大ナル外套ハ他ヨリ之ヲ求ムル事容易ナレカ故ニ富者ニトリテハ之ヲ求ムルニ要スル貨幣其ノモノ、限用少ナレトモ貧者ニトリテハ其ノ貨幣ノ限用甚々大ナルカ故ナリ、之レハ云フ迄モ之ク市場ニ於テ其ノ貨幣ヲ得ル事容易ナル事ヲ前提トス其ノ前提ヲ欠クトキハ説明異ナラザレテ得ス、

(4)、ニハ生産貨幣ノ場合ナリ、

専業貨幣ノ一定量ノ價值ハ其ノ限用効用ニ依リテ定マレモノナレドモ専業貨幣ノ原料タル生産貨幣ノ價值ハ全一説明ヲ為ス事難ハス、正統学派ノ學者カ價財ノ價值ハ其ノ生産費ニ依リテ定マレモ

ノナリト説明セシハ畢竟専業貨幣ノ價值ハ其ノ生産費ニ依リテ定マレモノナリト云フニ外ナラヌ、然レニ限用効用説ヲ説ク者ハ此ノ説明ヲ覆ヘンテ生産貨幣ノ價值ハ之ニ依リテ得ラル可キ専業貨幣ノ價值ニ依リテ定マリシレヨリトニ出ワルコトナシ、何トナレバ専業貨幣ノ價值ニシテ生産貨幣ノ價值ヨリ少ナル時ハ其ノ生産貨幣ヲ用ヒテ専業貨幣ヲ得ントスル事ハ想像スルコト難ハザレバナリ、例ハハ反物ノ價值ハ之ニ依リテ依ラレ可キ衣服ノ價值ニ依リテ定マレモノナリ、衣服ノ價值大ナレバゴソ吾々ハ反物ヲ用ヒテ之ヲ依ラントスルモノナレバナリ、而シテ全一生産貨幣ヲ以テ種々ナル専業貨幣ヲ得ラルベキ場合ニハ其ノ専業貨幣中最も價值ノ小ナルモノカ其ノ生産貨幣ノ價值ヲ定ムルモノナリ、何トナレハ若シ生産貨幣ノ價值カ之ニ依リテ得ラル可キ専業貨幣ノ中價值ノ稍々大ナレモノニ依リテ定マレモノナリトセハ之レヨリ價值ノ少ナル専業貨幣ヲ得ルカ為メニ價值ノ大ナル生産貨幣ヲ用ヒザレヲ得サル結果ヲ生ヌレハナリ、

如斯ニ享樂貨財一定量ノ限取效用ヲ基點トシテ漸次之レヲ拡張
 數テシテ交換現象ヲ說明スレニ止マラズ更ニ進ミテ一切ノ經濟現
 象ヲ說明セントスルナリ、例セバ資本ヲ貸與シタル者カ利子ヲ收
 ヲルハ畢竟現在ノ貨財ノ價值ハ未來ノ貨財即チ未々手ニヒサレ貨
 財ノ價值ニ比シテ大ヤラザルヲ得ズ、故ニ他人ニ資本ヲ貸與シテ
 若干年月ノ後ニ同額ノ資本ノ返済ヲ受ケルニ限取效用ヨリ云ハシ
 比較的ニ價值大ナルモノヲ貸ヘテ價值小ナルモノヲ受ケルニ均シ
 カル可シ、故ニ資本ヲ貸與シタル者ハ其ノ價值ノ減少補償セシム
 ルカ爲メニ利子ヲ受ケ可キモノナリト説明セルガ如キ之レナリ、
 限取效用說ニ依リテ代表セラル、主觀的價值說ハ貨財ト吾々ノ心
 理現象トノ關係ヲ說明シテ生産費說ノ欠點ヲ補ヒタル事ハ學理上
 之レヲ尊重セザル可カラザル事ナレドモ價值ノ說明ト
 シテ完全ナルモノナリト云フコト誠ハザルナリ、從ツテ學者ノ中
 此ノ學說ニ對シテ非難ヲ爲セルモノ少ナカラズ、今其ノ主ナルモ
 ノヲ擧ゲレバ次ノ如シ、

(1)、限取效用說ハ使用價值ヲ說明スルコトヲ得ルモ交換價值ヲ說
 明スルコト難シ、從ツテ價格ヲ說明スルコト誠ハザルモノナリ、
 何トナレバ使用價值ハ必然タル心理現象トシテ說明シ得ルモノ
 ナレドモ交換價值ハ必然タル心理現象トシテ說明シ得ルモノ否々
 ハ疑ハシ、如何トナレバ枚々ガ貨財ヲ交換売買スルニ當リテ必
 ス又生産費等ヲ顧慮シテ生産費ヨリ高ク売レコトヲ得ル故ニ是
 ヲ売ラントスルモノナラバ之ヲ單ニ心理現象ト稱スル事ヲ得ン
 ヤ、之ヲ売ラントスルコトハ心理現象ト稱スルコトヲ得ヤケレ
 共其ノ採得ハ生産費ノ如キ外界ノ原因ニ存スルコトハ疑ヒナキ
 所ナリ、加之市場ニ於ケル交換價值即チ主觀的交換價值ニ付テ
 ハ限取效用說ヲ說クモノハ吾々各自ト主觀的交換價值ノ綜合セ
 ラレ、モノナリト簡單ニ説明セルモ兩者ノ間ニ齟齬ルベカラザル
 關係アル事ヲ說ク以外ニ何等ノ說明トナレルモノニアラズ、使
 用價值ハ枚々ト貨財トノ間ノ關係ニシテ比較的ニ簡單ナルモノ
 ナレ共交換價值ニ主觀的交換價值ノ場合ニ於テハ多數ノ者カ

交換ノ当否者トナリ而モ其ノ交換ノ割合ヲ觀察スルニ相当ニ外
界原因ニ重キヲ置ケ以上ハ寧ロ其ノ外界原因ニツキテ其ノ研究
セサル可カラサルモノナリ、生産費説ハ甚ダ不完全ナルカハ知
ラネド尙ホ交換價值ノ説明トシテ相当重キヲ為ス所以ハコ、ニ
アリ、更ニ交換價值ノ実体化セル價格ニ至リテハ多クノ外界ノ
原因ウカハリテ決定スルモノナル以上ハ使用價值ノ説明ヲ放棄
シタルノミニテハ到底不允ナルヲ免レサルナリ、

(二)、ニハ限取費用説ヲ説クモノハ慾望ノ階級ヲ独断的ニ定メテ之
ニ依リテ經濟現象ヲ説明セントセルナリ、例ハ、*Böhm-Bawerk*
ハ枚々ノ慾望ノ最大ナルモノハ食物ニ對スレモノニシ
テ衣服、居住ノ慾望ハ之レニ次ギ飲酒、喫煙、音楽ノ慾望ハ之
ニ比シテ遙カニ少ナルモノトシ現在ノ貨幣ハ本来ノ貨幣ニ比較
シテ價值大ナルモノナリト判定セルモ慾望ヲ抽象的ニ觀察スル
トキハ斯ノ如キ段階ヲ設ケルヲ得可シ、而シ實際ニ當リ
テ吾々ノ慾望ハ場合ニ依リテ一様ナラズ依ツテ予メ其ノ段階ヲ

設ケルコト難シ、若シ價值ハ吾々ノ心理現象ニ外ナラズトセバ
實際ニ起ル心理現象ハ極メテ複雑ニシテ場合ニ依リテ異ナラザ
ルヲ得ズ、依ツテ價值ノ測定ノ如キハ之ヲ行フコト能ハザルナ
リ、

(三)、ニハ此ノ説ハ數量カ限定セル貨幣ニ就テハ相当明瞭ニ説明ス
ルコトヲ得レドモ其ノ他ノ場合ニハ殆んどナス事ヲ得ザルベシ、
數量ノ限定セル貨幣ニツキテハ其ノ一定量ノ價值ハ限取費用ニ
依リテ明ニ説明スルコトヲ得バケレドモ市場ニ於テ實際ニ補充
シ居ルモノニ至リテハ單ニ貨幣ノ慾望トノ關係ノミニテ之ヲ説
明スル事能ハサルが故ニ限取費用説ヲ採ルモノニ於テモ其ノ貨
財ノ對價ノ限取費用ナル文字ヲ惜リ未リテ説明シ表ヲザル可カ
ラザル理ナリ、

即チコノ説ハ貨幣ノ數量カ限定セラレ、場合ニ依リテ價值ト
數量トノ干渉ヲ説明セザルモノナリト云ハザル可カラズ、而シ
テ貨幣ノ對價ハ畢竟其ノ貨幣ヲ市場ニ於テ補充フコトヲ得ル貨幣

ノ数量ヲ意味スレモ、ナレトモ貨幣ノ價值ハ普通ノ貨財ノ如ク
 其ノ数量少キレバ價值大ナリト云フ事ヲ疑ムハ疑ハレ、何
 トナレバ現今ノ経済社会組織ノ下ニ於テハ貨幣若クハ資本ノ数
 量少キトキハ効用ナキモ資本ノ数量多クナルニ從ヒテ其ノ效
 用ヲ増加シテ資本少キモノヲシテ之ト競争スレト故ハナラン
 △レハナリ、即チ貨幣ハ其ノ数量少キトキハ常ニ價值大ナルモ
 ノニハ非スレテ数量ノ多キトキ價值大ナルコト頗ル多シ、
 限用効用説ハ一時價格ノ説明トシテ殆ト疑ヲ持タモノナカリ
 シニ不拘以上述レ所ニ依リテモ尚ホ之ヲ以テ説明シ得サルモ
 其々カ價值ヲ定ムルニハ慾望ノ狀態ニ適応スル貨財ノ效用價
 値ノ数量等々一箇人トシテ考察セザルベカラザル數多ノ原因
 カ心理現象ニ大ナル干渉ヲ有セルコトハ疑ヲ容レズ從テ其々
 ノ心理現象ヲ研究スルニ當リテモ是等ノ原因ニ付キテ詳細ニ研
 究セサル可カラサルモノナリ、況ンマ交換價值ノ場合ニ於テハ
 之等ノ状々一箇人トシテ之ヲ決定スル原因ノミニ依リテ之ヲ決スルモノニ

一〇二

アラス、社会的要因モ亦大ニ干渉アルコトナリ、故ニ此ノ價
 値ヲ研究スルニ當リテハ是等ノ社会的要因モ之ヲ研究セザレバ
 完全ナル説明ト云フ事能ハズ、即チ之等ノ外界ノ原因ハ吾々ノ
 心理現象ヲ支配スル大ナル原因ナルヲ故ニ之等ニソキテ先ツ相
 當ノ考察ヲ加フルコト適當ナル可シ、

第六章 價格

第一節 總說

價格ノ意義

價格ハ或ル貨財ノ現実ニ他ノ貨財ト交換セラル、割合ヲ示フモノナレト
 モ現今ニ於テハ貨財ト貨財トカ交換セラル、コト稀ニレテ貨財ト貨幣トカ

一〇三

交換セラル、モノナレハ價格トハ貨幣ヲ以テ吉ヒ表ハサレタル貨幣ノ交換ノ割合ナルコトハ前述セシ所ナリ、或ル貨幣カ現実ニ交換能ヲセラル、ニ当リテハ其ノ割合ハ決シテ独リ經濟上ノ原因ノミニ依リテ定マルモノニアラズ、例ハ貨幣ノ買手カ売手ノ貧窮ノ状態ニ同情シテ普通ノ價格ヨリ高ク之ヲ購フガ如キモノナリ、

然レテラ習慣、強制、他般的感情等ノ經濟以外ノ原因ニ依リテ價格ノ決定スル場合ハ之ヲ指キテ價格決定ニ干渉アル經濟的原因ニ付キテ研究セン、貨幣ノ交換能ハ必ズモ市場ノ存在ヲ前提ト為スモノニハアラザレドモ貨幣ノ交換能ヲ標準トシテ之ニ則ルモノナレガ故ニ此知ニハ市場ニ於テ行ハル、交換能ヲ研究シテ之ニ然ラザルモノニ及バン、

市場

此知ニ市場ト云ヘルハ市場(イナバ)取引所ノ如キ一定ノ場所ヲ意味スルモノニイラズシテ貨幣ノ交換カ比較的容易ニ行ハレ多數売手買手ノ間ニ能ク見レノミナラズ一定ノ價格ノ成立スル範圍ヲ意味スルニ外ナリ

既ニ市場ノ存在ヲ前提トスル以上ハ売手買手共ニ能クニツキテ或レ程度マデハ競争スルコトヲ予測セザレバ得ズ、其ノ競争カ合理的ニ行ハル、ヤ否々ハ實際問題トシテ之ヲ断定スルコト能ハザレ共兎ニ角或レ程度マデハ競争カ行ハル、ハ明白ナリ、而シテ從來學者ハ價格ハ需要ニ正比例シテ供給ニ反比例シテ高値スルモノナリト說明セシモ兩者ノ干渉ハ此ノ如キ単純ナルモノニ非ズ、

需要

需要ハ或ル市場ニ於テ一定ノ價格ヲ以テ買ハントスル貨幣ノ数量ヲ意味スルナリ、仮令吾々が貨幣ニ對シテ大ナル價值ヲ認ムルモ其ノ價格甚々高キトヤハ之ヲ購フ事能ハズ、需要ヲ形造レ一カ子トナルコト能ハザルナリ、又吾々貨幣ニ對シテ價值ヲ認めザリシ場合ニ於テハ勿論需要ヲ構成スル一分子タルコトヲ得ルモノニアラズ、故ニ需要トハ吾々が之ヲ買ハントスル意思ナルコト、並ニ之ヲ買ヒ得ル力ナカレ可キニ付ナリ、之ヲ購フカトハ畢竟價格ニ干渉スルコトニシテ其ノ價格ニシテ低キ時ハ

エヲ買フカアルモノ多キカ故ニ需要ハ自ラ増加スル理ナリ、之ニ反シテ
 其ノ價格高キトキハセヲ買フカアル者ヲ減少セシムルヲ以テ需要モ亦減
 少スル理ナリ、又其ノ貨財ヲ求メテ以テ消費セントスル者ノミカ需要ヲ
 構成セルモノニハアラズ、他日其ノ價格が騰貴スベキコトヲ予測シテ之
 レヲ求ムル者即チ *Speculation* ヲ為ス者モ亦需要ヲ構成セル介
 子ノ一ナリ、

投機

投機トハ社会的ノ原因ニ依リテ價格ノ変動スルニ策ジテ以テ大ナル利潤
 ヲ得ントスルモノナリ、經濟力発達シテ市場生産ノ概ニ進ミ未レト
 キハ生産者ハ需要供給ノ干渉ヲ知ルコト難ク然ラバ價格ノ変動モ之レヲ
 避クルコト能ハサルノミナラズ之ヲ予測スルコト能ハサルカ故ニ生産ハ
 自ラ投機的介子ヲ含ムニ至ルノミナラズ價格ノ変動ヲ予測シテ貨財ヲ求
 マル者ヲ生スルナリ、

供給

供給ハ或ル市場ニ於テ一定ノ價格ヲ以テ売ラントスル貨財ノ数量ヲイフ、
 供給ハ必ズシモ其ノ市場ニ於テ生産セラレタル貨財ノ数量ト一致セズ、
 一定ノ價格ニテ売買セラレントスル物ノミカ供給ヲ形造ルモノナレバ其
 ノ市場ニ於テ生産セラレタルモノ、一部ト其ノ市場ニ他ヨリ移入又ハ輸
 入セラレタルモノトヲ加ヘタルモノヲ云フ、而シテ需要ニ於ケルカ如ク
 價格低レバ貨財ヲ売ラントスルモノ少キガ故ニ供給モ少ク之ニ及レ
 テ價格高クナレバ之ヲ売ラントスル者多ク之レ可キガ故ニ供給多ク之レ可シ、
 故ニ供給ノ多少ヲ云フトキハ必ズ一定ノ價格ヲ以テ売ラル、貨財ノ数量
 ノ多少ヲ云フナリ、供給ハ必ズシモ即時ニ接受セラル、数量ヲ意味セズ、
 一定ノ期間内ニ接受セラレ以テ其ノ売買契約ヲ履行スレコトヲ得ルモノ
 ナル時ハ供給ヲ構成セルモノナリト云フコトヲ得、

需要供給ノ意義上述ノ如シトセバ需要多キトキハ價格ハ騰貴シ需要少ナ
 キトキハ價格ハ下落ス、價格騰貴セバ需要ハ減シ價格減ズレバ需要増加ス、
 之ニ反シテ供給ノ増加ハ價格ヲ下落シ供給ノ減少ハ價格ヲ騰貴セシム、價
 格ノ騰貴又ハ下落ハ供給ヲ増加シ又ハ減少ス、
 此知ニ注意スベキコトハ需要ト供給トハ價格トノ關係ニ於テ正反対ノ位

地ニアルモノナレバ需要ノ増加ハ供給ノ減少ヲ意味スルモノニアラズ、何
トナレバ供給ニ何等ノ変化ヲ生セサルニ拘ハラズ需要ニ変化ヲ生スレコト
アレバナリ、

市場ニ於ケル物價決定ノ法則

市場ニ於テ財界ノ需要ト供給トカ綜合シテ價格ヲ決定スルモノナリ、其
價格ノ決定スル法則ハ、

(一)、ハ一定ノ時一定ノ市場ニ於テ定マレズキ價格ハ全一種類ノ價格ニ付
キテハ唯一ナラザルベカラズ、若シ其ノ市場ニ於テ價格一定セザレト
キハ売手モ買手モ共ニ大ナル不便ヲ感ゼザレ共上ニモ速ブル
カ如ク其ノ市場ニ於テハ競争行ハル、ガ故ニ價格一定スルニ至レモノ
ナリ、而シテ其ノ一定シタル價格ニテ売ルトモ利潤ヲ見ルコト能ハザ
ルモノハ其ノ供給ノ分子タルコトヲ避ケ可ク又生産條件ガ他ニ比較シ
テ優レルモノハ一定ノ價格ニテ売ルトモ尚ホ普通以上ノ利潤ヲ得ルコ
ト、ナル、此ノ供給者ニシテ其ノ販賣額ヲ以テ満足セハ兎ニ角其ノ優

レレ生産條件ヲ利用シテ競争者ヲ排シテ其ノ販賣額ヲ増加セントス
ルトキハ比較的低廉ナル價格ヲ以テ之ヲ販賣セントスルカタメニ此等
ニ價格ノ安定ヲ破リテ價格ハ再び動搖スルニ至レモノナリ、

(二)、ニハ市場ニ於テハ貨財ハ需要ト供給トヲ一致セシムル旨ニ於テ決ス
ルモノナリ、貨財ヲ生産シ販賣セントスルモノハ需要ト供給トヲ予測
シテ一定價格ヲ以テ売ラントスレモノナレバ全一市場ニ於テ需要ト供
給トガ初メヨリ一致スルコトヲ期スルコト難シ、需要ガ供給ヨリ多キ
コトナリ、又供給ガ需要ヨリ多キコトナリ、然レドモ需要ト供給ト
カ一致スルニ至ラザレバ價格ハ安定スルコト能ハズ、需要多クシテ供
給少ニ伴ハザルトキハ上ニ述ビタルガ如ク價格ヲ騰貴セシムルカ故ニ
原則トシテ需要ハ減少シテ供給ハ増加シ以テ此等ニ需要ト供給トが一
致スルニ至ルモノナリ、

需要ノ減少ハ其ノ貨財ヲ消費スル者又ハ消費セントスル者ノ一部分
ガ之ヲ為スコト能ハザルニ至レコトヲ意味スルナリ、然レドモ貨財ニ
依リテハ價格騰貴スルモ其ノ消費ヲ減少スルコト能ハザルモノナリ、

生活ノ必要品ノ如キモノ是レナリ、斯ノ如キ場合ニハ状況々ハ状況々ノ収入カ自ラ一定セル理ナレバ生活ノ必要品ヲ消費スレ為メニ収入ノ比較的大部カ支出セザレバカラザルが故ニ他ノ貨財ノ消費ヲ大ヒニ節セザル可カラズ、

一一〇

生活ノ質感

普通生活ノ質感ヲ感スト云ヘルハ生活ヲ為スコト能ハザルニ至リタル状態ヲ指スモノニアラズレテ種々ノ貨財ノ消費ヲ節約セザルヲ得ザルニ至リタル状態ヲ指スモノナリ、
需要カ供給ニ超過シタル場合ニハ價格騰貴ニ依リテ原則トシテ調節スルコトヲ得ルモノニシテ消費者ニ取リテ不利益ナルハ勿論ナレドモ生産者等ニトリテ不利益ヲ及ボスベキモノニハ非ラズ、然ルニ供給が需要ニ超過シタル場合ニハ前ノ場合ノ如ク或ル程度マデハ價格ノ下落ニ依リテ需要ト供給トヲ調節セシムルコトヲ得ルモノナレバモ前ノ場合ト異ナリテ價格下落シテ生産費ヨリ暴落シタルトキハ生産者ハ損失ヲ招カザル可

カラザルニ至ル、營利主義ニヨリテ経済行為ヲ行ヘルモノニトリテハ大半ノ干渉アルモノナリト云ハサル可カラズ、

生産過剰

供給多クシテ需要之ニ伴ハザルヲ生産過剰ト云ヘリ、修正ニ云フトキハ生産過剰トハ需要ニ変化ヲ生シザルニ不致生産者等が需要ノ増加スベキコトヲ予測シテ多クノ生産ヲ為シ為メニ供給ヲシテ需要ニ超過セシメタル場合ヲ云フモノナレトモ需要カ種々ナル原因ニ依リテ減少シタル為メニ供給ヲシテ需要ニ超過セシメタル場合ニモ亦生産過剰ト云ヘリ、
生産過剰トナリタルトキニハ貨財ハ市場ニ停滞シテ價格力低下スルモ容易ニ之レカ低下スルコト能ハス、利子、利潤モ減少ス、従ツテ起業モ起ラズ生産モ亦振ハザルニ至リ為メニ経済社会ヲシテ活気ナカラシムルモノナリ、之ヲハ不景氣ト云フ、
生産過剰ハ生産者カ未采ノ需要ノ予測ヲ誤リ供給ヲシテ需要ニ超過セシメタルモノナレバ有ニル貨財ニ付ヤザ全貯ニ生産過剰ノ現象ヲ見ルコ

2.5.17

一一一

トハ想像スルコト餘ハズ、故ニ實際ニ於テハ一方ニ於テ生産過剰ノ現象ヲ生スルトキハ一方ニ於テハ生産減少ノ現象ヲ見ルモノナリ、其ノ生産減少ヲ生シタル貨物ニシテ経済社会ニ対シテ重要ナラザレモノナレトキハ勿論上ニ云フガ如キ不景氣ヲ生スルモノニハ非ザレド其ノ貨財ニシテ重要ナルモノナル時ハ不景氣ヲ招クモノナリ、學者中絶対的ニ生産過剰ニ於テ困難ヲ見ル場合ノ如キモノヲ拳グルモノアレドモ常則主義ニ依リテ市場ヲ目的トシテ生産スル場合ニハ斯ノ如キ事ハ殆ンド見ル可カラザル現象ナリト云フコトヲ得、又生産過剰ハ供給力需要ニ超過シタル状態ナリトセバ自ラ其ノ供給需要ハ或ル一定ノ價格ヲ予想セルモノナルガ故ニ社会ノ多数ノ者が其ノ貨財ヲ消費スルコト欲ハザレニ拘ラズ生産過剰ヲ生スルコトアレハ想像シ得レナリ、生産過剰ハ有ユル貨財ニ全時ニ此レコトハ之ヲ想像スルコト餘ハザレドモ生産過剰ニ陥リタル貨財ニシテ経済社会ニ対シテ相当ニ重要ナルモノナレトキハ其ノ生産者ハ損失ヲ招クカ言クハ其ノ生産シタルモノヲ販賣スルコト難ハザレモノナレバ其ノ

生産者等ノ購買力ハ大ニ減少セザレバカラザルヲ以テ其ノ購買力ヲ子想シテ生産シタルモノハ其ノ貨財ヲ販賣スル難ハズレテ生産過剰ニ陥レコトアルハ決シテ弊ニハアラズ、換言スレバ生産過剰ノ現象ハ或レ貨財ニ起リテ漸次他ニ波及シテ其ノ結果経済社会ヲシテ不景氣ニ陥ラシムルナリ、

不景氣ハ生産過剰ニ伴ヒテ必ス起ルモノナリト云フコト餘ハズ、生産過剰トナリタル貨財ニシテ重要ナルモノニアラザレカ又ハ其ノ過剰ノ程度甚タシカラザレトキハ比較的容易ニ回復シテ経済社会全体ニ累ヲ及ボスモノニハアラザレドモ其ノ過剰ニ陥リタル貨財ニシテ重要ナルモノナルカ又ハ其ノ過剰ノ程度甚タシカリシトキハ之ヲ回復スルコト困難ナルカタメ不景氣ヲ惹起スルナリ、而シテ生産過剰ニ伴フ経済社会ノ変動ニシテ急激ニ起リタルトキハ独リ不景氣ヲ惹起スルニ止マラス恐慌ヲ惹起スルナリ、

恐慌トハ需要ト供給トノ一致セザルコト甚ダシク為メニ信用破壊シテ経済諸機關が其ノ運行ヲ停止シタル状態ヲ云フ、恐慌ハ経済諸機關が運

行ヲ停止セル状態ナリトセバ生産過剰ノミニ伴ヒテ起レト甚ダ稀ニシ
 テ多クハ投機熱盛トナリテ信用ノ過度ノ膨脹ニ伴ヒテ起リ来ルモノナリ
 蓋シ経済社会ガ活氣ヲ呈シテ物價騰貴スレバ生産者並ニ商業家ニ予期以
 上ノ利潤ヲ收ムルコトヲ得ルヲ以テ企業ヲ擴張シ若シハ企業ヲ起スモ
 ナリ、此ノ際金融緩和ニシテ利率低合ヲ高メ若シハ信用ヲ擴クル上
 ニ於テ大ニ懐メニ非ラザルハ毎ヒ投機熱ヲ盛ナラシム、投機熱ニ依
 リテ或トナリタル企業ノ如キハ東洋ニシテ基礎薄弱ナルモノナレバ必ズ
 ×其ノ反動ヲ生シテ経済社会ハ再び沈衰セザレバ得ザルナリ、不景氣ナ
 ルモノ之レナリ、

経済社会ノ変化ニシテ急激ナラザルトキハ景氣ノ復一ハ不景氣ヲ生シ、
 不景氣ノ復一ハ景氣トナリ至ニ循環スルモノナレドモ投機熱ノ或ントナ
 リタル為メ其ノ反動急激ニ起リタルトキハ投機熱ヲ為スモノヲ生シテ其ノ
 結果ハ経済諸族閑ラシテ其ノ運行ヲ止メシムルニ至ル、此ノ状態ヲ名付
 ケテ恐慌ト云ヘルナリ、恐慌ハ急激ニ経済界カ變動シタル場合ニ起レモ
 ノナレドモ必ズシモ上述ノ如ク景氣好カリシ後ニ起レモノナリト云フコ

ト註ハズ、戦争、天災、地震等ニ依リテ経済社会ニ激變ヲ生ジ経済諸族
 閑ガ運行ヲ止ムル場合ニ起ルコト稀ナラズ、

depression 経済界ノ状態活氣ナキモノ、

crisis 経済界ノ變動急激、

Panic 人心競々タル状態、

経済社会ハ景氣、不景氣循環スルモノナレドモ一定ノ期限ヲ劃シテ循
 環スルモノニ非ズ、又景氣ノ程度モ決シテ一定セルモノニアラ
 ズ、尤モ正統字派ノ著者中ニハ景氣、不景氣ハ十年ヲ以テ通シ、恐慌ハ
 十年毎ニ現ハル、モノナリト説クモノアルノミナラズ甚ダシキニ至リテ
 ハ恐慌ハ太陽ノ黒点ノ現ハル、毎ニ起レモノナリト説ケルモノアリ(*pe-*
sons)、此事、説ハ当時恐慌十年毎ニ起リタルト隔々太陽ノ黒點カ交
 ク現ハレタル年ニ起リタルヨリ推シテ對ノ如ク説ヲ為シタルモノナレド
 モ諸國ガ恐慌經濟ニ鑑ミテ之レヲ予防スルノ道ニ至リタルハ恐慌ハ必ズ
 シモ十年毎ニ起ルモノニ非ズ、又其ノ程度モ大ニ緩和シラルニ至レリ、
 恐慌ヲ未然ニ防クニハ投機熱ヲ抑ヘ生産過剰ヲ生ジシメザルニ在ルヲ以

金融機關カ技術然トモランコトヲ察シタル時ハ利子歩合ヲ高ク信用ヲ
機ケレニ意ヲ用ヒテハ企業家等ハ彼等ノ新々ニ生産ヲ起シ又ハ生産ヲ擴張ス
ルモ別感収支償フコト能ハザルガ故ニ遊リニ生産スルコト能ハザレハナ
リ、

然レドモ一旦恐慌起リテ経済社会ガ混乱状態ニ陥ルヤ上達ノ如ク其ノ
害ヲ被ムレモノハ独リ未米ノ需要等ノ予測ヲ誤リタルモノニ止マラス、
其レ以外ノ企業家モ余波ヲ受ケテ困難セザル可カラザルノミナラズ労働
者中ニハ多数ノ失業者ヲ生シテ経済社会ノ被ムル損害モ亦少ナカラザル
ヲ以テ之ヲ等閑視スルコトヲ許サバレルナリ、

而シテ恐慌ノ為メ困難ヲ感スレハ結局信用破壊シテ経済諸機關ガ運行
ヲ止メタル故ナレバ之ニ対シテ先ツ救済セザル可カラズ、即チ金融機關
兼ニ中央銀行ガ兌換銀行券ヲ多ク發行シテ比較的寛大ニ信用ヲ授ケ以テ
經濟諸機關ヲシテ再び其ノ運行ヲ回復セシメ以テ恐慌ヨリ生ズル損害ノ
範圍ト程度トヲ限定シテ生産逼迫ヲ惹起シタルモノニ對シテハ餘々ニ其
ノ善後策ヲ講ゼザレバカラズ、

(三)ニハ市場ニ於ケル價格ハ最も多数ノ売手ト買手トニ満足ヲ與フル氣ニ
成マルナリ、

売手ハ或ルベク高ク財貨ヲ売ラント欲シ買手ハ可成安ク買ハントスル
モノナレバ比較的ニ低キ價格ニテハ買手ハ多数ナレモ売手が少数ナル故
ニ低價ノ賣手ニ相当スル賣取引ガ行ハレ、ニ止ル理ナリ、又之シテ
比較的ニ高キ價格ニテハ売手トナラントスル者ハ多数アレドモ買手ハ少数
ナレバ少数ノ買手ニ相当スルガケノ賣取引ガ行ハレ、ニスヤザルナリ、
売手ト買手トノ多数ヲ満足スルコト能ハザレ結果トナル、故ニ市場ニ於
テハ價格ハ可成多数ノ買手トヲ満足スル所ニ止ルナリ、此ノ事ハ最も明
カニ取引所ノ競売買ニ於テ價格ガ決定スル状況ヲ觀ルトキハ之レヲ知ル
コトヲ得ルナリ、

取引所ニ於ケル競売買ハ売手、買手共ニ多数アリテ相競ヒテ賣取引
ヲナスモノヲ云フ、取引所ニ於テ賣取引ヲ為サントスル者ハ例ハハ或
同ノ取引所ニ付キテ云ハバ直接ニ之ヲナスモノニ非スレテ仲買人ニ依託
シテ之ヲ為サシハルモノナリ、而シテ仲買人ニ賣取引ヲ為サシメント

スルモノハ予メ價格ヲ指定セルモノナリ、指定セザレモノモナリ、前者
 指値ト云ヒ彼者ヲ執行ト云ヘリ、
 仲買人ハ売ル場合ニハ可成高ク売ルコトヲ欲シ買ノ場合ハ可成安く買
 ハレントスルモノナルガ殊ニ指値ニテ売買取引ヲ依此セラレタルトキハ
 女ヨリ安ク売ルコトモ又高ク買フコトモ出来ザル故ヨリ制限ヲ設ケザル
 ヲカラズ、而シテ之等ノ取引ヲナス当初ニ於テハ需要モ供給モ之ヲ知ル
 コト能ハザレバモ競売買ノ結果ハ最も多数ノ売手ト買手トニ満足ヲ與フ
 ル氣ニ於テ價格ヲ決定セラル、ヲ原則トス、



(十) 幾ガ最も多ク取引が出来ル即チ價格ハ十ガ決定ス
 市場ニ於ケル價格ハ需要ト供給トガ一致スル氣ニ於テ決定スレモノナ
 ルコトハ上ニ述ビタル所ナルモ如何ニシテ需要ト供給トガ一致スベキカ

フ前ホ研究セバ独占價格ト競争價格トニホナテ説明スレバ便トス、
 独占價格トハ需要者供給者何レカバ一名又ハ一經濟主体ニシテ供
 需者若クハ供給者ノ一方ニシテ競争が行ハレテ他方ニテ全然競争が行
 ハレザル場合ニ生スル價格ノ意ナリ、
 斯ノ如キ状態ニ在ル貨財ヲ独占貨財ト云フ、独占價格ハ需要者一名又
 ハ一經濟主体ノミニシテ競争者ナキ場合ニモ起ル可ク又供給者カ一名又
 ハ一經濟主体ニシテ競争者ナキ場合ニモ生スルモノナレバモ需用者ガ一
 名又ハ一經濟主体ノミナル場合ノ如キハ極メテ稀ニ起ル所ナルガ故ニ独
 占價格ト云ヘバ普通供給者ガ一名又ハ一經濟主体ニシテ競争者ナク供
 需者ニ其ノ貨財ノ供給ヲ増減シ得ル場合ニ起ル價格ヲ指ス、
 売手、買手共ニ可成自己ニ有利ナル条件ヲ以テ売買取引ヲ為サント
 ヲ希望スルモノナルニ拘ラズ上述ノ如ク此ノ希望ヲ滿ニ実現スルコト能
 ハザレハ結局競争者アリテ自己ノ希望スル条件ヨリ不利ナル条件ヲ忍ビ
 テ売買取引ヲ為サントスル者アルガ故ナリ、例ヘバ買手ハ欲ル貨財ヲ參
 照ニテ買ハンコトヲ希望セルニ拘ハラズ競争者アリテ四円ニテモ止レヲ

購ハントスル者アルガ為メニ売手ハ勿論高キ價格ニテ売買セントスルヲ以テ自己ノ希望スルニ由テハ之ヲ購フコト能ハザルナリ、然レニ今供給者が一各若クハ一經濟主体ニシテ隨處ニ供給ヲ増減シ得ルニ拘ハラズ必要者ハ多数ヨリ成リテ之ニ競争セルモノトセバ供給者ハ必要者ニ比較シテ遙ニ優越ナル地位ニ立ツモノト云ハザルヲ得ズ、

如斯キ場合ニ於テハ供給者ハ隨處ニ其ノ供給モ價格モ定ムルコトヲ得、此ノ際供給者が貸財ノ價格ヲ定ムルニ当リテ其ノ生産費ノ如キモノハ之ヲ考慮スルコトナレ、其ノ考慮スル所ハ如何ナル價格ヲ以テ売ルトキハ最も多クノ利潤ヲ得可キカト云フコトナリ、此ノ心理的原因カ独占價格ヲ決定スル上ニ於テ最も有数ナルモノナリ、

而シテ供給者が價格ヲ高クスルモ需要大ヒニ減少スルコトナク従ツテ利潤モ亦増加スルモノトセバ供給者ハ經濟以外ノ原因ニ依リテ價格ヲ高クスルコトヲ中止スル場合ハイザ知らズ然ラザル限りハ其ノ價格ヲ益々高クス、然レドモ上ニ述ブルカ如ク價格高クナルニ従ヒテ需要ハ減少スルヲ原則トスルガ故ニ供給者ノ收益ハ價格ヲ増加スレニ伴ヒテ減ル程度

マテハ増加スルモ其レヨリ以上ハ漸次減少スルニ拘ラズ其ノ貸財ノ生産ニ要スル生産費ハ減少セザルヲ以テ其ノ利潤が減少セザル可カラズ、故ニ營利主義ニヨリテ生産等ヲ為ス以上ハ供給者ト雖モ溢リニ價格ヲ高クスルモノニハ非スシテ上ニ云フカ如ク最も多ク利潤ヲ得ル程度ニ止ルナリ、假令一時此ノ程度ヲ超ヘテ價格ヲ高クスルコトアリトモ其ノ利益ナキコトヲサトシバ必ズ價格ヲ低下シテ其ノ程度ニ止メ置クナリ、独占貸財ト雖モ其ノ需要ハ價格ノ高クナルニ伴ヒテ消費ノ漸約ニ依リテ減少スルハ勿論其ノ外ニ多クノ貸財ハ自ラ代用品アリ、代用品ハ独占貸財ニ比較シテ其ノ效用劣レルニハ相違ナキモ独占貸財ノ價格ニシテ大ニ高マルトヤハ消費ハ該ル程度マデハ其ノ代用品ニ換リ従ツテ独占貸財ノ需要ハ自カラ減少スル理ナリ、加之独占貸財ナルモノハ一定ノ市場ヲ予想セルモノナレバ若シ其ノ價格ニシテ甚々高クシテ多クノ利潤ヲ生スルモノナリ時ハ多クノ場合ニ其ノ貸財ヲ生産スル者ヲ生シ若クハ従来外國ヨリ輸入スルコト能ハザリシモノ迄ガ之ヲ輸入スルニ至ルカ故ニ独占貸財タル状態が消費スルコトナレ、故ニ独占者ハ甚々優越ナル地位ヲ有スルニ不拘安

リニ其ノ價格ヲ高クスルモノニハ非ズ、
独占價格ノ生ズル場合ハ、

一三二

(一)、ハ自然的条件ニ依リテ供給者競争者ニ比較シテ道ニ優越ナル地位ニ
立テルヨリ生ズルコトアリ、例ハ自然ノ生産条件上其ノ土地ニアラ
ガレバ生産スルコト能ハサル貨物若クハ他ノ土地ニ比較シテ生産スル
貨物ノ回復道カニ長ク又ハ生産費大ヒニ少キタメニ他ニ競争スルモノ
ナキ場合ノ如キモノ果レナリ、鉄道カ陸上交通ニ於ケル地位モ之ニ類
ス、陸上交通ニ於テ運賃次ハ速力安全ノ点ニ於テ鉄道ニ及ブモノナシ、
他ノ交通機關ハ之レト競争スルコト能ハズ、
又ニツノ土地間ニニ線ノ鉄道アリトセバ競争ヲ生スルカ如キ理ナレ
ドモ其ノ競争ノ生スルハニツノ終点ノ間ノミニシテ其他ノ土地ニ於テ
ハニツノ線が接近シテ平行セザル限りハ競争ヲ見ルコトナキナリ、ニ
ツノ終点間ニ於ケル競争モ一時的ノモノニシテ永續スベキモノニアラ
ズ、若シニ線ニシテ接近シテ平行セルトキハ競争ヲ見ルコトヲ得ルガ
如クナレバモ此ノ事ハ交通ノ最も頻繁ナル土地ニ於テ見ルコトヲ得ル

モノニシテ原則トシテハ競争ナキナリ、故ニ鉄道ノ運賃ノ如キハ独占
價格ノ一ナリト云フコトヲ得、

(二)、ハ政府が特ニ法律力ヲ以テ欲ル生産者又ハ商業家ニ独占貨物ヲ
生産販賣スルコトヲ許シテ其ノ競争者ヲ許サズレコトアリ、特許制度
ノ如キモノ之ナリ、此ノ場合ニハ法律ノ力ニ依リテ独占價格ヲ生シタ
ルモノナリ、又政府が輸入税等ニ依リテ外國ヨリ輸入ヲ妨ゲテ之ニ依
リテ外國ノ生産者ニ優越ナル地位ヲ與ヘタルトキハ内國生産者ノ内生
産条件ノ最優^モレタル者カ其ノ競争者ヲ破ツテ独占者トシレコト稀ナラ
ズ、此ノ場合モ法律ノ力ニ依リテ独占價格ヲ生シタルモノナリト云フ
コトヲ得、又政府が法律ノ力ヲ以テ競争者ヲ禁ジテ独占者トナルコト
アリ、政府ノ専売ノ如キモノ是レナリ、

政府が独占者トシテ價格ヲ定メ之ニ依リテ財政收入ヲ得ントスルモ
ノナレドモ價格ノ増加スルニ不拘需要ノ減少スレ程度少ナキモノニア
ラザレバ其ノ目的ヲ達スルコト能ハズ、然レドモ價格ノ増加ニ伴ヒテ
需要ノ減少セザルモノ、中國民ノ生活必需品ノ如キハ其ノ價格ヲ高ク

一三三

ルトキハ社会上ノ弊害少ナカラサルモノナルカ故ニ之レヲ專買トナス
 コトハ宜レカラズ、徒ヾテ企業ノ性質上私人ノ經營ヲ許ストキハ企業
 家が独占價格ヲ收メ若クハ公益ニ害ヲ及ボス愛アレガ如キ場合並ニ價
 格ヲ高クスルモ国民多数ノ者ニ害ヲ及ボスコト少ナキモノヲ候ヒテ之
 ヲ政府ノ經營ニ俵レ一面ニハ公益ヲ擁護シ、一面ニハ財政收入ヲ擧ク
 ルコトヲ得レガ如キ場合ニ之ヲ行フヲ原則トス、

Rowland Hill ハ郵便税ヲ遙カニ安くスマレ、之ニ依リ財政
 收入増ズルモノニ非スト云々、

(三)、ニ企業家が競争ノ弊ニ堪ヘズレテ競争ヲ防止シ利潤保全ノ目的ヲ達
 スルカタメニ契約ヲ結ビテ共同一致ノ行動ヲ取リ若レクハ合併シテ一
 体トナリテ之ニ依リテ其ノ市場ヲ独占シテ以テ多クノ利潤ヲ得ントス
 ルコトアリ、企業ノ聯合 (*Cartel*) 並ニ企業ノ合同 (*Trust*) 之
 レナリ、企業ノ聯合トハ同一市場ニ於テ競争スル独占企業家が生産並
 ニ販賣ニ付キテ共同一致ノ行動ヲナスコトヲ約束スルモノヲ云フ、既
 ニ共同一致ノ行動ヲトル以上ハ契約ノ範圍ニ於テハ行動ノ制限ヲ受ク

ルモノナレドモ其レ以外ニ於テハ何等ノ行動ノ制限ヲ受ケザルモノニナ
 ラズ其ノ契約ノ解除セラル、ト共ニ再ヒ競争ヲ為スコトヲ得ルモノニ
 シテ毫モ経済上ノ独立ヲ失フコトナキナリ、其ノ共同一致ノ行動ヲナ
 スハ利潤ヲ減少セシメサルガタメナレバ其ノ市場ヲ支配シ独占ノ地位
 ヲ得ルニ非ザレバ目的ヲ達スルコトヲ得ズ、

但シ市場ヲ支配スルハ必ズレモ其ノ市場ニ現ハルギ貨財ヲ生産スルハ
 販賣スルモノ全部ヲ網羅スルコトヲ必要トセズ、其ノ貨財ノ六七割ヲ
 生産販賣スル者カ連合スルトキハ独占ノ地位ヲ得ルモノナリ、又企業
 合同ハ同一市場ニ於テ競争スル企業カ一体トナリテ市場ヲ支配スルニ
 至リタレモノヲ云フ、此ノ場合ニハ合同スル企業が經濟上独立ヲ失フ
 ニ至リタレモノナレバ仮令企業合同カ解散スルモ再ヒ前ノ企業ヲ生ス
 ルモノニ非ズ、

企業ノ連合、企業ノ合同ハ一方ニハ從前競争ノ為メニ用ヒタル費用ヲ
 省キ又冗費ヲ除キテ生産費ヲ減少スルコトヲ得ルノミナラズ一方ニハ
 独占價格ヲ得ルモノナレカ故ニ企業家ヨリ云ハバ其ノ利益頗ル多シ、

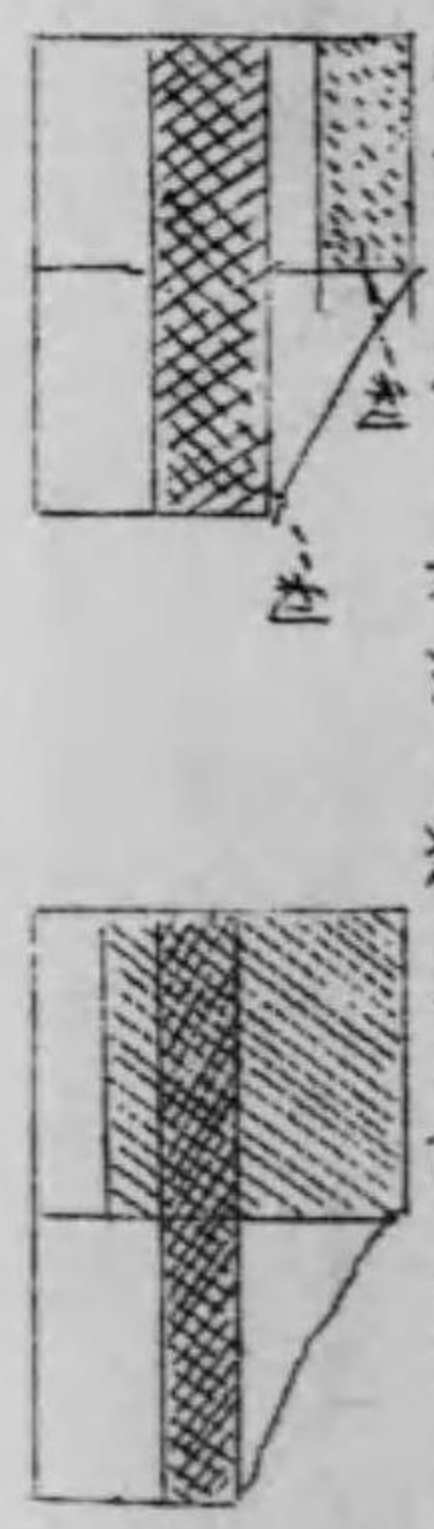
企業ノ聯合並ニ合同ニツキテハ後ニ之ヲ説明セシ、

独占價格ハ供給者ガ其ノ意思ニ依リテ價格ヲ定ムルヲ得ルモノナレバ其ノ價格ハ競争價格ニ比較シテ高キヲ常トス、加之供給者ハ隨意ニ供給ヲ増減スルコトヲ得ルガ故ニ利潤ヲ増加スル望アレ場合ニ非サレバ供給ヲ増加セントスルモノニアラズ、独占者ガ供給ヲ増加スル場合ヲ抽象的ニ説明セバ独占貨財ガ天然物等ニ於テ財力ニ鬼ルガ如ク殆ンド生産費ヲ要ヒズンテ之ヲ得ルコト強フ場合ニハ容易ニ供給ヲ増加シ得ル理ナレドモ之ヲ増加セバ價格下落スルヲ以テ生産ヲ増加セバ却テ利潤ヲ減少スル傾向アリト云フコトヲ得、
殊ニ其ノ貨財ノ需要ニシテ價格下落スレモ之ニ刺戟セラレテ増加スルモノニアラザル時ハ益々其ノ利潤ヲ減少スルモノナレバ独占者ハ供給ヲ可成少クシテ價格ヲ維持シ之ニ依リテ利潤ヲ多カラシメントスルナリ、

然ルニ生産ヲ多クシ價格ヲ下落セシメタルカタメニ其ノ需要ヲ増加スルモノナレトキハ独占者ハ價格ヲ低減シテ需要ヲ増加セシメ以テ多クノ利潤ヲ得ントスルナリ、

クノ利潤ヲ得ントスルナリ、
供給ヲ増加スレタメニ殆ンド生産費ヲ要セザルガ如キハ例外ニシテ供給ヲ増加スルニハ相当ニ生産費ヲ増加セザルベカラズ、而シテ其ノ生産費モ供給ヲ増加スルニ従フテ一定量ニ對シテ其ノ生産費ガ特ニ増減セザルモノナリ、供給ヲ増加スルニ従ヒテ却ツテ減少スルコトナリ又供給ヲ増加スルニ従ヒテ増加スルコトモナリ、
供給ヲ増加スルモ生産費ガ特ニ増減セザルトキハ生産者ノ方面ヨリ供給ノ増加ヲ抑制スルモノ無キカ故ニ供給増加スルニ伴ヒテ價格ノ下落スル程度少キモノナルトキハ供給ヲ増加スルモ比較的ニ利潤ヲ多カラシムルコトヲ得レドモ價格ノ下落スル程度甚ダシキモノナルトキハ供給ヲ増加スルヲ不利益ト爲ス場合少ナカラズ、
独占者ハ其ノ利潤ヲ多カラシムルコトヲ得ルマ否ヤヲ計リテ供給ヲ増加スベキヤ否ヤヲ決スルモノナリ、
生産費ガ供給ノ増加スルニ従ヒテ漸次減少スルハ後ニモ説クカ如ク工業品ニ於テ之ヲ見ルコトヲ得ルモノニシテ供給少キ場合ニハ生産

費比較的多キモノナル故利潤が比較的ニ少キコト多キコトアレドモ供給ヲ多クスルトキハ生産費ニ減少スルカ故ニ其ノ急ヨリ云ハバ積白者ニトリテ甚々有利ナリト云フコトヲ得、
 然レドモ一方ニハ供給増加スルニ從ヒテ價格下落スルモノナル故此ノ急ヨリ云ハバ積白者ニ取リテ甚ダ不利ナリト云ハザルヲ得ズ、故ニ工業品ノ生産取去ニ付テハ積白者ハ其ノ利害ヲ比較シテ供給ヲ増加スト否トヲ決レテ可決利潤ヲ多カラシメントスルモノナリ、之レニ又シテ生産費が供給ノ増加スルニ從ヒテ漸次増加スルハ農産物ノ生産等ニ於テ之ヲ見ルモノニシテ如斯場合ハ供給ヲ増加セバ一面ニ於テ價格下落スルト同時ニ一面ニ於テハ生産費モ亦増加スルヲ以テ多少利潤ハ減少スル程ナリ故ニ是等ノ貨財ノ生産ニ付テハ積白者ハ決レバク供給ヲ制限シテ利潤ノ減少ヲ防ガントスルモノナリ、



一、競争價格トハ賣手買手共ニ多數トシテ競争が行ハル、場合ニ於テ爾価格ノ差ナリ、
 売手ハ可成價格ヲ高クシテ以テ生産費ト價格トノ差ヲ大ナラシメテ之ニ依リテ利潤ヲ多カラシメントテ希望スルモノナレドモ競争者トシテ價格ヲ低クシテ可成多ク売ラントスル者アルガ故ニ勢ヒ之ト対抗セルタメニハ價格ヲ低クセザル可カラザルナリ、

買手モ亦欲ルベク價格ヲ低クシテ以テ一定ノ貨幣ヲ以テ取ル可ク多クノ貨財ヲ得ンコトヲ希望スルモノナレドモ傍ラニ競争者アリテ價格ヲ高クシテ此ノ必要トスル貨財ヲ求メントスルモノアルガ故ニ勢ヒ之レト対抗スルガ為メニハ價格ノ高キコトヲ思ハザル可カラズ、而シテ價格ハ上ニ速ベタルが如ク需要供給ノ一致点ニ決スルモノナリ、
 此ノ場合ニ当リテ需要ノ大小ヲ決スル原因ヲ抽象的ニ挙ゲレバ、
 (1)、ハ買手ノ其ノ貨財ノ上ニ置く便値ナリ、便値ハ心理現象ナルコトハ前述セル所ナリ、
 買手ノ其ノ貨財ニ対スル便値が比較的ニ大ナルモノナル時ハ需要モ亦

自ラ大ナラザルヲ得ズ、而シテ買手ニシテ其ノ貨財ニ対シテ便値ヲ置
クコト欲キトキハ要モ小ニ便値モ亦欲カラザルヲ得ザレナリ、學者
が買手ノ其ノ貨財ノ上ニ置ク便値が便格ノ最高限度ヲ示スモノナリト
スフ所以ハコ、ニアリ、

故ニ其ノ貨財ニ対シテ相当ニ便値ヲ認ムル買手ノ範圍廣ク其ノ便値比
較納大ナルモノナルトキ、

六、其ノ需要モ勞モ甚ク大ナラザルヲ得ザレ理ナリ、例へば穀物ノ需
要ハ寔等ノ急ヨリ云ハハ必要最モ大ナルベキモノナレドモ平常ハ之
ニ対シテ供給亦甚ク大ナル故ニ自ラ其ノ便格ハ甚ク高キモノニ
ハ非ザレドモ若シ不作等ノタメニ供給大ヒニ限定セラレタレトキハ
上述ノ原則が兩ニ行ハレテ其ノ便格ハ非滿ニ騰貴セザルヲ得ザルナ
リ、

King ハ穀物ノ便格ノ變動ヲ研究シテ穀物ノ便格ハ其ノ供給ノ平
方ニ反比例スルモノナリト云ヘリ、
King, 說明ハ近來ニ於テハ勞大ニ過グルモノナリト論スルモノ

タキモ貨財ノ性質上需要甚ク大ナレバモノナルヲ以テ供給が制限
セラレタル場合ニ於テハ便格が大イニ騰貴スルコトハ争フ可カラザ
ルコトナリ、

(三)

ハ買手ノ購買力ナリ、
上ニモ速ブレガ如ク或ル貨財ヲ買ハントスレモ、モ購買力ニシテ時
ハ其ノ希望ヲ実現スレヲ得ザルが故ニ自ラ需要ハ小ナラザルヲ得ズ、
經濟社會が好景氣ノ時ハ買主ノ購買力大ナルトキハ貨財ニ對ス
ル需要モ大ニシテ然ツテ便格モ高ク便格高キが故ニ其ノ貨財ノ売主
ハ多クノ利潤ヲ得ルコト欲フルヲ以テ一面ニハ買主トシテ其ノ購買
力大ナルモノナレバ益々以テ需要ヲ大ナラシムルモノナレト云フヲ
得、

又ニ反シテ不景氣ノトキハ買手ノ購買力小ナルトキナレバ需要モ小
ニ便格モ亦欲カラザルヲ得ザレナリ、
コノ理ヲ推シテ云ハバ經濟力ノ乏シキ者ハ經濟力大ナルモノニ比較
シテ寧ロ高價ナル生活ヲ営ムルモノナリト云ハザルヲ得ズ、

経済力ノ大ナルモ、モ亦未ダ需要大ナラサル時ニ所要ノ貨財ヲ購フ
コトヲ得ルモノナレバ其ノ價格モ低キモノナレド經濟力ノ乏シキモ
リハ需要ノ大ナルトキ極メテ之ヲ求ムルモノナレバ故ニ其ノ求ム
ル数量ガ小ナルコト、相俟ツテ價格ノ比較的ニ高ク成ツテ其ノ生活
費ハ高カラザルヲ得ザルニ至ル、

三、ニハ供給者間ノ競争ノ強弱ナリ、

供給者多クアリテ其ノ競争大ナルトキハ買手ハ容易ニ其ノ貨財ヲ求
ルコトヲ得ルモノナレバ其ノ時ニ於ケル需要ハサマデ大ナルモノ
ニアラズ、

従ツテ價格モ亦低ナルベキ理ナリ、次ニ供給ノ大ナラズ又ハ買手
ノ主ナルモノヲ求ムルベシ、

(1) 買手ノ貨財ノ上ニ置ク價值ナリ、

買手ニシテ貨財ニ對シテ多クノ價值ヲ認メ價格高カラザレバセラ
賣ルコトヲ欲セザル時ハ供給トシテ従ツテ價格ヲ高カラシムルモ
ナリ、

売手ハ常ニ價格ノ最モ高キ時期ヲ見テ貨財ヲ売ラントスルモノ
ナレバ仮令貨財ノ数量ヲ多クアリトモ價格ガ漸次騰貴スバシ
ト懸念セラル、場合ニハセテ売ラントスル若シキガ故ニ供給少
ナク従ツテ價格ハ騰貴ス

之ニ反シテ價格ハ下落スベキ弊ヒヤルトキハ売手ハ急激ニ売ラン
トスルモノナレバ供給亦大ニ價格モ低カニ下落スルモノナリ、

(2) コハ売手ノ貨幣資本(又ハ資金)ニ對スル需要ノ大小ナリ、
売手が原因ノ如何ヲ問ハズ貨幣資本ヲ得ントスル必要大ナルトキ
ハ仮令價格低シトモ之ヲ売ラントスル、之ニ反シテ貨幣資本ニ
對スル需要少キ時ハ徐々ニ價格ノ高マルヲ待テセテ売ルコトヲ
得ルモノナレバ供給小ニ價格モ亦自カラ高マルコトヲ得ルモノナ
リ、

例ニバ農家ニ納税ノ必要上穀物ヲ売ラザル可カラサル時ノ如ク又
ハ小生産者等ガ資金乏シキガ故ニ急遽ニ貨財ヲ売ラザルベカラザ
ル時ノ如キハ假令ニ貨財ノ供給ヲ大ナラシムルモノニシテ従ツテ

價格ヲ下落セシムルモノト云ハザルヲ解ズ、
政府が低利資金ヲ貸シ下ゲテ金融ヲ緩漫ナラシメントスレハ畢竟
資金ノ供給ヲ盛カナラシメ從ツテ赤字ノ資金ニ對スル需要ヲ緩和
セシメントスルニ外ナラズ、

(3)、生産費ナリ、

此如ニ生産費ト云フハ貸財ヲ生産スルガ為メニ現実ニ用ヒラレタ
ル費用ヲ意味スルモノニアラズレテ其ノ借財ヲ生産スルガ為メニ
用ヒラレ可キ費用ナリ、
前ニ云ヘル様生産費ノコトナリ、現今ノ経済社会組織ノ下ニ於テ
ハ營利主義ニ基キテ行動スルモノナレバ赤字ハ生産費以下ニテハ
貸財ヲ生産取産セントスレ着ハナキ故ナリ、
但レ赤字ハ如何ナル場合ニ於テモ生産費以下ノ價格ヲ以テ貸財ヲ
売ラザルモノナリト云フコト能ハズ、
仮令其ノ貸財が生産費以下ノモノナリトモ資本ノ回収其ノ他ヲ顧
慮シテ速ニ之レヲ売ルガ有利トナリタルトキハ必ズ之レヲ売ルベ

然レテ新ノ如キハ寧ロ例外ニシテ赤字が貸財ヲ売ヌスレニ当リ
テハ最も多ク生産費ヲ顧慮スルモノナリト云ヒ得ルヲ以テ從ツテ
生産費が供給並ニ價格ヲ動かス一大原因ヲ為ヌモノナリト称スル
コトヲ得ル理ナリ、

而シテ價格ハ需要ト供給トノ一致点ニ定マレコトが原則ナレドモ
若シ其ノ價格ニシテ前ニ述ビシ標準價格ヨリ高レタルトキハ其ノ
標準價格ニ近ツカントスル傾向アリト云ヒ得ルナリ、何トナレバ
若シ其ノ價格ニシテ標準價格ヨリ遠サカリタル時ハ競争者頭ハレ
テ標準價格ニ近ツキ價格ヲ以テ売ラントスルモノアルカ故ニ必ズ供
給ヲ動かシ從ツテ價格ヲシテ之ニ近ツカシムルナリ其ノ標準價格
ハ工業品ノ如ク値差ニ生産ヲ増加シ得ルノミナラズ一定量ノ生産
費が供給ノ増加ニ伴ヒテ減少ソスレ増加セザルモノト裏產物ノ
如ク値差ニ生産ヲ増加シ得ルモノ一定量ノ生産費が供給ノ増加ニ伴
ヒテ増加セザルモノカラザルモノトハ大ニ異ナレナリ、

即チ工業品等ノ生産ニハ收穫逓増ノ法則 (*Law of increasing returns*) 行ハル、モ、コレヲ生産ニ用フル資本労働ノ数量ニ比例シテ生産額増加シ得ルニ止マラズ寧ロ其レ以上ニ之ヲ増加シタルモノナリ、何トナレバ之等ノ生産ニハ資本労働ノ増加スルニ従ヒテ作業ノ應用機械ノ利益益々減ンタルコトヲ得ルモノニシテ為メニ生産費ヲ減少シ得ルモノナリ、故ニ生産者中比較的優越ナル地位ニ立テレモ、ハ資本労働ヲ増加シテ多ク生産シテ以テ競争者ヲ圧倒スルコトヲ得ルモノナルカ故ニ其ノ市場ニ現ハル可キ賣取中ニハ最モ低キ生産費ノミカ標準價格トシテ市場ヲ支配スルニ至ルナリ、然レテ間接ニハ其ノ生産費ハ價格ヲ支配スルモノナリト云フコトヲ得ル理ナリ、但シ價格が生産費ヲ中心トシテ標準價格ニ近ワカントスル傾向アリト云フニ止マリテ理由ノ如何ヲ問ハズ標準價格ニ近キ價格ヲ以テ売ラントスル競争者が現ハレザル限りハ供給者ハ求メテ標準價格ニ近ヨラントスルモノニハ非スレテ可成多クノ利潤ヲ得ントス

ルモノナルコトハ疑ヒナキナリ、唯々市場ニク競争者ノ多カレバキ場合ニハ其ノ價格ハ標準價格ニ近寄ラントスル傾向アリト云フニ止マルナリ、

東産物ハ資本労働ヲ増加スルコトニ依リテ生産額ヲ増加セザルヲ得ズ、

コノ種ノ生産ニハ收穫逓減ノ法則 (*Law of decreasing returns*) 行ハレバナリ、

土地ノ生産力ハ初メハ資本労働ヲ増加スルニ伴ヒテ之レヲ増加スルコトヲ得ルモノナレドモ或レ限度ヲ越コルトキハ資本労働ヲ増加シタル割合ニハ増加スルコト減ハザルナリ、換言スレバ資本労働ヲ増加シテ生産スルトキハ経済的ニハ其ノ生産額ヲ増加スルコトヲ得ルモノナルモ相対的ニハ之レヲ増加スルコト減ハザルナリ、其ノ結果ニハ一定量ノ資財ノ生産費ハ生産ノ増加スルニ伴ヒテ増加セザルヲ得ザルモノナリ、

従つて生産費ノ増加ヲ恐ヒテ供給ヲ増加スルニアラザル限リハ需
要ヲ満足スルコト能ハザル場合ニハ其ノ標準價格ナル生産費ハ其
ノ市場ニ現ハル可キ貨財ノ最高生産費ナル理ナリ、
従つて需要ト供給トノ一致ニ定マル價格ハ其ノ標準價格ノ前後
ニアルベキモノナリ、

但シ此ノ事ハ其ノ需要ヲ満足スルカ爲メニハ生産費ノ増加ヲ顧ス
レテ供給ヲ増加セザル可カラザル場合ニ云フコトニシテ例ヘバ生
産費ノ低廉ナル外國市場等ヨリ穀物等ヲ輸入シテ供給ヲ増加スル
コトヲ得ル場合ニ於テハ通用スルコト能ハザルナリ、
之レ異産物ノ價格ノ常ニ必ズシモ其ノ市場ニ頭ハルベキ物ノ最高
生産費が標準トナレモノニアラザル所以ナリ、
市場ニ於ケル價格決定ノ法則説明ヲ終ルニ當リテニ三注意スミ
キ点アリ、

(一)、ハ代用品ノ價格ナリ、
貨財中ニハ類似ノ效用ヲ有セルモノ少ナカラズ是等貨財ノ價格

ハ原則トシテ其ノ貨財ノ本質的價値ニ比較スベキモノナリ、何
トナレバ買手ハ其ノ本質的價値ヲ測リテ之ニ相当スル價格ヲ支
払ハントスルガ故ナリ、

ニツノ貨財ノ價格ガ此ノ原則ニ從ヒテ変動スル限リハ両貨財ノ
需要ニ変化ヲ生ズガレモ若シ或ル事情ノ下ニ其ノ貨財ノ一ニシ
テ價格騰貴セルモノトセバ其ノ貨財ノ需要ハ儉カニ減ジテ他ノ
貨財ニ移リ行クモノナリ、
其ノ結果、相抑制シテ價格ノ平均ヲ保ツコトヲ得ルモノナリ、

(二)、ニハ副産物ノ價格ナリ、
現今ノ生産組織ノ下ニ於テハ必ズシニ一種ノ生産物ノミカ得ラ
ル、モノニアラズシテ副産物ヲ得ルコト稀ナラズ、
副産物ノ價格ハ如何ニシテ定ムルカト云フニ生産者ハ主産物副
産物ヲ一括シテ其ノ生産費ヲ計上スルコトヲ得ルモノナルガ故
ニ之レヲ分賣シテ生産費ヲ計上スルコト能ハザルナリ、
故ニ生産者等ハ兩者ヲ合シタルモノヨリ異モ多クノ利潤ヲ得ン

トスルモノニシテ其ノ生産ヲ増加シ供給ヲ大ナラシメン
トスルモノニアラズ、而シテ其ノ生産物ノ需要多クシテ之ニ
相当スルモノケ生産ヲ為シタル場合ニハ副産物ハ其ノ需要ヲ越ヘ
テ生産セラル、理ナレバ其ノ價格ハ下落セザレバ得ズ、之ニ交
シテ生産物ノ需要小ナルカヤニ其ノ生産少ク從フテ副産物
ノ供給小ナルトキハ價格ノ騰貴ヲ見レ理ナリ、
貨財ハ現今ノ経済社会ニ於テハ直接ニ生産者ヨリ消費者ニ移ル
モノニハ非ズ、

商人が其ノ間ニ立ケテ之ヲ媒介スルモノナルコトハ前ニ述ベシ
所ナリ、而シテ生産者ハ商人若クハ商人相互間ノ売買取引ヲ
ハ卸売商業ト云ヒ商人又ハ生産者ト消費者トノ売買取引ヲ小
売商業ト云ヘリ、

卸売商業ニ於テハ売買ニ干渉スルモノハ貨財ノ品質等ハ勿論經
済社会ノ状勢ニ通ジタル者ナレバ競争ハ比較的完全ニ行ハレテ
上述ノ價格決定ノ法則が行ハルレドモ小売商業ニ於テハ需要者

タル消費者ハ貨財ノ品質等ニ通ジザレテ以テ自ら
消費者ハ比較的限定セラレタル範囲内ニ於テ最も廉價ニ産ルモ
ノヲ求メ得ルニスヤザレバ上述ノ價格決定ノ法則ハ充分ニ行ハ
レザレナリ、*mill*ノ如キハ小売商業ニ於テハ價格ハ慣習ニ
依リテ定マリ経済法則ニ依リテ定マルモノニアラズト論ジタレ
ドモ之ハ極端論ニシテ産手ハ其ノ地位ノ優越ナルニ求ジテ卸売
ノ價格並ビニ小売商業ニ伴フ費用ヲ計算シテ價格ヲ定メテ買手
ヲシテ之ニ依リテ産買ヲ為サレメントズルモノナリ、買手ハ形
ンド之レニ服従セザレ可カラザレバ有様トナレリ、殊ニ小売ノ價
格ニ付キテ著シキ現象ハ卸売價格が騰貴スルトキハ小売商人ハ
之ヲ理由トシテ小売ノ價格ヲ高クスルモノナレドモ卸売ノ價格
下落スルモ容易ニ小売價格ヲ安クスルモノニハ非ズ、學者ハ此
ノ現象ヲ各付ケテ小売價格ノ察察ト云ヘリ、
小売價格ヲシテ卸売價格ト違テシテ高値セシメントスルニハ一
方ニ消費者トシテ貨財ノ品質ト経済社会ノ状勢ニ通ジシメテ比

較的に於て範圍ニ於て最廉價ニ売ル者ヲ求メシムルト同時ニ小売
 ノ商業ニ於ケル競争ヲ盛ナラシムルヨリ外ニ道ナキナリ、
 (4)ニハ売手買手共ニ一名ナル場合ニ於ケル価格ナリ、市場ニ於ケル
 売買取引ニテハ需要供給共ニ多数ノ競争者アルヲ原則トスル
 モ、ナレバ賣手モ買手モ共ニ一名ナル場合ニ於テ売買取引行ハ、
 ル、ナリ、此、場合ニ於テハ上述ノ価格決定ノ決別ハ殆んど
 行ハル、モ、ニ非ス從ツテ生産費、如キハ価格ノ決定ニハ何等
 ノ關係ヲ有スルモ、ニ非ス唯兩者ノ經濟上ノ位置ノ優劣ニヨ
 リテ價格カ決定ナル、モ、ナリ、即チ売手カ共、位置優越ナルハ
 ハ其希望スル如ク價格ヲ高カラシムルコトヲ得共、位置劣等ナ
 ルハ價格ハ自ラ低カラサルヲ得ス、此、際売手買手ノ競争上
 ノ位置ノ優劣ヲ定ムヘキモ、ハ売手買手ノ何レガ共、貨財ニ對
 シテ多クノ価値ヲ認メタルカ並ヒニ買手売手ノ何レガ共、貨財
 ノ對価ナル貨幣ニ對シテ多クノ価値ヲ認メタルカト云フコトナ
 リ。

第七章 生産要素ノ價格

生産ニハ土地労働並ヒニ資本ヲ必要トスルモノナリ、學者ハ之レヲ生産
 ノミ要素トシテ之レヲ論セリ、而シテ現代ノ經濟社會組織ノ下ニ於テハ其
 ノ要素ヲ所有スル者ノミカ之ヲ利用シテ生産ヲナスモノニハ非ス、他人ヲ
 シテ之レヲ利用セシメテ以テ相當ノ報酬ヲ受クルモノアリ、他人ノ所有ス
 ル生産要素ヲ利用シテ之ヲ結合シテ生産ヲ行ヒ以テ利潤ヲ得ントスルモノ、
 カ企業家ト稱シテ經濟社會ニ於テ最も重要ナル位置ヲ占ムルコトハ前章ニ
 之レヲ説明セリ、最モ現今ニ於テモ生産ノ要素ヲ所有セルモノカ悉ク他人
 ヲシテ之レヲ利用セシムルモノニハアラス、其ノ所有スル要素ヲ自ラ利用
 シ若クハ自己ノ所有スル要素ト他人ノ所有スルモノトヲ結合シテ利潤ヲ得
 ントスルモノアリ、而シテ乍ラ經濟上ヨリ觀察スル時ハ自己ノ所有ニカ、ル
 要素ノミヲ利用セントスルモノハ比較的ニ少クシテ多クハ自己ノ所有ニカ

、ル要素ト他人ノ所有スル要素トヲ結ヒ付クル者ハ全然他人ノ所有スル要素ヲ利用シテ其ノ間ニ利潤ヲ得ントスルモノナリ。

自己ノ所有ニカ、ル要素ト他人ノ所有ニカ、ル要素トヲ結合スル場合ニハ自己ノ所有ニカ、ル物ノ利用ノ報酬ハ利潤ノ内ニ包含セラレテ之レヲ區別スルコト難ケレトモ他人ノ所有ニカ、ル要素ヲ利用スル場合ニハ其ノ報酬ハ之等ノ要素ノ需要ニ對スル價格ト見ルコトヲ得ル理ニシテ從フテソノ生産費ノ構成分子ナリ、故ニコ、ニハ其ノ價格ニ付キテ研究セントス。

此ノ問題ハ普通富ノ分配又ハ所得ノ構成トシテ論セラル、モノナリ、生産ノ三要素中労働ハ人類カ或ル一定ノ目的ヲ達スル為メニ行フ活動其ノモノヲ指スモノナレハ假令企業家ノタメニ經濟上ノ目的ヲ達スル為メニ爲シタルモノト云ヒナカラ之レヲ普通ノ貸財等ト等シク其ノ價格ヲ論スルハ適當ナリヤ否ヤハ異論下ル處ニシテ現ニ國際労働規約中ニモ労働ハ商品ニアラストノ原則ヲ認ムルニ至レリ、然レトモ労働ノ報酬即チ賃銀ノ高低ハ價格決定ノ法則ニヨリテ決定スルモノナレハ此處ニハ生産要素ノ價格ノ一トトシテ論説セントス。

土地労働並ニ資本ハ生産ノ要素トシテ極メテ重要ナルモノナレドモ他人ヲシテ之ヲ利用セシムルトキハ其ノ要素ヲ所有スルモノハ之レニ對シテ契約ニ基キテ報酬ヲ得テ其所得トナスモノナレハ學者ハ之レヲ契約所得ト云ハリ、蓋シ其ノ所得ノ多少ハ契約ノ内容ニ依リ定マルモノニシテ決シテ一定セルモノニ非ラサレハナリ、之レニ反シテ企業家ノ所得ノ利潤ハ全ク性質ヲ異ニシ生産シタル貨財ノ價格中ヨリ利用シタル生産要素ノ價格ノ和即チ生産費ヲ控除シタルモノヨリナルモノナリ、學者ハ之レヲ剰余所得ト云ハリ、最モ嚴正ニ云フトキハ企業家カ其ノ企業ヲ經營スルタメニ相当ノ労働ヲナスラ常トスルモノナレハ之ハ一種ノ労働ト解セサル可カラサル故ナリ、換言スレハ利潤ノ中ニハ企業家ノ労働ノ報酬ヲ包含セル場合少ナカラ

利潤ト企業家ノナス労働ノ報酬トヲ觀念上區別シ得ルコトハ現ニ株式会社ノ如キハ企業家人株式会社ソノモノナレトモ其ノ經營ニ当ル取締役等ニ於テ相當ノ報酬ヲ出セル訳ナリ、從ツテ理論ヨリ云ハバ企業家カ自ら經營ニ當ル場合ニモ利潤ハ企業家ノ労働ニ付スル報酬ヲ除ケルモノナラサル

可カラサル誤ナリ。又普通利潤ト称スルモノ、中ニハ其ノ企業ニ伴フ危険ニ対スル保険料ヲ含メルモノアリ、企業中ニハ或ル程度マテハ危険ヲ予想シ得ルモノアリテ之レニ對スル相當ノ金額ヲ控除シ以テ利潤ヲ計算スルモノアリ、例ヘハ海運業者カ海運業ニ伴フ危険ヲ豫測シテ其ノ收益ノ中ヨリ相當ノ控除ヲナスカ如キモノナリ。然シナカラ之等ハ比較的ニ危険ノ程度ヲ豫測スルコト容易ナルモノナレトモ需要供給ノ変化ヨリ生スル危険ニ至リテハ明確ニ之レヲ知ルコト能ハス、然レトモ理論上ヨリ云ハバ利潤中ヨリ危険ニ對シテ相當ノ價格ヲ控除セサレハ剰余所得ノ性質ヲ表ハセルモノニ非ラスト云フコトヲ得、其ノ結果利潤ハ嚴正ナル意義ニ於テハ剰余所得ノ性質上其ノ額ハ一定セルモノニハ非ス、又其ノ額ヲ決定スヘキ原則ノ存セルモノニモ非ス、以下少シク生産要素ニ付キテ價格決定ノ法則ヲ説明セ

一四六

第一節 地代

土地ハ生産ニ必要ナル場所ヲ供シ生産ニ必要ナル材料ヲ供シ更ニ生産ニ必要ナル力ヲ供スルモノナルカ故ニ生産要素トシテ甚ク重要ナルモノ

ナリ
現代ノ經濟社会ニ於テハ土地ハ原則トシテ私有セラル、モノナルカ他人ヲシテ土地ヲ利用セシムル場合ニハ其ノ報酬トシテ地代ヲ及ブルナリ、即チ地代ハ土地ノ利用ニ對スル報酬ナリト云フコトヲ得ル所以ナリ、而シテ如何ナル土地ト雖モ之レニ多少ノ資本勞働カ加ヘラレテ我々ノ利用ニ達スル状態トナサレタルモノナレハ普通ノ用語ナル地代中ニハ土地固有ノ生産力ニ對スル使用料ト並ヒニ其ノ土地ニ用ヒラレタル資本勞働ニ對スル使用料トヲ含ムモノト云ハサル可カラス、地代ニ因スル議論ノ歧ル、所ハ多クハ地代ヲ單ニ土地固有ノ生産力ノ使用料ト称スルカ若クハ之レニ用ヒラレタル資本等ニ對スル使用料ヲ含ムモノナリト称スルカニヨリテ起ル。

夫ノ Q. Ricard ハ地代ヲ嚴正ニ解釈シテ土地固有ノ生産力ノ使用料ナリトシテ有名ナル地代説ヲ立テタリ、即チ耕作スヘキ土地ノ面積廣クシテ生産力ノ最モ優レタルモノノミヲ耕作スルヲ以テ既ニ農産物等ノ需要ヲ満足シテ餘リアル場合ニ於テハ地代ハ未ダ發生セサルモノナレト

一四七

モ人口漸ク増加シテ最生産力ノ優レル土地ヲ耕作スルモ農産物ノ需要ヲ満足スル一能ハサルニ至ル時ハ収穫递减ノ法則ノ適用ヲ忍ビテ之レニ資本労働ヲ多ク用ユルカヌハ土地ノ生産力ノ稍劣レルモノヲ耕作スル可カラサルニ至ルハシ、土地ノ生産力劣レル土地ヲ耕作スルモノハ地代ヲ出スコト能ハス、^辛ンテ用ヒタル資本労働ニ對スル報酬ヲ得ルニ止ルモノナレトモ全一資本労働ヲ用フルモ生産力ノ優レルモノヲ耕作ス者ハ遙カニ多クノ収益ヲ得ヘキ道理ナリ。

茲ニ於テ土地ヲ耕作スモノハ生産力ノ優レル土地ヲ所有スルモノニ對シテ地代ヲ出シ以テ之レヲ利用セントスル者ヲ生ス、如斯クニシテ生産力ノ優レル土地ニハ地代ヲ生スルナリ、例ヘハ甲乙丙ノ三国アリ、若干ノ資本労働ヲ用フルトキハ甲ハ二石、乙ハ二石、丙ハ一石ヲ得ルモノナリト假定セハ人口尚稀薄ナルトキハ甲ノ田ノミ耕作スルモ尚穀物ノ需要ヲ満足スルコトヲ得ル訳ナレトモ人口稍々増加シア甲ノ田ヲ耕作スノニテハ其ノ需要ヲ満足スルコト能ハサル時ハ土地ヲ耕作スモノハ農産物ノ價格騰貴スルカタメニ乙ノ田ヲ耕作トモ尚其ノ資本労働ニ對スル相当ノ報酬

ヲ受クルコトヲ得ルモノトセハ乙ノ田ヲ耕作スヘシ、比ノ際甲ノ田ハ乙ノ田ニ比較シテ全一資本労働ヲ用フルモ尚木二石ノ差異ヲ生スル理ナレハ其ノ差異ハ甲乙二田ノ生産力ノ差異ナリト云フコトヲ得、從テ甲ノ田ヲ所有スルモノハ之ヲ他ニ利用スルコトヲ許シタルトキハ之レニ對シテニ石ヲ地代トシテ受クルコトヲ得ル訳ナリ、更ニ全一理ニヨリテ丙ノ田ヲ耕作スルニ至レハ乙ノ田ハ丙ノ田ト生産力ノ差異ニ於テニ石ノ差アル訳ナレバ地代トシテ所有者ノ手ニ帰スルニ至ル、又甲ノ田ノ所有者ハ四石ヲ地代トシテ受クルニ至ル。

要スルニ地代ハ或ル土地ノ生産力ト現ニ耕作セラル、土地ノ中^最生産力ノ少キモノ、生産力トノ差異ナリト云フコトヲ得ル訳ナリ、最モ生産力ノ少ナキ土地トハ之レヲ耕作ストモソノ生産額ハ之レニ用ヒタル資本労働ニ對スル報酬ヲ受クル^ニ止リテ^ニ剰余ヲ生セサル土地ヲ指スモノニシテ之レヲ耕作ト云ヘリ (margin of Cultivation)。

而シテ農産物ノ價格ハ耕作即チ生産力ノ劣レル土地ニ於ケル生産費ヲ標準トシテ定マルモノナルカ故ニ地代ハ農産物ノ生産費中ニ含まルモノ

ニ非ス、從ツテ農産物ノ價格ノ騰貴ハ耕境ヲ低下セシメ從ツテ地代ヲ騰貴セシムル結果ヲ生スレトモ地代ノ高低ハ農産物ノ價格ヲ増減セシムルモノニハ非ス、加之政府カ地代ニ對シテ租稅ヲ課スル時ハ土地所有者ハ其ノ地代ノ一部分ヲ去リテ之ヲ納ムルモノニシテ耕境ト其ノ土地ノ生産力トノ差異ニシテ變化ヲ見サル限リハ其ノ地代ヲ高ムルコトヲ得ルモノニ非ス、從ツテ其ノ租稅負担ヲ土地ヲ耕スモノニ転嫁セシムルコトヲ得ルモノニ非ス。

以上ノ說明ハ單ニ土地ノ生産力ニ差異アルコトヲ假定シテ耕作セラル、土地ト市場トノ距離ヲハ度外視シタルモノナレトモ實際ニ於テハ土地ヲ耕ス者ノ立場ヨリ云ハバ土地ノ生産力大ナリトモ市場ヨリノ距離遠クシテ其農産物ヲ市場ニ出スタメニ運賃多キ時ニハ却ツテ生産力少ナルトモ市場ニ近キカタメニ運賃少ナキ土地ヲ撰ビテ耕作スヘケレハ距離ノ遠近從ツテ運賃ノ多少ハ生産力ノ多少ト全シク地代ヲ決定スルモノナリト云フコトヲ得即チ「リカルド」ノ說明ニ從ヒテ地代ノ發生スル原因ヲ列挙セハ

(1) ハ土地ノ生産力ニ差異アリテ全一資本労働ヲ用セテ耕作スルモ其ノ收

獲ニ差異アルコト

(2) ニハ土地ノ位置ニ差異アリテ市場ハ收穫物ヲ運搬スル費用カ等シカラサルコト。

(3) ニハ收穫逸減ノ法則ノ行ハルコト。

(4) ニハ農産物ニ對スル需要多クシテ現在耕セル土地ノミニテハ十分ニ之レニ應スルコト能ハサルコトナリ。

「リカルド」ノ所謂地代ハ普通ノ用語ニ於ケル地代トハ異リテ土地ニ投セラルタル資本労働ニ對スル報酬ヲ含マサルモノナリ、現今如何ナル土地トモ全然資本労働カ投セラレルモノナキヲ以テ地代ノ性質ヲ研究スルニ当リテ「リカルド」ノ如クニ其ノ一部分ヲ分離シテ之レヲ地代ト稱シテ地ノ經濟現象トノ關係ヲ考究スルコトカ適當ナリヤ否ヤハ一ノ疑問ナラサルヲ得ス、從ツテ次ニ述フルカ如ク「リカルド」ノ學說ニ對スル非難攻撃ハ半ハ此ノ用語ノ差異ヨリ起レルモノナリト云フコトヲ得、尤モ「リカルド」ノ地代ト稱セル部ハ普通ノ用語ニ於ケル地代ノ構成分子ノ中ニ於テ最も重要ナル部分ヲ占ムルモノナルコトハ論スルマテモナキナリ、今少シク「リカルド」ノ說

對スル反對説ヲ挙ケレハ次ノ如キモノアリ。

(一) ハ「リカルド」ハ土地ノ最も生産力ノ大ナルモノカ最初ニ耕サレテ漸次生産力ノ小ナルモノニ及フモノナルコトヲ説明セルモ之レニ對シテアメリカノ經濟學者 Carly 氏ハ經濟史實ニ照シテ反對シテ曰ク、米國ニ於ケル農業ノ発達ヲ見ルニ高地ニシテ比較的肥沃ナラサル土地カ先ツ耕サレテ漸次低地ニシテ肥沃ナル土地ニ及ヒタルモノナリ、^{故ニ}「リカルド」ハ單ニ想像ニ基キテ其ノ説ヲ立テタルモノナレハ抹ルニ足ラサルモノナリト云ヘリ、此ノ非難ハ「リカルド」ノ説ヲ覆スモノ、如シ、「リカルド」ノ説ハ地代ハ土地ノ生産力ノ差異ニ基クモノナリ、如何ナル土地カ最も早く耕サレ、モノカハ單ニ口腹ノ事ニ屬ス從ツテ Carly 氏ノ云フ如ク殖民者ハ假令或土地カ肥沃ナルコトヲ知ルニ拘ラス、ソノ土地低クシテ之ヲ農業地トナスコト比較的ニ困難ナルモノハ之ヲ先ツ耕サズシテ比較的ニ耕シ易キ土地ヲ撰フコトハ理ニ於テモ是認スルコトヲ得可ク從ツテ事實ナルヘシ、然レテ亦假令早く耕作セラレタル土地トモ生産力乏シクシテ後ニ耕サレタル土地ニ比較シテ收穫多キ場合ニ於テハ後ニ耕サレタル土地ニハ地代ヲ

生スキモノナレトモ前ニ耕サレタル土地ニハ地代ヲ生セサル可シ、故ニ「リカルド」ノ説明ハ米國等ノ史實ニ悖レルトスルモ其ノ説ノ基礎ヲ覆ハシ得タルモノト云フコト能ハズ。

(二) 「リカルド」ノ時代ノ説ニシテ正スキモノトセバ地代ハ佛ニ騰貴シ行カサル可カラサル理ナリ、然ルニ諸國ノ實例ニ徴スルニ地代ハ必スシモ騰貴セズ、近年ニ至リテハ却ツテ下落セル所尠カラズ、故ニ「リカルド」ノ説ハ正シカラスト云フモノナリ、此ノ非難ニ對シテハ特ニ注意スヘキ點ニアリ、一ハ前ニ云フカ如ク「リカルド」ノ所謂地代ハ土地ノ生産力ノ差異ヲ指シタルモノニシテ普通ノ地代ヲ指シタルモノニハ非ス、從ツテ理論上ヨリ云ヘハ普通ノ地代中ニ含まレタル生産力ノ差異以外ノ分子ニシテ下落セル程度甚シキ時ハ假令生産力ノ差異ニシテ増加スルトスルモ普通ノ用語ニ於ケル地代ハ下落スヘキコトハ想像ニ得ル事ナリ、ニハハ假令此ノ真ヲ措クモ「リカルド」ハ決シテ將來地代ハ騰貴シテ止マサルモノナリトノ予言ヲナシタルモノニハ非ス、若シ農産物ノ需要ニシテ益々多ク從ツテ生産力ノ劣レル土地若クハ市場ヨリ遠ク巨レタル地ヲ耕ササル

可カラサル場合ニ於テハ地代ハ騰貴セザルヲ得サルモノナリ、之レニ及
シテ交通機関ノ発達等ニヨリテ生産力ノ乏シキ土地ハ之ヲ排スル必要ナ
キ場合ニハ耕境ハ下ルモノニ非ス、從ツテ地代ノ騰貴スルモノニ非スト
云フコトヲ得ル譯ナリ、故ニ「リカルド」ノ説ハ此ノ点ニ於テハ仮令抽象的
ニモセヨ之ヲ履ス能ハサルモノナリ。

(三) 「ハ現ハ「リカルド」ノ説ニ從ヘハ現ニ耕サル土地ノ中生産力ノ最も
劣レルモノニハ地代ヲ生セサル理ナリ、然レトモ事實ニ於テハ地代ナキ
モノナシ、故ニ「リカルド」ノ説ハ正シカラスト言フモノアリ。此ノ非難モ
亦普通ノ用語ニ於ケル地代ト「リカルド」ノ所謂地代トハ意味同シカラサル
ヨリ生スル非難ナルヘシ、普通ノ用語ノ地代ノ時ニハ「リカルド」ノ云フ
地代ト其ノ土地ニ投セラレタル資本労働ニ對スル報酬ヲ含ムモノナレハ
從令「リカルド」ノ云フ地代ヲ生セサル土地ト云モ他人ノ土地ヲ利用ス
ルモノハ之レニ對シ相當ノ報酬ヲ出ササル可カラス、仮リニ其ノ点ヲ暫
ク指クモ「リカルド」ノ所謂生産力ノ最も劣レル土地トハ或種ノ利用ニ
對シテ最も生産額ノ少キ土地ヲ云フコトニシテ他ノ種ノ利用ニ當テタル

時ハ必ラスシモ生産額カ最も少シト云フコトヲ得ルヤ否ヤハ疑問ナリ、
例ヘハ或ル土地カ米作物トシテハ生産額甚タ少ナキモノナリトスルモ之
ニ麥ヲ作ル時ハ米シテ最も劣レル土地ト云フコト能ハサルカモ知ラズ、
然ラバ耕作地トシテノ最も劣レル土地ト云モ他ノ利用方法ヨリズハ最も
劣レル土地ニ非ル以上ハ若干ノ地代ヲ生スルコトアルハ想像スルコトヲ
得、故ニ此ノ点ヨリシテ「リカルド」ノ説明カ誤レリト云フコト能ハサル
理ナリ、市街地ノ最も劣レル土地カ相當ノ地代ヲ等タルコトモ畢竟之レ
ヲ農業地トシテ用フレハ最も劣レル土地ニ非ルカ故ニ自ラ相當ノ地代ヲ
生セシナリ。

(四) 「リカルド」ハ地代ノ決定ニハ耕作者ノ間ニ競争行ハル可キコトヲ予想
セルモノナレトモ土地ノ所有者ト之ヲ耕ス者トハ地代ニ休テハ數十年ニ
互リテ契約ヲ結フモノニシテ從令地代カ比較的ニ低クトモ土地ノ所有者
ハ他ノ者ヲシテ之ヲ耕サシメントスル者ニ非ス、又假令地代高クトモ耕
ス者ハ他ニ移リテ他ノ土地ヲ耕サントスルモノニ非ス、故ニ「リカルド」ノ
如クニ競争行ハル、モノナリトナスコトハ大ニ誤レリト云フナリ、然

レトモ此ノ点ニ付キテモ「リカルド」ハ決シテ普通ノ賃財ノ價格ニ於ケルカ如ク競争行ハル、モノナリト想像セルニハ非ス、寧ロ反對ニ土地ノ所有者ハ其ノ土地ニ付キテハ独占的位置ヲ有セルモノニシテ土地ノ收益中ヨリ耕ス者ヲシテ僅カニ其ノ資本労働ニ對スル報酬ヲ及ケシムルニ止リ其ノ他ハ奪ケテ之レヲ其ノ手ニ收ムルモノナリト説明セルナリ、土地ノ所有者ハ独占的位置ニアリトハ云ヘ妾リニ地代ヲ西メテ之ヲ耕スモノヲシテ其ノ資本労働ニ對スル報酬ヲ及ケルコト能ハサル様ナサシムルコト能ハス、但シ土地ノ耕作ノ如キハ頻リニ之ヲ耕ス者ヲ代フルコトヲ許ササルモノナレハ比較的長キ期間ニ互リテ契約ヲナスモノナリ、從ツテ普通ノ賃財ノ売買ノ如クニ競争ノ行ハル、モノニハ非レトモ「リカルド」ノ想像スルカ如ク地代ノ決定ニハ相當ニ競争ノ力ノ働ケルモノナルコトハ之ヲ認メサルヲ得サルナリ。

要スルニ地代ハ「リカルド」ノ有スルカ如キ定義ヲ採ル時ハ勿論普通ノ意義ニ從フモ土地ノ所有者ヲ独占者トシテ土地ヲ利用セントスル者ニ對シテ要求スル價格ニ付ナラサルノミナラス地代ハ土地所有者ノ労働ノ結果

トシテ生シタルモノハ甚ダ少ク且地代ハ社会的ノ原因ニヨリテ騰貴スルモノナルカ故ニ地代ソノモノニ對シテ之ヲ否認スル者ヲ生スル理ナリ、地代ヲ否認シ若シフハ之レヲ改メントスル議論ノミヲ擧フレハ次ノ如キモノアリ。

(一) 社会主義者ハ初メヨリ資本ノ私有ヲ否認スルモノナレバ勿論土地ノ私有ヲ否認セルモノニシテ其ノ結果トシテ地代ソノモノヲ否認スルハ勿論ナレトモ同一社会主義者中ニ於テモ稍異説ヲ放テルモノハ Henry My. George ナリ、Henry George 八單稅政策ニヨリア土地所有者カ自己ノ労働ニヨラスシテ利益ヲ得ル事ヲ防止セントスルモノナリ、土地ノ私有カ社会上善アリト云フハ畢竟人口ノ増加、土地ノ需要ノ増加ニヨリテ土地ノ價格ト地代ノ増加ヲ招クカタメニ土地ヲ所有スル者ハ勞セスシテ大ナル利潤ヲ得ルカタメナリ、國家ハ宜シク土地ニ重稅ヲ課シテ之レヲ防止セサル可カラス、土地ニ重稅ヲ課スル時ハ其ノ他ノ租稅ハ之ヲ廉ストモ財政上困難ヲ見ル事ナカル可シ、從ツテ社会多數ノ者ノ負担ヲ軽減スルコトヲ得ヘシ、是一擧兩得ノ策ナ

リト云フナリ、所謂單純論ナルモ之ナリ、此ノ論ハ勿論極端ニシテ
採用スヘキニハ非レトモ、ソノ論ノ根據ハ土地ノ独占的性質ヲ攻撃セ
ルニ在リ言フコトヲ得。

(二) ニハ *Malthus* 等ノ學者ハ土地ハ國家ノ有ニ移シ國家ハ期限ヲ定メ
テ之レヲ貸下グルニ非レハ土地ノ独占的性質ヨリ生スル利益ノ壟斷ヲ
防止スルコト能ハスト主張スルナリ、而シテ土地ノ利用ハ性質上短期
ナルモノニ非サレハ五〇年乃至九九年ノ長期ヲ許ササル可カラサレト
モ其ノ期限到来セハ土地ノ独占ヲ回復シテ新ニ之ヲ貸下グルモノナリ、
換言スレハ地代ハ之ヲ國家ノ收入トセサル可カラスト云フナリ、此ノ
論ニ對シテ土地ノ利用制限ヲ定メタル時ハ自ラ墾耕等ノ弊害ヲ生ス可
カラサルモノナリト論スルモノアレトモ墾耕ノ生スルハ期限短キ場合ニ
生スルモノニシテ此ノ論ニ於ケルカ如ク期限甚ク長キノミナラス引續
キテ土地ヲ利用スル事ヲ必スシモ否認セサル場合ニハ其ノ憂無カル可
シ、故ニコノ論ハ理論上ニ於テハ頗ル有力ナル説ナリト云ハサル可カ
ラス、但シ之レヲ実行スルニハ國家ハ先ツ土地ヲ買収セサル可カラス

其ノ買収價格ニシテ高キ時ハ國家ハ財政上不利益ヲ見サル可カラス、
假リニ相當ナル價格ヲ以テ買収スルコトヲ得タリトスルモ全國ニ至リ
テ之ヲ実行スルニハ驚ク可キ巨額ノ資金ヲ要スルヲ以テ之レヲ得ル方
法ニ困難ヲ見サル可カラサルヲ以テ実行上ヨリ云ハハ大ニ疑アリト感
ハル。

(三) ニハ *Mill* ノ如キハ土地私有ソレ自身ハ必スシモ排斥スヘキモ
ノニハ非ス唯利用スルコト能ハサル云々ナル土地ヲ私有セシムルコト
ハ宜シカラス、農業ヨリ云ハハ全國ニ渡リテ成ル可ク多クノ自作農業
者ノ存スルコトヲ希望セサルヲ得ズ、然ルニ現今ノ如クニ土地ノ所有
權ニ制限ヲ認メサル結果ハ土地兼併ノ風行ハレテ自作農業者ノ數ヲ減
少スル傾向アリ、故ニ一面ニハ一定ノ土地即チ家屋住宅及ヒ之レニ附
隨スル周圍ノ土地等ヲ特別財產トシテ登記セシメテ以テ債權者ノ追究
ヲ免レシメ一面ニハ小作人等ニシテ土地ヲ所有セントスル者アル時ハ
國家ハ之レニ相當ノ便宜ヲ與ヘテ以テ自作農業者ヲラシメサル可カラ
ス、自作農業者ハ初メ自己ノ眞實ニ利用スルコトヲ得ル程度ニ於テ土

地ノ私有ヲ許ス時ハ地代ノ不合理ヨリ生スル弊害ヲ除クコトヲ得ルモ
ノナリト主張セリ、其他此ノ種ノ論甚タ多キモ經濟政策ニ於テ論ス可
キモノナレハ之ヲ省ク。

以上ハ主トシテ農業地ニ於ケル地代ニツキテ説明セルモノナレド市街
地ノ地代ハ性質ヤ、之ト異ナレルモノナレハ一言セン。

農業地ニ於ケル地代ハ主トシテ其ノ土地ノ生産額ト耕種ニ於ケル生産額
ノ差異ニヨリ生スルモノナレトモ市街地ニ於ケル土地ノ利用ハ之ト性質ヲ
異ニセルモノニシテ宅地トシテ若シクハ商業地トシテ之ヲ利用セル者カ女
扱フ價格ニ外ナラサルナリ、從ツテ市街地ニ於ケル地代ハ宅地若クハ商業
地トシテノ需要ノ多少ニヨリテ定マレルモノナリ、而シテ市街地ノ独占性
質ハ農業地ニ比較シテ遙カニ多キモノナリ、人口増加ニ伴ヒテ都市ノ中心
地ハ商業地トシテ需要激増スルカ故ニ地價並ヒニ地代ノ騰貴スルコト甚タ
シカラサルヲ得ス、實際ニ商業地ニ比較シテ需要少ナキモ農業地等ニ比較
シテハ遙カニ大ナルモノナリ、而シテ其ノ地代ハ多クハ借家料中ニ包含セ
ラル、モノニシテ借家料中ヨリ家屋ノ建築費並ヒニ消却金及維持費ヲ考慮

セハ初メテ地代ヲ知ルコトヲ得ルモノナリ、勿論他人ノ土地ヲ利用シテ自
ラ家屋等ヲ作ル場合ニ於テハ地代ハ独立ナル形體ヲトルモノナリ。

市街地ノ地代ハ其ノ土地ニ對スル需要ノ多少ニヨリテ定マルモノナレハ
甚タ不同ニシテ其ノ價格ハ半ハ習慣等ニヨリテ定マルモノニシテ半ハ商業
地トシテ若クハ宅地トシテ位置ノ適否ニヨリテ定マルモノナリ、都市ノ人
口ハ益々増加シ從ツテ土地ニ關スル需要ハ益々増加スハキヲ以テ土地ハ自
然技術ノ目的物トナル場合多ク其ノ結果土地ノ價格並ヒニ地代ハ技術的ニ
増加スル場合モ少カラズ、故ニ土地ノ價格並ヒニ地代ノ暴騰ヲ防クタメニ
歐米諸國ニ於テ土地ノ増価税ヲ起シテ土地ノ売買ヲ行ハル、時若クハ一定
ノ時日ニ土地ノ價格ノ増加ノ程度ヲ計リテ其ノ一部分ヲ担税トシテ之ニ徵
セルモノヲナカラズ。

次ニ賃金ヲ賦課ニ解スレハ労働者カ契約ニ基キテ企業家ノタメニナス勞
働ニ對シテ受クル報酬ナリ、官吏公吏ノ俸給、自由職業者ノ受クル報酬ノ
如キハ公益ノ賃金ノ中ニハ之レヲ包含セシムルコトヲ得ルモ官吏公吏ノ俸
給ハ契約ニヨリ定マルモノニ非スシテ法律ニヨリテ定マルモノナルカ故ニ

狭義ノ賃金トハ性質ヲ異ニシテ從ツテソノ價格決定ノ法則ヲ異ニセリ、自由
 職業者ノ受ケル報酬モ稍独占的性質ヲ帶フモノニシテ格義ノ賃銀トハ性質
 ヲ同シクセス、ココニハ主トシテ格義ノ賃銀ニ對シテ説明セントス。
 賃銀ハ性質上労働ニ對スル價格ナレトモ嚴正ニズツ時ハ企業家ハ労働者
 ヨリ労働ソノモノヲ求ムルモノニ非スシテ労働ノ結果ヲ求ムルモノナルカ
 故ニ仮令労働ノ價格タル賃金ニシテ低廉ナリトスルモノノ労働ノ結果ニシ
 テ比較的ニ少キ時ハソノ労働ハ低廉ニシテ企業家ニトリテ有利ナリトズフ
 コト能ハサル理ナリ、然ルニ企業家ハ賃金ハ生産價ノ中ニ於テ重要ナル部
 分ヲ占ムルモノナレハ労働者ノ微力ナルニ乘シテ賃金ヲ少クシ若クハ労働
 条件ヲ悪シクシテ之レニヨリ労働ノ價格ヲ低廉ナラシメテ以テ利潤ヲ多カ
 アシメントスル者少カラズ、此ハ企業家ハ労働ソノ物ヲ求ムルモノニ非ス
 シテ労働ノ結果ヲ求ムル者ナル事ヲ解セサルヨリ出ワル誤ナリ、賃金ヲ高
 クシ労働条件ヲ善クスル時ハ労働ノ能率ヲ増加スルコトヲ得ルヲ以テ原則
 トス、賃金高ク労働条件ヨキ時ハ労働者ノ生活状態ハ改善セラレ体力知識
 モ亦進ミ来ル可ケレハ此ノ實ヨリシテモ労働能率ハ増進シテ労働ノ結果ヲ

増加スル事トナル、殊ニ生活ノ安定ヲ得ル結果トシテカマズクシテソノ勞
 働ニ從事ス可シ、從ツテ労働能率ハ大ニ増進ス、労働者ハ其ノ利益ノタ
 メニ賃金ノ増加、労働条件ノ改善ヲ要求スルニ違ナキモ労働ノ結果ヨリ見
 レハ或程度迄ハ企業家ノ不利益ヲ曝スモノニハ非スコト事ハ理論上ヨリ証
 明シ得ルノミナラス諸國ニ於ケル經驗ニヨリテモ之ヲ証明シ得ルナリ、且
 ツ労働者ハ社会ノ多数ヲ占ムルモノナレハ、労働者ノ賃金多ク從ツテ購買
 力大ナル時ハ経済社会ニ於ケル購買力ヲ大ナラシメテ賃金ノ需要ヲ大ナラ
 シムル理ナリ、從ツテ企業家ニトリテモ利益大ナラサルヲ得ス、之レニ又
 シテ労働者ノ賃金低キ時ハ賃金ノ需要少クシテ企業家ハ却ツテ利益ヲ破ラ
 サル可カラズ故ニ労働者ノ賃金ヲ高クシ労働賃金ヲヨクスル事ハ少クトモ
 或程度迄ハ企業家ノ利益ニ及スルモノニ非サルナリ、此ノ事ニシテ誤ナシ
 トセハ労働者ト企業家トハ利害相及スルモノトシテ互ニ反目スルコトハ半
 ハ其ノ理由ヲ失ハサル可カラサル理ナリ。

Schuly Regensitz "Zum sozialen Frieden"

賃金ハ労働種類等ニヨリテ異ルモノナレトモ社会上ヨリズハバ賃金ノ一

税率ノ高低カ最モ重要ナル問題ナリト云フコトヲ得、カノ「リカルド」ハ賃銀
 ト生活費ノ關係ヲ論シテ賃財ノ價格カ生産費ニヨリテ決定スルカ如ク労働
 ノ價格ナル賃金ハ労働ノ生産費ナル生活費ニヨリテ定マリ之レヨリ低クナ
 ラサルト共ニ之レヨリ高クナルコトヲ得サルモノナリ、何ントナレハ若シ
 賃銀ニシテ高クシテ労働者ニ餘裕ヲ生スル時ハ労働者ハ結營ス可シ、ソノ
 結果ハ出產ノ數ヲ増加シ、労働者ノ數ヲ増加ス、ヘキテ故ニ賃金ハ再ヒ低落
 セサルヲ得ス、之ニ又シテ賃金カ生活費ヨリ低キ時ハ労働者ハ生活スルコ
 ト能ハサルヲ以テ賃銀ハカクノ如キ状態トナルコト能ハスト云ヘリ、リカ
 ルドレノ説ニシテ誤ナシトセハ労働者ノ位置ハ誠ニ憐ムヘキモノニシテ勞
 働者ハ到底餘裕アル生活ヲ営ムコト能ハサル理ナリ、社会主義者 *Shaw*
also ハ之レヲ賃金差別ト名ツケテカクノ如キ法則ノ行ハル、ハ畢竟現代
 社会組織カ誤レルタメナレハナリ、之レヲ顛覆セサル可カラズト主張シタ
 リ、

「リカルド」ノ論ハ甚テ簡單ナレトモ大イニ誤レルモノナリ此ノ論ハ(一)ハ勞
 働者ノ需要ハ変化セサルモノナリト云フ前段ノ下ニ立テルモノナリ、「リカ

ルド」ノ云フガ如ク賃銀カ生活費以上ニ上リタル結果出產ノ數ヲ増加シテ勞
 働ノ供給ヲ増加シタリトスルモ其ノ間ニハ經濟界ノ情勢変化シテ労働ノ需
 要増加セハ賃銀ハ必スシモ低下セサル誤ナリ、「リカルド」ノ云フカ如ク出產
 數ノ増加ニヨリテ労働ノ供給ニ変化ヲ生スルカ如キ八十數年ノ後ニ起ル可
 キコトニシテソノ間ニ労働需要ニ変化ヲ生セスト云フカ如キハ到底根據ス
 ルコト能ハス、(三)ニハ加之仮リニ労働者ノ賃銀ハ生活費ニヨリテ定マリテ
 餘裕ヲ生セサルトスルモ生活費用ハ一定不變ノモノニアラス、生活費ニシ
 テ増加シ生活ノ程度向上セハ仮令餘裕ナシトスルモ決シテ屢フヘキニ非ス、

「リカルド」ノ説ニ類セルモノニ賃金基金説 (*Wagefund Theorie*)ト
 称スルモノアリ、經濟社会ニハ賃銀ニヨツテ支給ハルヘキ基金アリ、ソノ
 基金ニシテ増減セサル限リハ労働者ノ段アヘキ賃金ハ労働者ノ數ニ逆比例
 ス、労働者ノ數少ナケレハ賃金高ク其ノ數多ケレハ賃金低カラサルヲ得ス、
 而シテ賃金基金ハソノ間ノ労働資本ニ相当スルモノナリ、何トナレハ労働
 資本ハ終リニハ賃金ニ帰スルモノナリ、例ハ工業家ノ支給フ流動資本ハ
 原料ト賃金トヨリ成ル、斯クノ如ク生産手続ヲ研究スル時ハ流動資本ハ直

接ニハ種々ノ目的ニ用ヒラル、モノナレトモ結局ハ債銀トシテ労働者ノ間ニ分配セラル、モノナリ、債銀基金ナルモノアリテ労働者間ニ分配セラル、モノナリトセハ基金即流動資本ヲ増カスルカ又ハ労働者ノ数ヲ減少セサル限り、労働者ノ受クヘキ債銀ハ増カスルコト能ハサル理ナリ、一國ノ流動資本ノ増カスルハ企業盛ントナリ資本増カセサレハ壁△能ハサルナリ、故ニ労働者カ労働組合等ヲ設ケテ債銀ノ増カヲ直レルトモ目的ヲ達スルコト得ルモノニアラス。

一六六

柳々賃金基金ノ文字ハ *Adam Smith* ニヨリテ初メテ用ヒラレタルモノナレト「アダムスミス」ハ賃金ハソノ國ノ資本カ増カスルニ伴ヒテ増カスヤキモノナルコトヲ説明スルカタメニ基金ノ文字ヲ用ヒタルニスキヤレトモ経済社会ハ一定時ニハ服トシテ動カス可カラサル基金存在スルモノナリト説キシハ *James Mill* ナリ *J. S. Mill* ハ其ノ説ヲ敷衍シテ之ヲ大成セリ、此ノ説ハ資本家本位ノ學説トシテハ有力ナルモノニシテ一時ハ相當ノ勢力アツテ論ナリ、蓋シコノ説ノ起リシハ生産手段カ尙未ダ完了セザリシニ先立テテ資本家ノ手ヨリ支払ハル、モノニシテ資本家ヨ

リ云ハハ恰モ機械ヲ据エツケ原料ヲ仕入ル、ト云ク労働者ニ支払フヘキ額ヲ用意シ置カサル可カラス、從ツテ経済社会ヨリ云ハハ恰モ賃金トシテ支払ハル可キモノカ一定シテ基金ヲナスカ如ク思ハル、ノミナラス労働者ノ數ニシテ甚タ多クシテ急ニ職業ヲ求メントスル時ハ賃金ハ勢騰貴セサル可カラス、之レニ及シテ労働者ノ數少ナキ時ハ賃金ハ勢騰貴セサル可カラサルナリ、故ニ賃金トシテ支払ハル可キ額ハ一定シテ動カサルカ如クニ思ハル、且資本増カノ速力大ニシテ労働ノ需要大ナレハ賃金モ亦騰貴スルモノナルカ故ニ資本ノ増カハ賃金トシテ支払ヘル可キ基金ノ増カヲ招キ賃金ヲ増カセシムルカ如クニ見ユルナリ故ニ之等ノ現象ヲ綜合シテ賃金基本トシテ経済社会ニハ一定ノ資本カ存在スル如クニ説キタルモノナリ、此ノ説ニシテ正シキモノトセハ労働者ノ位置ヲ向上セシメトスル運動ハ機勞ニ屬セサル可カラサルヲ以テ労働者ノ利益ニ要キヲ置ク等者ハ之レニ對シテ熱心ニ反對セリ、其ノ結果コノ説ヲ大成セル *J. S. Mill* モ遂ニハ其ノ説ヲ放棄スルニ至レリ、ソノ説ノ誤レル處ヲ掌アレハ次ノ如シ

(一) ハ基金ト云ハハ少フトモ或ル期間ハ一定不勤ノモノナラサル可カラス

一六七

然ルニ此ノ説ニ所謂基金ハ決シテ一定不動ノモノニアラシテ常ニ変動スルモノナルコトヲ認メタルモノナリ、此ノ事ハ基金ノ觀念ト相合シサルノミナラス其ノ基金トズテ意味ハ或ル一定時ニハ其ノ国ノ資本中ニハ賃金トシテ支払ハル可キモノカ自ラ定マレリト言フニ止リテ其ノ内容ハ極メテ漠然タルモノナリ、從ツテ労働者ノ努力ニヨリテ其ノ国ノ資本中ヨリ從前ヨリモ割合ヒニ多クノ部分ヲ賃金トシテ支払ハシムルコトモ得ル可ナリ、若シコノ説ヲシテ稍意味アルモノタラシムルニハ少クトモ一定ノ期間ト動カシ難キ基金アルコトヲ主張セサル可カラサルモノナレトモ此ハ到底望ミ難キコトナリ。

(二) ニハ此ノ説ニ從フ時ハ賃金ハ其ノ国ノ労働者ノ數ニ逆比例スト云モ所謂労働者ノ全部ハ労働ニ從事セルモノニハ非ス何トナレハ経済社会ニハ景氣不景氣アリテ不景氣ノ時ハ失業者ヲ出スコト多シ故ニ賃金ニ支払フ可キ基金一定セルモノノ分配ニ共カル者ハ現労働セルモノナラサル可カス換言スレハ賃金ノ高低ニ関係アルモノハ現労働セルモノニシテ労働者ソノモノニハ非ラス、而シテ現ニ労働セル者ハ経済社会ノ情勢ニヨリテ

(三) 大イニ増減スルモノナリ、

ニハ資本ニヨリテ養フコトヲ得ル労働者ノ數ハ其ノ金額ノ多少ノミニ千條スルモノニアラスシテ同一資本額ニテモソノ取引状況ニ行ハレ資本ノ回収迅速ナルトキハ恰モ資本金額ノ多キ場合ト同シタケノ労働者ヲ養ヒ得ル道理ナリ、故ニ資本金額ソノモノト賃金トヲ結合シテ正比例ヲナセルモノナリト言フコトハ正張シ難キナリ、

以上ハ賃金ハ資本家ニヨリテ定マリテ労働者ノ努力ニヨリテ如何トモスルコト能ハサル事ヲ意味スル等説ニシテ價格決定ニ関スル生産費説ニ当ルモノナルカ之ト反對ニ賃金ハ労働者ニヨリテ定マルモノナリトノ説アリ、アダムズミスレノ云フカ如ク労働ハ價值ノ淵源ナリトセハ労働ヲ營ム者ハ生産ニ取リテ少クトモ最優越ナル位置ヲ占メテ地代並ヒニ利子ヲ地主並ヒニ資本家ニ支払ヒタル後ハ労働ノ報酬トシテ其ノ利益ナリト云フコトヲ得トノ論ナリ、*Wicksell* 等ノ主張スル所ナリ。

此ノ説ヲ是認セントスルニハ地主資本家企業家ハ一定ノ報酬ヲ得ルニ止リテ其ノ他ハ悉ク労働者ノ手ニ歸スヘキモノナリトノ前提ヲ認メサル

可カラス、古ハ企業家ト労働者トノ間ニ区別ナカリシ時代、又今日ニ於テモ小生産者ニ於テ見ルカ如クニ他人ノ生産要素ヲ利用シ且自ラ労働スル者ニ在リテ或ハ巧ニ他ノ生産要素ヲ利用シ若クハ自己ノ労働能率ヲ高クスルコトニヨリテ生産額ヲ増加シ又ハ生産シタル者ノ品質ヲ良クスルコトニヨリテ其ノ所得ヲ増加スルコトヲ得ルモノナレトモ今日ノ経済社会ニ於ケル労働者ノ位置ハ之ト異リテ企業家ノ命令ニ従ヒテ労働セルモノナレハ次シテ論者ノ云フカ如キ優越ナル位置ヲ占ムルモノニハ非ス、勿論企業家モ労働者モ能率ヲ増加セムルコトヲ希望スルモノナレハ其ノ能率ノ増加ニヨリテ賃金若クハ労働者ノ所得ヲ増加スルコトヲ得レトモ労働者ヲシテ労働能率ノ増進ヨリ生スル利益ヲ^得ケテ其ノ手ニ取メシム可キモノニハ非ス、故ニコノ論ハ労働者ヲシテ労働能率ヲ増進ニ應ジテ其ノ所得ヲ増加セシメサル可カラスト云フモノナラハ兎ニ角現存ノ経済社会組織ニ於テ賃金ハ斯クノ如キ法則ニヨリテ支配セラル、モノナリト云ハハ此ハ誤謬ナリト云ハサル可カラス、蓋シニコノ種ノ論ハ價格決定ニ関スル効用説ニ当ルヘキモノナリト云フコトヲ得。

一賃金基金説ハ前述セシ如ク一時ハ相当ニ得カフ有シタルモノナリシモ一度破壊セラル、又賃金ノ決定ニハ一定ノ法則ノ存スルモノニ非スシテ企業家ト労働者トノ力ノ強弱ニヨリテ決スルモノナリ、企業家ニシテ力強ケレハ自ラ労働者ヲ抑ヘテ低廉ナル賃金ニ對シテ労働セシメ得ルニ反シテ労働者ノ力強キ時ハ企業家ニ迫リテ賃金ヲ高クシ、労働条件ヲ良クスルコトヲ得ルモノトナシ労働者ノ利益ヨリ云ハベ、鞏固ナル労働組合ヲ設ケテソノ力ヲ強大ナラシメサル可カラズト説ク者少ナカラス、理論上ヨリ言ハハ賃金ノ最低限度ハ労働者並ヒニ其ノ家族ノ生活費ヲササル可カラズ、其ノ生活費トハ極メテ低キ程度ノ生活ノコトニシテ賃金カ之レヨリ低キ時ハ労働者ハ其國ノ生活ノ程度ニ準シテ生活スルコト能ハサル理ナリ、從フテ板令経済社会カ不景氣ニ陥ルトモ賃金ハ之レヨリ下ラサルコト能ハサル理ナリ、上述「リカルド」等ノ説ハ主トシテ其ノ最低限ニ干スルモノナリト云フ事ヲ得、而シテソノ最モ高限度ハ利潤ナリ企業家カ労働者ヲシテ労働セシムルハ利潤ヲ得ンカタメニスル以上ハ賃金甚ク増加シテ利潤ヲ得ルコト能ハサルニ至ラハ労働者ヲシテ労働セシムル事ナカ

ル可シ。又利潤多キ時ハ更ニ労働者ノ数ヲ増加シテ利潤ヲ増加セシ
トス可シ、故ニ賃金ノ最高限度ハ利潤ソノモノニアリト云フ事ヲ得、賃
金基金説カ流動資本ヲ増加シ基金ヲ増加スルニ非サレハ賃金ヲ増加スル
事能ハサルモノナリト唱ヘシハコノ現象ニ着目セルモノナリト云フ事ヲ
得、賃金ハ以上ニ限界ノ間ニ在リテ労働ノ需要ト供給トノ一致点ニ於テ
定マルコトハ價格ノ場合ニ於ケルト毫モ異ナラス、企業家カ労働ヲ需要
スル事多ク労働ノ供給ニ短ユル時ハ賃金ハ高クナル可ク労働ノ供給多ク
シア労働者間ニ競争激烈ナル時ハ賃金ハ自ラ低カラナルヲ得サルナリ。
労働者カ労働組合ヲ作り其ノ競争ヲ吐絶シテ企業家ト對等ノ位置ニ立ケ
テ労働契約ヲ結ブトキハ企業家ノカヲ抑ヘテ賃金ヲシテ合理的ナラシムル
所ナリト云フナリ、労働組合ハ労働者ヲシテ企業家ト對等ノ位置ヲ得
セシムルニ当リテ最も有力ナル手段ナルコト明ナレトモ古来之レニ對シ
テ否認ヲナセル者少カラス、古ニアリテハ營業自由ノ制度ハ傭者モ被傭
者モ對等ノ位置ニアリトナスニアラス、多數ノ労働者カ組合ヲ作りテ企
業家ニ當リテ以テ賃金ヲ増加セシメントスルカ如キハ營業ノ自由ヲ破ル

モノナリトシテ之ヲ際シ居タリ然シコノ見解ハ企業家ト労働者トカ對等
ノモノニシテ其ノ間ニ締結シタル労働契約カ神聖ナルモノナリトナスモ
ノニシテ根本ニ於テ誤レルモノトナレハ今日ニ於テハ成立スルコト能ハ
ス。又労働組合ハ企業家脅カスニ同盟罷業ヲ以テスルカ故ニ是レヲ認め
可キモノニ非スト云フモノアリ、此ノ論モ労働組合ヲ同盟罷業ノ機關
ナリトナスモノニシテ労働組合ノ性質ヲ誤解セルモノナリト云ハサル可
カス、労働組合ハ決シテ同盟罷業ノ機關ニアラス、労働組合ノ勢力アル
モノハ容易ニ同盟業ヲナサシメズ、其ノ主トシテカヲ致セル所ハ労働
者ノ教育並ヒニ扶助ナリ、然レトモ企業家ニ對シテ組合的請求ヲナスニ
拘ラス企業家カ之ニ応セサル時ハ最後ノ手段トシテ取ル可キモノハ同盟
罷業アルノミナレハ若シ之ヲ許サハルニ於テハ労働者ハ到底企業家ト對
等ノ位置ニ立ケテ労働契約ヲ締結スルコト能ハサル可シ故ニ労働組合ヲ
以テ初メヨリ同盟罷業ノ機關ナリトシテ之ヲ論スルハ性質ヲ解セサルモ
ノナリト云ハサル可カラズ。

賃金ハ労働ノ需要供給ニヨリテ決定スルモノナリトセハ労働ノ需要ハ

畢竟經濟社会ノ景氣不景氣ニヨリテ増減スルコト明ナレトモ此處ニ問題トナル可キハ(一)ニハ經濟社会カ好況ナルコトハ生産ノ増加ヲ意味スルモノナレハ賃金カ經濟社会ノ景氣ニヨリテ高低スト云フコトハ生産ノ増減ニヨリテ高低スルコトヲ意味ス可シ、然ルニ生産ハ資本ニヨリテ制限セラル、モノナリトセハ賃金ハ資本ニヨリテ制限ヲ受ク可キモノナリヤ否ヤ、(二)ニハ其ノ国ノ經濟社会ニシテ機械等ノ發明盛ニ起リテ労働ニ代ハルニ至ラハ其国ノ労働者ハ困難ヲ見ルニ至ル可ク其ノ結果賃金ハ低減スルニ至ルヤ否ヤノ問題ナリ

一ノ問題ニ付キテハ上ニ述ヘタル賃金ハ企業家労働者ノ力ノ強弱ニヨリテ決定ルモノナリト論スル者ハ賃金ハ資本ニヨリテ制限ヲ受クルモノニアラサルコトヲ予断スル譯ナリ、何ントナレハ若シ資本カ生産ヲ制限シ生産カ労働ノ需要ヲ制限スルモノナリトセハ假令労働者ノ勢力大イニ進ムモノナリトスルモ賃金ヲ大イニ増加スルコト能ハサルハ明ナレハナリ、

然ルニ現代ノ經濟社会ニ於テハ生産ハ資本ニヨリテ制限ヲ受ク、何ト

ナレハ企業家カ其ノ企業ノ規模ヲ定ムルニ當リテハ資本ヲ標準ニ置クコト常ナリ、又原料多ク機械完備セサレハ到底多量ノ生産ヲ爲スコト能ハサレハナリ、一ツノ企業ニ於テ生産力資本ニヨリテ制限セラル、モノナリトセハ一國ノ生産モ亦其ノ國ノ資本ニヨリテ制限セラレサルヲ得サル理ナリ、故ニ資本ノ増加、生産ノ發達ハ労働者ノ賃金ヲ増加スル上ニ於テ必要ナル條件ナリ、

(二)ノ問題ニ付キテハ莫吉利ニ於テ産業革命等ニ於テハ機械ノ發明並ニ機械力ノ応用ハ労働ノ需要ヲ減シ從テ賃金ヲ低減セシムルモノナリトシテ盛ニ之ニ反対シタルトモ其ノ後ニ於ケル賃金ノ趨勢ヲ見ルニ一方ニハ益々機械ノ發明、機械力ノ応力盛ナルニ拘ラス一方ニハ賃金ハ低減セスシテ漸次増加セリ、其ノ理由ハ機械ノ發明等ニヨリテ生産費ヲ減少シ其ノ結果ハ生産品ノ取路ヲ擴張セルモノナレハ經濟社会ハ活氣ヲ呈シ新シキ生産ハ起リ労働ノ需要ヲ増加シタルカ故ナリ、即チ是等ノ事例ヨリ推スニ機械ノ發明等ハ直接ニ其ノ機械ニヨリテ代用セラル可キ労働者ニハ不利益ナル結果ヲ生スルモノナレトモ之レニヨリ

ア経営社会ハ生産等ニ於テ大ナル利益ヲ得ル訳ナレハ機械ノ發明等ニヨリテ職業ヲ失ヒタル労働者モ他ノ職業ヲ得可キノミナラス労働社会全部ヨリ見レハ却テ利益ヲ得ルカ如シ、但シ機械ニヨリテ職業ヲ失ヒタル労働者ハ再ヒ職業ヲ得ルニ至リタリトスルモ其ノ熟練技巧等ハ多クノ場合ニ於テハ何等ノ利益ヲ与ヘサルカ故ニ其ノ労働者ニ取リテハ不利益ヲ来スコト明白ナリ。

労働ノ供給力賃金ノ高低ニ大ナル関係アルコトハ疑ナキモ諸国ノ労働供給ノ状態ヲ見ルニ特殊ノ工業ニ特殊ノ熟練技巧ヲ有スル労働者アリテ其ノ生産ノ中心ヲ成セルモノニシテ企業家ヨリズハハ労働者ノ中ニ於テ特ニ重キヲ置カサル可カラサルモノナリ、従ツテ假令労働者ノ数多クトモ特殊ノ技巧熟練ヲ有スル者ノ數少キ時ハ其ノ工業ヨリズハハ労働ノ供給少キモノナリト云ハサルヲ得ス、故ニ其ノ工業ニシテ大イニ振興スル勢アル時ハ労働ノ供給小ナレハ其ノ工業ニ関スル賃金ハ大イニ騰貴セサルヲ得ス、勿論多クノ工業ニ於テハ特殊ノ熟練技巧ト称ス可キモノモ絶對的ノモノニ非サルカ故ニ若シ経営界カ好況ヲ呈シ其ノ工業興リ来ル時ハ特殊ノ熟練技巧ヲ

有セサル者迄モ比較的多少ノ賃金ヲ出シテ生産ニ従事セシムルナリ、之レニ反シテ一度經濟界カ不況ニ陥ル時ハ特殊ノ熟練技巧有ル者ハ之ヲ解僱セス、其他ノ者ヲ解僱シテ生産ヲ縮小セントスルモノナリ、故ニ賃金ノ下落スルハ特殊ノ熟練技巧ナキ者ニ速ニシテ而モ其ノ程度大ナリト云ハサルヲ得ス、社会主義者カ労働者カ企業家ト對抗スル上ニ於テ甚ク不利益ナル位置ニ在ルハ畢竟所謂豫備軍ヲカ得ナリト説クハ蓋シ此ノ現象ヲ指シタルモノナリ、従ツテ労働ノ供給ト称スルモ多クノ場合ニ於テハ労働者ノ全部ヲ指スモノニ非スシテ特殊ノ熟練技巧ヲ有スル者ノ數ヲ指セルモノト知ラサル可カラス、企業家カ利益分配ノ制度ヲ改メテ一面ニハ労働者アシテ其ノ企業ニ大ナル利益ヲ感セシメ熱心ニ労働セシムルト同時ニ一面ニハ企業家ト労働者トノ間ニ爭議ヲ生セシメサラントスルモ決シテ普通ノ労働者ヲ其ノ對象トセルモノニハ非スシテ特殊ノ熟練等アル者ヲ對象トセルモノナリ、又労働者カ労働組合等ヲ設ケテ自己ノ利益ヲ擁護セントスルモ亦此ノ種ノ者ナリト云フコトヲ得、

企業家カ労働者ニ賃金ヲ支払フニ當リテ種々ナル方法アルモ何レノ方法

ニヨルカ労働者ニ取リア利益ナルト同時ニ企業家ニ取リテモ利益ナル可キ
 カハ暗闘ノ学者実際家ノ熱心ニ研究セル所ナリ。之レヲ賃金制度ト云フ。
 賃金支払ノ標準トシテ最簡單ナルハ時間払制度ト出来高払ノ制度ナリ。前
 者ハ労働ノ時日等ヲ標準トシテ契約ニ基キテ一定ノ賃金ヲ支払フモノニシ
 テ極メテ簡單ナレトモ労働者ノ勤惰能率等ヲ参酌シテ賃金ヲ増減スルコト
 難キカ故ニ労働者ハ動モスレハ成ル可ク労働セシメントスル弊害アリ。且此ノ
 スルト同時ニ企業家ハ成ル可ク多ク労働セシメントスル弊害アリ。且此ノ
 賃金支払ノ方法ハ工場工業ノ如クニ労働者ニ対シテ十分ニ監督スルコトヲ
 得ル場合ニハ之ヲ実行スルコトヲ得レトモ其ノ他ノ場合ニ於テハ実行スル
 コト難シ。而シテ工場等ニ於テ有効ニ時間払制度ヲ実行スルニハ労働者ノ
 能力等ニ基キテ豫メ數階級ニ分テテ以テ賃金ヲ異ニスルヲ云フ。而シテ監督
 者ハ労働者ノ勤惰、能率等ヲ見テ漸次其ノ階級ヲ昇スナリ。此ノ方法ハ監
 督宜シキヲ得ハ相當ニ成績ヲ著グルコトヲ得ル標準ナレトモ然ラサルトキハ
 却テ成績ヲ著グルコト難シ。之ニ及シテ出来高払ノ方法ハ労働者ノ生産シ
 タル物ニ依キテ一定ノ賃金ヲ支払フ方法ニシテ之ニ又甚タ簡單ニマテ恰モ企

業家ト労働者トノ間ニ利潤ヲ分配スルニ等シキモノナレハ其ノ分配ノ割合
 ニヨリ議論アレトモ労働者カ生産スルコト多キトキハ賃金即チ所得増加ス
 ルモノナレハ労働者ニ對シテ監督ヲ爲サストモ進ンテ成ル可ク多クノ生産
 ヲ爲サントスルナリ。然レトモ此ノ支払方法ハ労働者ヨリ云ハハ成可ク多
 クノ賃金ヲ得ント欲シテ過度ノ労働ヲ爲ス弊害アルト同時ニ企業家ヨリ云
 ハハ其ノ生産シタル物ノ品價ヲ粗思ニ流レシメ易キ弊害アリ。故ニ出来高
 労働能率ノ増進ヲ研究スル者ハ時間払制度ト出来高払制度トヲ結合シ
 テ一面ニハ労働能率ヲ高メ一面ニハ賃金ヲ高クセシメントセリ。時間払制
 度ト出来高払制度トヲ結合スルモノ、中最著名ナルモノハ Taylor^ノ 制
 度トス。其ノ方法ニ依レハ労働者ニ對スル時間払ノ賃金ヲ定メ置クト同時
 ニ一定時間内ニ生産スル額ヲ定メ置キテ之ニ對シテ支払フ可キ出来高払
 ノ賃金ヲ定メ何レノ方法ニヨリテ支払フ受クルモ隨意トス。而シテ出来高
 払ニ於テ爲ス一定ノ時間内ニ於ケル生産高ハ相當熟練セル者カ熱心ニ生産
 ニ從フニ非サレハ生産スルコト能ハサル程度ノモノトシ其ノ出来高払ノ賃
 金ハ時間払ノ賃金ヨリ遙カニ高クス。從ツテ一時間ニ生産スルコト多ケレ

ハ其ノ受クル賃金ハ益増加シ得ル理ナリ、此ノ賃金支払ノ方法ハ労働者勤
勉ナラサリセハ比較的底キ賃金ニ忍ハサル可ラサルト同時ニ労働者力勤勉
ト熱誠トニヨリテ其ノ生産ヲ増加スルコトヲ得ハ相当ニ其ノ賃金ヲ得ル
コトヲ得セシムルナリ。

第二節 利子

利子ハ資本ヲ有スルモノカ他人ヲシテ資本ヲ利用セシムルニ對シテ受ケ
ル報酬ナリ利子ノ觀念ヲ明カニスルカ爲ニハ資本ノ觀念ヲ明カニセサル可
カラス、然レトモ資本ノ觀念ヲ極メテ不明ニシテ之ヲ正確ニ定義スルコト
困難ナリ、今資本並ニ利子ノ觀念ノ交還ヲ略述セハ資本ナル語ハ私經濟ノ
觀念ニシテ諸國ニ於テ古貨幣ヲ他人ニ貸与スル時ニハ之レニ對シ相當ノ報
酬ヲ受ケル風習行ハレタルモノナレハ其ノ報酬ヲ利子ト稱シ其ノ元金ヲ資
本ト稱シタリ、何故ニ資本ヲ他人ニ貸与シテ之ヲ利用セシムル時ハ之ニ對
シテ報酬ヲ受ケタルカハ不明ナルモ兎ニ角賃金ニ報酬即利子ヲ受ケ居タリ、
然ルニ當時貨幣ノ貸借ハ今日ト異リテ多クハ生産的貸借ニ非スシテ債務者
カ家計等一時ノ困難ヲ免カルルカためニ爲シタルモノナレハ債務者カ從前

ヨリ大イニ労働シテ所得ヲ増加スルカ又ハ消費ヲ節シテ剩餘ヲ依ルニ非テ
サル限りハ其ノ債務ヲ弁償スルコト能ハサリシモノナレハ返済ノ期限ニ至
ルモ其ノ義務ヲ果スコト能ハサル者少カラザリキ、從ツテ債權者ハ冷酷ニ
ソノ返済ヲ追ルトト稱ナラサリキ、故ニ當時ノ法律家ハ債務者ノ利益ヲ保
護スル態度ヲトリテ貨幣ヲ貸与スルモ之ニ對シテ利子ヲ請求スルコト能ハ
サルモノトナシタリ、此ハ畢竟當時ノ貨幣ハ交換ノ媒介ヲナスニ止リテ事
實之ヲ利用スル者ハ特ニ利益ヲ得ルコト能ハサリシ故ナリ。

然ルニ諸國ノ經濟發達スルニ從ヒテ生産者モ漸ク起リ来リタレハ貨幣ヲ利
用スルコトハ利益ヲ生スルに至レリ、然ツテ賃金ニ對シテ報酬即利子ヲ收ムル
コトハ憚忍ナル行爲ト稱スルコト能ハサルニ至リタレハ諸國ノ法律モ漸ク
ソノ弊ヲ解クニ至リザルモノナリ、而モ尚今日諸國ノ法律ニ於テ利子ノ最
高限ヲ規定シ之ヲ越ユルコトナカラシメモノハ實ニソノ觀念ノ當時ノ遺
物ト稱スルコトヲ得。

之レヲ要スルニ資本ノ觀念ハ初メハ利子ニ對スルモノニシテ利子ヲ生スル
賃金ナル意義ナリキ然ルニ吾人カ貨幣ヲ他人ヨリ借リ入レルトモ之ヲ以テ

直ケニ生産スハ營利ニ用エルコト能ハス、工具工場商店等ニ代ヘテ初メテ相当ノ収益ヲ生スルモノナリ、ココニ於テ資本ノ意義カ擴張セラレテ収益ヲ生スル頃財又ハ財産ナル意義トナレリ、ケノコアダム、スミスノ云ヘル如ク吾々ノ財産ハ之レヲニ分スルコトヲ得一ツハ吾々カ收入ヲ生スルコトヲ得ト予期スルモノニシテ一ツハ吾々ノ與接ノ消費ニ充ツルモノナリ、前者ヲ資本トスフトスヘリ、以テ當時ノ經濟學者ハ資本ニ對シテ有シタル見解ヲ窺ヒ知ルヲ得可シ、而シテ當時ノ見解ニ於テハ貨幣ト資本ハ全然混同ス可カラサルモノニシテ貨幣ソレ自身ハ利子ヲ生スルモノニハ非ス、利子ヲ生スルモノハ資本トモハ非ス、貨幣トモ自身ハ利子ヲ生スルモノニハ非ス、利子ト生スルモノハ資本ソノモノナリトスフコトナリ、又當時ノ見解ニヨレハ若シ他人ヲシテ資本ヲ利用セシメタル時ハ之レニ對シテ利子ヲ生スレトモ自ラ利用スル時ニハ利潤ヲ生スルモノナリト考ヘタリ、即チ利子ト利潤トノ區別ハ他人ヲシテ資本ヲ利用セシムルカ否カニ存セシモノナリキ、當時ハ資本家ト企業家トノ區別明カナラサリシト同時ニ利子ト利潤トノ區別モ明カナラサリシモノナリトスフコトヲ得。

「アダム、スミス」及ヒソノ説ヲ奉スル者ハ土地ハ資本中ニ包含セザリシガ故逸ノ經濟學者ハ苟モ収益ヲ生ス可キモノカ資本ナリトナス以上ハ土地ノミヲ資本中ニ包含セサル理由ナシト論スル者多クシテ終リニ土地ソノモノニハ資本中ニ在ラズ至レリ、然レトモ資本ノ觀念益々不明トナリテ資本家ト地主トノ區別モ明白ナラサルト同時ニ地代ト利子トノ觀念モ亦混同スルニ至リタルモノナリト云ハサルヲ得ス、故逸語ニテ利子ヲ *Kapitalrent* 地代ヲ *Grundrent* ト稱スルハ畢竟比ノ觀念ニ基クモノナリト云フコトヲ得。

資本ハ収益ヲ生スル貨幣又ハ財産ナリトナス殊ハ現ニ若干ノ収益ヲ生スルモノニ非サレハ資本ト称スルコト能ハサル理ナリ、然レトモ今日ニ於テハ収益ヲ生セサルモノモ又ハ其ノ性質上營利ノ目的ヲ有セサルモノモ之レニ對シテ用ヒラル、貨幣又ハ其ノ代用品モ之レヲ資本ト称スルヲ常トス、例ハハ未ダ収益ヲ生セサル鐵道ニ於テタル株式又ハ政府事業ニ於テラレタル貨幣ノ如キハ之レヲ資本ト称スルカ如キモノナリ、

カクノ如クニ資本ニ對スル觀念モ決シテ明確ナルモノニハ非サレトモ此等

ノ觀念ヲ研究スルニ資本ナル觀念ハ英吉利ノ經濟學者等カ誤解シタルカ如クニ生産又、營利ノ手段トシテ用キラレタル貸財ソノモノヲ意味スルモノニ非スシテ是等ノ貸財ノ形態ヲ以テ表ハサレタル貸財價値ヲ意味スルモノト云ハサルヲ得ス、貸財價値カ生産又ハ營利ノ手段ニ用キラレテ之ニ相当スル形態ヲ取リタル時ハ恰モ英吉利學者ノ説フカ如キ資本ノ觀念トナリ貸財價値カ土地ニ投ヒラレテ生産又ハ營利ノ用ヲ年スル時ハ該逸學者ノ説フカ如キ資本ノ觀念ヲナスモノト云ハサル可カラズ、或ハ尚ホ生産營利ノ用ヲ得ザル迄モ之ヲナスカアラト認メラル、時ニ最後ニ萃ケタルカ如キ資本ノ觀念ヲナスモノナリト云ハサル可カラズ、ソノ表ハルノ形態ニ於テハ差違フソアレド資本トシテ經濟社會ニ偉大ナル力ヲ出スモノハ其ノ中ニ包含セラレタル貸財價値ソノモノト云ハサルヲ得ス、然シ貸財價値ハ其ノ數量價少ナル時ハ力微弱ナルモノナレトモソノ數量增加スルニ從ヒテ其ノ力ハ益々強クナリテ經濟社會ニ於テハ之ト對抗ス可キ物ナキニ至ルナリ、例ハハ吾人ノ手ニ在ル貨幣ノ價値ソノモノハ數量僅カナレハ其ノ力微弱ナルモ株式會社組織ニ於テ見ルカ如クニ機力ナル株金集リテ株式會社ノ資本トナ



ル時ハ偉大ナル力ヲ示スカ如ク又株式會社ノ取締役ハ其ノ性儀ヨリ云ハハ房業ノ労働者ナレトモ社會上ニ大ナル勢力アル所以ノモノハ畢竟大ナル資本即チ資本ヲ得レタル貸財價値ヲ利用スルコトヲ得ル位置ニ在ルカ故ナリ、此等ノ事實ヨリ推シ行ケハ資本ハ生産又ハ營利ノ手段トシテ用キラレズハ用キラル可キ貸財ノ價値ナリト定義スルモ甚シキ誤謬ナカル可シ、資本ノ觀念ニシテ斯ノ如キモノナリトセハ若シ他人ノ所有スル資本ヲ利用シタル場合ニハ其ノ偉大ナル力ヲ以テ生産又ハ營利ヲナスコトヲ得ルモノニシテ極メテ利益ナレハ之レニ對シテ相当ノ報酬ヲ公スハ當然ノコトナリト云ハサルヲ得ス、其ノ報酬カ此ニ所謂利子ナリ、此ノ利子ノ説明ハ利子ニ關スル生産カ説トシテ知ラル、所ナリ、此ノ説ヲ採ル者ハ説明シテ曰ク「同職ノ労働者ヲ用キテ生産ヲナシムルモ之ニ機械工具ヲ用セシムルトトトニヨリテソノ労働ノ結果即ち生産額ニ著シキ差違ヲ生スルコトハ吾人ノ心ニ目撃スル所ナリ、而シテ是等ノ機械工具ヲ用セシムルコトヲ得ルハ之ニ應ナルタケノ貨幣價値ヲ利用シタル結果ナリ、即チ資本ハ其レ自身ニ於テ生産力ヲ有セルカ故ニ上述ノ如キ結果ヲ生シタルナリ、從ツテ他人ヲ

シテ資本ヲ利用セシムルハ其ノ生産力ヲ利用セシムルニ外ナラサレハ之ニ
 對シテ利子ヲ出ササル可カラサルナリ、利子ヲ取ルコトヲ得ルナリト、子
 ハ大体ニ於テ此ノ生産力説ニ從ハントス。
 此ノ説ヲ非難スルモノ資本ハ生産力アルカ故ニ利子ヲ生スルモノナリトセ
 ハ同一額ノ資本ハ同一額ノ生産額ヲ生セサル可カラサルト同時ニ利子ハ資
 本ノ生産力ニ對シテ支払ハルルモノナリトセハ利子ハ資本ヲ利用シタル時
 ト之ヲ利用セサル時ノ生産額ノ差異ニ相当セサル可カラサル理ナリ、然ル
 ニ事實ハ同一額ノ資本ヲ利用スルモ同一額ノ生産額ヲ得ルコト能ハス、且
 利子ハ原則トシテ一定時ニハ一定市場ニ於テ一定セルカ故ニ上述ノ理論ニ
 合スルコト能ハス、從ツテ此ノ生産力説ヲ維持スルコト能ハサルナリト云
 フ。

此ノ非難ハ一理アレトモ上ニモ述フルカ如ク資本ハ貨幣價值ニシテ生産又
 ハ營利ノ手段トナルモノナル以上ハ其ノモノニ生産又ハ營利ヲ助クル或一
 差ノカアリト推測シ得ル理ナリ從ツテ之ヲ利用セントスルニ當リテ相当ノ
 報酬ヲ出スニ外ナラス、而シテ同一額ノ貨幣價值ノ有スル生産力又ハ營利

力カ同一ナリシトスルモ之ヲ巧ニ利用スルト否トニヨリテ其ノ生産額等ニ
 差異ヲ生スルコトモ怪シムニ足ラサルコトナリ、但シ此處ニ所謂利子ハ通
 俗ニ云フ利子トハ稍意味ヲ異ニスルコトハ注意セサル可カラズ、

貸金ノ場合ニ於テハ之ヲ利用セシムルハ其返済ノ能否ヲ危ミテソノ危険ニ
 對シテ相当ノ保険料ヲ利子中ニ包含セシムルコト稀ナラス、換言スレハソ
 ノ債務者ノ信用極メテ厚キ殊ハ利子比較的ニ低クケレトモソノ信用厚カラ
 カル時ハ利子比較的ニ高キモノナリ、此ハ所謂利子中ニ保険料ヲ包含スル
 コリ生シ来レルコトナリ、又債権者カソノ貸借等ニ關聯シテナシタル労働
 ニ對シテ相当ノ報酬ヲ利子中ニ包含セシムルコトアリ、學者ハ是等ノ報酬
 ヲ包含シタルモノヲ純利子ト稱シ、純利子ヨリ區別セリ、是等ノ保険料等
 ハ性質異ルモノナレハ之ヲ姑ク措キテ上ニ述ヘシ所ハ純利子即經濟學上ノ
 利子ニ關スル解説ナリト云ハサル可カラズ、此ノ見地ヨリシテ生産力説ニ
 對スル批難ハ一理ハアレトモ採ルニ足ラサルナリ、
 利子存在ノ理由ハ生産力説ニヨリテ説明スルコトヲ得可シト信スレトモ古
 來此ノ點ニ付キテハ學說數多アリ、今其ノニミテ挙グレハ、拾葉説 *Adler*

Mace Thurg ト云ハルモノアリ *Senior* 等ノ學者ノ唱フル所ニシテ
 資本ニヨリテ生スル所ヲ見ルニ貸財ヲ所有スルモノカ之ヲ以テ直チニ慾望
 ヲ満足スルニ用テス。即慾望満足ノ快楽ヲ捨テテ之ヲ貯蓄シタルニ起ルモ
 ノナレハ其ノ快楽ヲ捨テタル犠牲ニ對シテ相当ノ報酬ヲ受クルモノナリト
 云フナリ。此ノ説ハ快楽ヲ捨テタリトノ道義心ニ根據ヲ求メントスルモノナ
 レトモ極メテ不完全ナル説明ナリト云ハサルヲ得ス。何トナレハ資本ヲ利
 用セシメテ利子ヲ精求スルコトヲ得ルモノハ此ノ説ニ從ハハ資本ヲ得ルカ
 屬ニハ相当ノ犠牲ヲ出シタルモノナラサル可カラズ。然レトモ社会ニ於ケ
 ル資本ノ成立ニハ必スシモ常ニ斯クノ如キ犠牲ノ伴ヘルモノニハ非ス而モ
 常ニ同一ノ報酬即利子ヲ精求スルモノナリ。故ニ利子存在ノ理由ハ是ヲ捨
 棄ナル犠牲ヲ以テ説明スルコト能ハサル可シ。

労働説、労働ヲ以テ利子存在ノ理由トナスモノナリ。此ノ説ヲ主張スル
 モノハ中ニモ數派アリ。一派ノ學者ハ資本ハ労働ノ結果ニ外ナラス、他人
 ノ總ニ労働スル時ハ之ニ對シテ相当ノ報酬ヲ受クルカ如ク労働ノ結果タル
 資本ヲ利用セシムル時ハ之ニ對シテ相当ノ報酬ヲ受テヘキモノナリト云フ

ナリ *Jones Mill* 等ノ採レル説ナリ。

最近キモノニシテ生産力説ハ資本ノ現實ニ生産等ニ及ボスカヲ以テ利子
 ヲ説明セントスルモノナルニ反シテ此ノ説ハ資本ノ起源ニ遊リテ労働ニヨ
 リテ説明セントスルモノナレトモ他人ノ爲ニ労働シタル者ハ之ニ對シテ報
 酬ヲ受クルハ労働ニ生産力アルカ爲ナレハ利子ヲ説明スルニ當リテ此ノ説
 ノ如ク解決スルコトハ生産力説ニ甚ク近キモノナリト云フコトヲ得。又同
 シク労働ニ依リテ利子存在ノ理由ヲ説明セントスルモノ中ニモ佛蘭西ノ
 經濟學者ハ資本ハ過去労働ノ結果ニ外ナラサレハ労働ノ結果ヲ直チニ消費
 セスシテ貯蓄シテ以テ生産等ニ使用スルハ先已心ヲ要ス是等ノ道義心ニ對
 シテ相当ノ報酬ヲ受テ可キモノナリト説明セリ。此ノ説ハ上述捨棄説ニ類ス
 ルモノナリト云フコトヲ得。

搾り取り説 (*ausbeutungstheorie*)

社会主義者ハ資本ヲ否認セルモ
 ノナルカ故ニ利子モ亦之ヲ否認セルモノナリ。資本ハ労働者カ当然其ノ手
 ニ收ム可キモノヲ奪ヒテ生シタルモノナリ。然ルニ其ノ資本ヲ有スル者カ
 更ニ之ヲ以テ他人ニ利用セシメテ報酬ヲ受ケントスルコトハ益々不合理ナ

リト云ハサルヲ得スト云フナリ。此ノ説ハ社会主義ソノモノヲ認ムルニ足
 ヲサル限リハ之ヲ主張スルコト能ハサルナリ。
 四ニハ價值ノ時差説ナリ。Böhm-Bawerkleハ既ニ上ニモ述ヘシ如ク
 現在ノ貨財ノ價值ト未來ノ貨財ノ價值トノ差異ヲ補填スルタメニ利子ヲ生
 シタルモノナリト説明セリ。價值ノ時差説ヲ應用セル所ハ頗ル巧妙ナレトモ
 價值論ヨリ云ハハ現在ノ貨財ハ常ニ必スシモ未來ノ貨財ノ價值ヨリモ小ナ
 ルモノナリト云フコト能ハス。若シ資本ヲ所有スル者ニシテ現在ハ之ヲ利
 用ス可キモノナキウ故ニ他人ノ希望ヲ容レテ之レヲ貸与シタリトセハ其ノ
 資本ノ其ノ時ニ於ケル價值ハ極メテ小ナル理ナリ。之ニ反シテ其ノ資本ノ
 返済ヲ請求シタル時ハ資本ノ價值ノ甚ク大ナル時ナリ。然ラハ斯ク如キ場
 合ニ於テハ價值ノ補填トシテ利子ヲ請求スルコト能ハサルカ如シ。此ハ極
 端ナル例ヲ挙ゲタルニ過キサレトモ此ノ理ヲ以テ利子ヲ説明セントスル時
 ハ利子歩合ノ如キハ常ニ移動アリテ到底之ヲ一定スルコト能ハサルモノナ
 ル可シ故ニ此ノ説明ハ甚ク巧妙ナルニ拘ハラヌ次シテ完全ナリト云フコト
 能ハス。故ニ予ハ是等ノ説ヲ採ラスシテ生産力説ニ從ヒテ利子ノ存在ヲ説

明セルナリ。

資本ハ生産又ハ營利ニ用ヰラルルハ貨幣價值ヲ示テ利子ハ他バテシテ是レヲ
 利用セシムルニ依リテ受ケル報酬ナリト云ハリ。然ラハ利子ハ生産又ハ營
 利ノ手段トシテ用ヰラルルハ貨幣價值ノミニ生ス可キモノニシテ前ニ挙ゲタ
 ルカ如キ消費ノ爲ニ爲シタル借金ニ對シテハ利子ヲ生セサルモノナルカト
 云フニ貨・價值ヲ借ル者ヨリ云ハハ或ハ單ニ消費ノ爲ニ用ヰルモノナルカ
 トモ知ラサレトモ債権者ヨリ云ハハ貨幣價值力資本トシテ利用セラルルコト
 ヲ原則トスルヲ以テ便令債務者力之ヲ消費ニ用ヒタルニモセヨ資本トシテ
 用ヒラレタル場合ニ準シテ報酬ヲ受ケヘキコトハ當然ナリ。從ソテ此ノ理
 ノ貸借ニ依キテモ其ノ目的物トナル貨幣價值ニ對シテ利子ヲ生スルモノナ
 リ。且ソ貨幣價值力資本トシテ利用セラルル場合ニハ之ヲ利用スルコトニ
 ヲリテ相当ノ利潤ヲ生ス可キコトヲ豫想シテ初メテ利用ス可キモノナレハ
 利子歩合ニシテ甚ク甚ク時ハ之ヲ爲ササル可シ。然ルニ債務者力之ヲ消費
 ニ用ヰル時ハ利潤等ヲ豫想スルモノナラサルカ故ニ債権者力之ヲ比較的高キ
 利子ヲ請求スルモ之ニ應ス可ク。又債権者ヨリ云フモ斯ク如キ貸借ハ危

險ノ程度大ナルモノナレハ上述ノ保険料トシテ多クノ報酬ヲ受ケサル可カ
 フス至多クノ場合ニ於テハ保険料トシテ受ク可キ報酬ガ却テ重要ナル位置
 フ占ムルコトアリ。
 資本トシテ用キラル、貨幣價值ハ貨幣ノ性質トシテ完全ニ代替性ヲ有スル
 モノナリ、代替性ヲ有ストハ其ノ債権ノ目的物ハ特定ノ貨財ノモノニ非
 ステ同一種類ノ貨財ノ一定量ヲ目的トセルモノナリト云フコトナリ、即
 其ノ市場ニ於ケル貨幣價值ハ一應ヲナセルモノナリト云フコトヲ得、從テ
 ア一一定時一定ノ市場ニ於テハ同一ノ利子ヲ生スルモノナリ、何ントナレハ
 債務者ハ何レノ貨幣價值ヲ利用スルモ其ノ効果ニ差異ヲ生ス可キモノナラ
 ガルカ故ニ若シ債権者ニシテ時ニ高利ヲ請求シタル時ハ債務者ハ他ノ債権
 者ヲ求メテ之ヲ借レ可シ、是リ資本ヲ利用スル場合ト比シ、如キ特定ノ土地
 リ生産力ヲ利用セシムル場合ト大ニ異ル所ナリ、加之貨幣價值ノ貸借ハ
 金銀貨幣ノ貸借ノミニヨリテ行ハル、モノニハ非スシテ信用制度ノ牽連セ
 ル今日ニ於テハ貨幣ニ代ル可キ信用證券ニヨリテ行ハルコトヲ示シ、故ニ
 此處ニハ貨幣ノ貸借ト云ハスシテ貨幣價值貸借ト云フ所以ナリ、又 *with-*

draw ハ貨幣ノ購買力ノ程度貸借ナリト説明セルモ其ノ意同シナルハシ、
 又 *withdraw* "meaning of money" 利子 歩合ハ資本ノ需要供
 給ニヨリテ定マルモノナルコトハ疑ヒナキモ莫ク資本ハ其ノ市場ニ於ケル
 貨幣價值ノ全体ニ非スシテ其ノ市ニ於テ相当ノ報酬ヲ出ス時ハ直チニ利用
 スルコトヲ得ル貨幣又ハ其ノ代用物ヲ意味スルモノナリ、故ニ假令ソノ回
 ニ於テ貨幣價值多シトモ利子歩合ハ低シト云フコト能ハス是等ノモノ、全
 部ヲ吾人ノ直接ニ利用スルコト能ハサルモノナレハナリ、而シテ是等ノ生
 産又ハ总利ニ用キラル、貨幣價值ハ銀行等ノ金融機關ノ媒介ニヨリテ貸借
 セラル、モノナレハ利子歩合ハ之等金融機關ノ手ヲ經テ授受スルコトヲ得
 ル貨幣價值ノ需要供給ニヨリテ定マルモノナリト云フコトヲ得、故ニ利子
 歩合ハ資金 (*loanable capital or lending capital*) ノ需
 要ト供給ノ一致スル所ニ定マルト云フナリ、理論上ヨリ云ハハ利子歩合ハ
 債務者カ其ノ資本ヲ利用シテ得可シト認識セル收益ヨリ高カル可キ道理ナ
 シ、債務者ハ資本ヲ利用シテ若干ノ利ヲ得ル望ミナキ時ハ之ヲ利用スル道
 理ナケレハナリ、又利子歩合ハ債権者カ其ノ資本ニ對シテ有スル價值ヨリ

下ルコトアラズ、債権者カ其ノ以下ニ於テ他人ヲシテ資本ヲ利用セシムル
 理ナケレハナリ、從ツテ利子歩合ハ以上ノニツノ限界ノ周ニ於テ需要多ク
 レハ前ノ供給多クハ低キ事ハ一般ノ價格決定ノ原則ニ異ラサルナリ、而
 シテ其ノ國ノ經濟進歩シテ資金ノ供給相当ニ考メアリトモ其ノ國ノ企業界
 カ活氣ヲ呈シ資金ニ對スル需要カ之レニ比シテ大ナル時ニハ利子歩合ハ高
 カラサル可カラズ、又其國ノ經濟進歩セズ資金ノ供給小ナル時ハ假令資
 金ニ對スル需要ハサマテ大ナラサルモ利子歩合ハ高カラサルヲ得サルナリ、
 故ニ、利子歩合ハ低キニシテ、其ノ國ハ經濟ハ状態ヲトズルコト能ハ
サルナリ、資金ノ需要供給ノ状態ヲ見テ初メテ之ヒテ知ルコトヲ得ルモ、
ナリ。

但シ大體ヨリスルハ經濟進歩スルニ從ヒテ利子歩合ハ漸次低落スヘキ傾向
 アリ、何トナレハ經濟未タ進歩セサル時ニハ資金ノ供給少ク其ノ需要ハ
 厚ク之ニ超過シ且ツ法律進歩シ居ラサルヲ以テ財產等ノ保障少キカ故ニ利
 子歩合高カラサルヲ得サレトモ經濟進歩スルニ從ヒテ資金ノ供給ハ増加シ
 之ニ對スル需要ハ少クナリ法律ノ保護ノ程度ハ益々厚クナレハナリ、而シ

テニ、ニ問題アリ、利子歩合ニシテ益々低落スルモノナリトモ其ノ限界
 如何ノ同類換言スレハ利子歩合ハ終ニハ全ク無ニナルヘキカノ問題ナリ、之
 ニ對シテ多クノ學者ノ説ニ從ヘハ資本ハ漸次増加スルモ利子歩合カ無ニナ
 ルカキゴトハ想像スルコト能ハス、何トナレハ利子歩合カ無ニナルコト
 ハ資本ノ價值ノ消滅スルコトヲ意味スルモノナリ、經濟社会ノ根底カ一新
 スレハ宅ニ自然ラサル限リハ之ヲ想像スルコト能ハス、然ラハ利子歩合ハ
 假令低下スルモ或ル程度ニ至レハソノ低落ヲ止ムヘキモノナリト云ハサル
 ヲ得ズ。

資金ハ經濟ノ進歩スルニ從ヒテ漸次増加スルコトハ疑ヲ容レサル所ナレト
 モ其ノ勢サマテ急激ナルモノニ非ス、之ヲ妨クル數多ノ原因アレハナリ、
 其ノ原因ノ主ナルモノヲ挙クレハ政府等々公債ヲ募集シテ生産的又ハ
 不生産的ニ用フルモノナレハ資金ハ再ヒ其ノ供給ヲ減スルノミナラス長等
 ノ資金ハ住宅学校等其ノ用途ハ社会的ニハ必要ナルニモセヨ經濟的ニハ不
 生産的モノニ用ヒラル、コト決シテ少カラズ、且ツ資金ノ可成大ナル部分
 ハ生産ニ固定セラル、モノナレハ長等ノ理由ヨリシテ資金ノ供給ハサマテ